



ISec サーバー システム管理者の手引き

バージョン 1 リリース 1

注意!

本書および本製品をお使いになる前に、まず127ページの「特記事項」に記載されている説明をお読みください。

第 1.2 版 (2008 年 9 月)

本書は、ISec サーバー バージョン 1 リリース 1 に適用されます。本版の内容については、将来変更されることがあります。

目次

本書について.....	v
本書の対象読者	v
ISec のマニュアル	v
本書の取り扱い(セキュリティ上の考慮点)	vii
第 1 章 ISecとは.....	1
1.1 ISec の構成	1
1.2 ISec ドライバーと ISec サーバーの概要	1
1.3 ISec のシステムを構築する手順	2
第 2 章 インストールの準備を行う.....	5
2.1 前提ソフトウェアをインストールする際の注意事項.....	5
2.2 インターネット インフォメーション サービス(IIS)を導入する	6
2.2.1 Windows Server 2003 および Windows Server 2003 R2 のとき	6
2.2.2 Windows Vista のとき	10
2.2.3 Windows XP Professional のとき.....	12
2.2.4 Windows 2000 Server および Windows 2000 Advanced Server のとき.....	17
2.2.5 Windows 2000 Professional のとき	22
2.3 Microsoft .NET Framework をインストールする.....	25
2.3.1 Windows Server 2003 R2 のとき	25
2.3.2 Windows Server 2003、Windows XP、Windows 2000 のとき	27
2.3.3 Windows Vista のとき	29
2.4 IBM DB2をインストールする.....	31
2.4.1 IBM DB2 Universal Database Express Edition V8.2 のとき	31
2.4.2 IBM DB2 V9.1 のとき	34
第 3 章 インストールとアンインストールを行う.....	39
第 4 章 ISec サーバーの設定を行う	41
4.1 ISec サーバーの設定ファイルを編集する	41
4.1.1 サーバー制御ファイル IBMISSVR.CFG を編集する.....	42
4.1.2 印刷枚数制御ファイル IBMISLIS.CFG を編集する.....	50
4.2 ISec データベースにユーザー情報を登録する	53
4.2.1 ISec データベース (ISECDB) の概要.....	53
4.2.2 ユーザー情報を登録する 2 つの方法.....	54
4.2.3 ISec サーバーをインストールした直後のユーザー情報テーブル	55
4.2.4 CSV ファイルを使ってユーザー情報を登録する	56

4.2.5	コントロール・センターでユーザー情報を直接登録、更新する	67
4.2.6	ユーザー情報テーブルのフォーマット	70
4.3	「ソフトウェアの自動更新」を設定する	74
4.3.1	「ソフトウェアの自動更新」の概要	74
4.3.2	自動配布する ISec ドライバーを ISec サーバーに準備する	75
4.3.3	「ソフトウェアの自動更新」のためにポーリングを行うタイミング	77
4.3.4	「ソフトウェアの自動更新」の注意事項	78
4.4	「ドライバー設定の自動更新」を設定する	79
4.4.1	「ドライバー設定の自動更新」の概要	79
4.4.2	自動配布するドライバー設定ファイルを ISec サーバーに準備する	80
4.4.3	「ドライバー設定の自動更新」のためにポーリングを行うタイミング	82
4.4.4	「ドライバー設定の自動更新」の注意事項	83
第 5 章	Web ページを使う	85
5.1	ログインページを表示する	85
5.1.1	ログインページの URL (アドレス)	85
5.1.2	ISec サーバーの起動直後にログインページを表示する	85
5.1.3	ISec サーバーにログインする	86
5.2	システム管理者が Web ページで行う作業	86
5.3	環境設定を変更する	87
5.4	印刷状況を表示する	92
5.4.1	印刷ジョブの内容を表示する	96
5.4.2	印刷ジョブ情報をダウンロードする	101
5.5	印刷ログを削除する	102
5.6	ユーザーを管理する	104
第 6 章	困ったときには	111
6.1	よくある質問と回答	111
6.2	イベントログを記録する	120
6.3	トレース情報を取得する	120
6.4	ISec サーバーを手動でアンインストールする	120
6.5	問題報告時にお知らせいただきたい情報	125
特記事項	127
商標	127

本書について

本書は、InfoPrint™ Security（以下 ISec [アイセック]と呼びます）のサーバーのシステム管理について説明します。

本書の対象読者

ISec サーバーを管理するシステム管理者を対象としています。

ISec のマニュアル

ISec には、次のマニュアルと資料があります。

ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド

- 内容

ISec 全体の機能概要と、ISec ドライバー（クライアント PC にインストールする ISec のプログラム）の使い方を説明しています。

- 対象読者

すべてのユーザーが対象です。一般ユーザーだけでなく、システム管理者向けの情報も含まれています。

- 表示方法

ISec ドライバーの設定画面（プロパティおよび印刷設定画面）の「ヘルプ」ボタンをクリックすると表示されます（プロパティの一部のタブでは「ヘルプ」ボタンが無効になっています）。

ISec サーバー ユーザーズ・ガイド

- 内容

ISec サーバー（サーバー・コンピューターにインストールする ISec のプログラム）の使い方を説明しています。

- 対象読者

一般ユーザーとグループ管理者が対象です。システム管理者向けの情報は含まれていません。

■ 表示方法

Web ブラウザーを使って ISec サーバーの Web ページにログインします。画面の右上に表示されている「ヘルプ」をクリックすると、表示されます。

ISec サーバー システム管理者の手引き

■ 内容

本書です。ISec サーバーのシステム管理について説明しています。

■ 対象読者

システム管理者が対象です。

■ 表示方法

ISec サーバーの配布パッケージに入っています。ファイル名は IBMISSAG.PDF です。ISec サーバーをインストールすると、このファイルはインストール先フォルダーに複写されます。

「ISec サーバー システム管理者の手引き」を読むためには、インターネットで無料配布されている Adobe Reader が必要です。

README

■ 内容

ISec のインストール方法、アンインストール方法、使用条件、注意事項などが書かれています。ISec ドライバー用と ISec サーバー用があります。

■ 対象読者

システム管理者が対象です。

■ 表示方法

配布パッケージ(インストール CD など)に入っています。ファイル名は次のとおりです。メモ帳などで開いてください。

README.TXT (ISec ドライバー 基本機能)

README_PV.TXT (ISec ドライバー 印刷枚数管理機能)

README.TXT (ISec サーバー 基本機能)

README_PV.TXT (ISec サーバー 印刷枚数管理機能)

これらのファイルは、インストール時に、プログラムのインストール先フォルダーにコピーされます。デフォルトでは次のとおりです。

ISec ドライバー: C:\Program Files\IBM\ISec

ISec サーバー: C:\Inetpub\wwwroot\ISec

本書の取り扱い（セキュリティ上の考慮点）

本書には、ユーザー管理や印刷ログの管理に関する情報が含まれています。システム管理者の権限を持つデフォルトのユーザー名などの情報も含まれているため、一般のユーザーの目に触れない、安全な場所に保管してください。ハードディスクに本書のファイルを保管するときは、一般ユーザーがアクセスできないフォルダーに保管してください。

システム管理者の権限を持つデフォルトのユーザー名またはパスワードは、ISec サーバーのインストール後に、直ちに変更してください。

第1章 ISec とは

ISec は、オフィス印刷のセキュリティを強化するソフトウェアです。

1.1 ISec の構成

ISec は、ISec ドライバーと ISec サーバーで構成されています。

ISec は、導入する単位(フィーチャー)として次の 4 つがあります。

- ISec ドライバー 基本機能
- ISec ドライバー 印刷枚数管理機能
- ISec サーバー 基本機能
- ISec サーバー 印刷枚数管理機能

印刷枚数管理機能をインストールするためには、あらかじめ基本機能をインストールしておく必要があります。これは ISec ドライバーと ISec サーバーの両方に共通です。

基本機能と印刷枚数管理機能をサーバー側とクライアント側にインストールするときは、次のように組み合わせに注意してください。

- サーバー側に基本機能だけをインストールしたときは、クライアント側も基本機能だけをインストールします。
- サーバー側に基本機能と印刷枚数管理機能をインストールしたときは、クライアント側も基本機能と印刷枚数管理機能をインストールします。

1.2 ISec ドライバーと ISec サーバーの概要

以下は、ISec ドライバーと ISec サーバーの概要です。

■ ISec ドライバー

ISec ドライバー (IBM ISec Driver) は、クライアント PC にインストールするプログラムです。ISec ドライバーをインストールすると、「IBM ISec Driver」というプリンター・ドライバーが PC に追加されます。ISec ドライバーは、クライアント PC で「誰が」「何を」「いつ」「何ページ」印刷出力したかという情報を ISec サーバーに送信します。

■ ISec サーバー

ISec サーバーは、サーバー・コンピュータにインストールするプログラムです。ISec サーバーは ISec ドライバーから送信された情報をデータベースに蓄積します。蓄積された情報は、

ISec サーバーの Web ページを表示することで、クライアント PC から容易に確認できます。

ISec ドライバーと ISec サーバーは、同一のコンピュータにインストールできます。しかし、通常は、次のように運用してください。

- ISec ドライバーは、エンドユーザーが使う複数のクライアント PC にインストールします。
- ISec サーバーは、比較的処理能力が高いサーバー・コンピュータにインストールします。

ISec ドライバーについて、詳しくは「ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

ISec サーバーについて、詳しくは「ISec サーバー ユーザーズ・ガイド」および本書を参照してください。

1.3 ISec のシステムを構築する手順

ISec システムを評価用に構築する手順の概要を説明します。本番システム(業務システム)の運用を開始する前に、評価を効率よく行うための目安とお考えください。本番システムの構築にあたっては、次の点を事前に慎重に検討してください。

- システム要件(キャパシティ要件やパフォーマンス要件を含む)の定義。
- システム要件に基づくハードウェア(CPU、メモリー、ハードディスクなど)の準備。
- ISec サーバーをインストールするコンピュータで、次のソフトウェアが既に動作しているときは、ISec サーバーと問題なく共存できることを事前に確認する必要があります。
 - (1) IBM DB2
 - (2) IIS (Internet Information Service) を利用する Web サーバー(HTTP サーバー)
 - (3) IIS 以外(WebSphere など)を利用する Web サーバー(HTTP サーバー)
- 構築後の ISec システムの運用・保守方法。

クライアント PC とサーバー・コンピュータで行うすべての作業は、Windows に管理者権限 (Administrator) でログオンして行ってください。

- (1) 評価用のサーバー・コンピュータとクライアント PC を用意してください。
- (2) ISec ドライバーをクライアント PC にインストールしてください。詳しくは、ISec ドライバーの配布パッケージ(インストール CD など)に入っている README.TXT ファイルを参照してください。
- (3) ISec ドライバーをインストールすると、『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』を参照できるようになります。『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』の冒頭を参照し、ISec 全体の機能概要、

構成、前提条件などをご確認ください。『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』の表示方法は、本書の冒頭を参照してください。

- (4) ISec サーバーをサーバー・コンピューターにインストールする前に、前提のソフトウェアをサーバー・コンピューターにインストールしてください。詳しくは、本書第 2 章の『インストールの準備を行う』を参照してください。
- (5) ISec サーバーをサーバー・コンピューターにインストールしてください。詳しくは、本書第 3 章の『インストールとアンインストールを行う』を参照してください。
- (6) この段階で、ISec サーバーの Web ページが表示できるようになります。Web ページを実際に表示し、ログインしてメニュー構成などを確認してください。ISec サーバーのインストール直後は、ISec データベースにユーザーを登録していません。この状態で利用できるデフォルトのユーザー名については、本書4.2.3節の『ISec サーバーをインストールした直後のユーザー情報テーブル』を参照してください。
- (7) ISec サーバーにユーザーを登録します。詳しくは、本書4.2節の『ISec データベースにユーザー情報を登録する』を参照してください。この段階では、ISec サーバーの設定はデフォルトのままでかまいません。
- (8) ISec ドライバーの設定画面で、ISec サーバーの IP アドレスを設定してください。ISec ドライバーのプロパティの「接続設定」タブで行います。詳しくは、『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- (9) この段階で、ISec ドライバーと ISec サーバーの通信が可能になります。ISec ドライバーを使って印刷を行ってください。印刷時に、ISec ドライバーの印刷設定画面で実際の出力先プリンターを必ず確認してください。デフォルトの設定で印刷を行うと、クライアント PC に「送信完了メッセージ」が表示されます。詳しくは、『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- (10) ISec ドライバーで行った印刷のログが ISec サーバーに記録されています。ISec サーバーの Web ページにログインして、印刷ログを確認してください。Web ページの操作方法は、『ISec サーバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- (11) 以上で、ISec ドライバーと ISec サーバーの動作を確認できました。
以後は、ISec ドライバーと ISec サーバーの両方で詳細な設定を行い、ISec の全機能を確認してください。
■ ISec ドライバーの設定については、『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
■ システム管理者が、ISec サーバーの設定ファイルを使って行う設定については、本書第

4 章の『ISec サーバーの設定を行う』を参照してください。

■ システム管理者が Web ページで行う作業については、本書第 5 章の『Web ページを使う』を参照してください。

■ (一般の)ユーザーとグループ管理者が Web ページで行う作業については、『ISec サーバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

(12) ISec の使用に際して問題が起きたときは、次の情報を参照してください。

■ 『ISec サーバー システム管理者の手引き』(本書)第 6 章の『困ったときには』

■ 『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』の『困ったときには』

■ 『ISec サーバー ユーザーズ・ガイド』の『困ったときには』

第2章 インストールの準備を行う

ISec サーバーをインストールする前に、Windows に管理者権限でログオンし、以下の前提ソフトウェアをインストールしてください。インストールは、必ず以下の順序に従って行ってください。

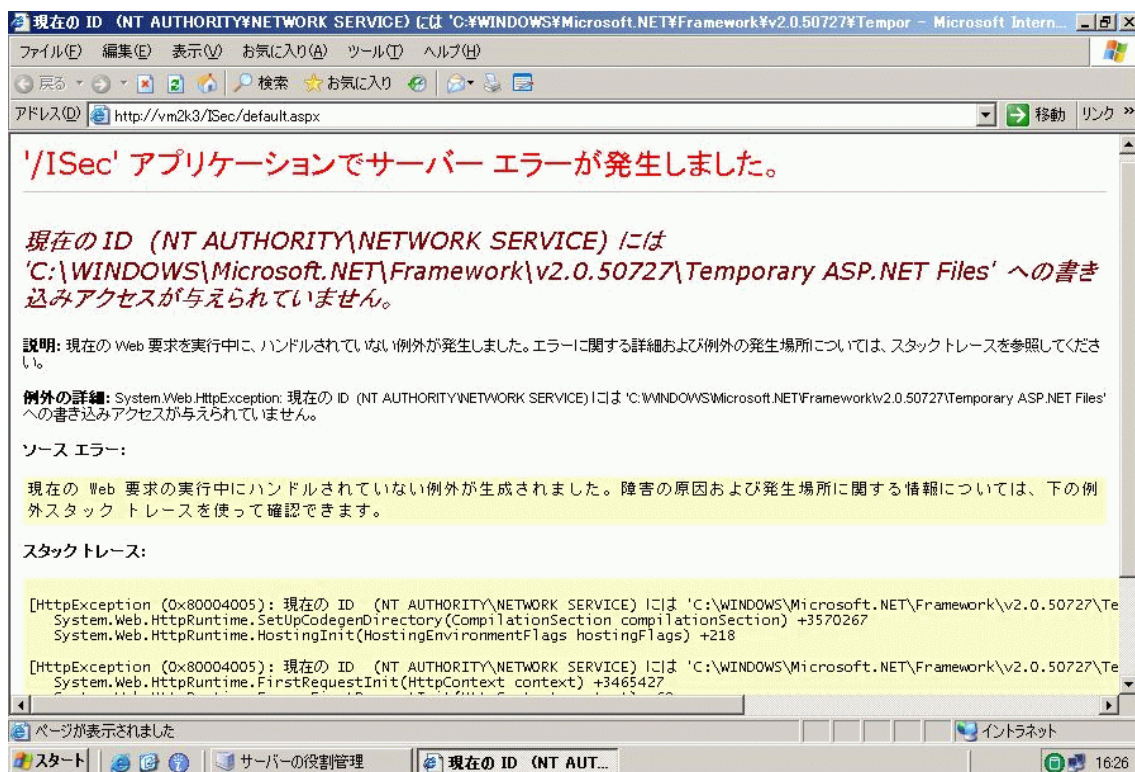
- (1) インターネット インフォメーション サービス(IIS)
- (2) Microsoft .NET Framework 2.0 または 3.0
- (3) IBM DB2

以上のソフトウェアをインストールした後、ISec サーバーをインストールする方法については、第 3 章の『インストールとアンインストールを行う』を参照してください。

2.1 前提ソフトウェアをインストールする際の注意事項

次の点に注意してください。

1. ISec サーバーを Windows Server 2003 の Active Directory のドメインコントローラーで動作させるときは、Dcpromo.exe を使ってメンバーサーバーをドメインコントローラーに昇格させた後で、インターネットインフォメーションサービス(IIS)をインストールしてください。
IIS をインストールしてから Dcpromo.exe を実行すると、ISec サーバーの Web ページへのログオン時に、次のエラーが表示されることがあります。



2. もしも上記のエラーが表示されたときは、以下のようにしてください。

(1) .NET Framework のフォルダーに `cd` コマンドで移動してください。

.NET Framework のフォルダーは、デフォルトでは次のとおりです。

`C:\WINDOWS\Microsoft.NET\Framework\バージョン番号`

(2) 次のコマンドを実行して、必要なアクセス権を「NETWORK SERVICE」に与えてください。

`aspnet_regiis -ga "NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE"`

2.2 インターネット インフォメーション サービス(IIS)を導入する

Windows のコンポーネントであるインターネット インフォメーション サービス(IIS)の導入方法を説明します。

2.2.1 Windows Server 2003 および Windows Server 2003 R2 のとき

次の手順で、インターネット インフォメーション サービス(IIS)を導入してください。

1. Windows の「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」を選び

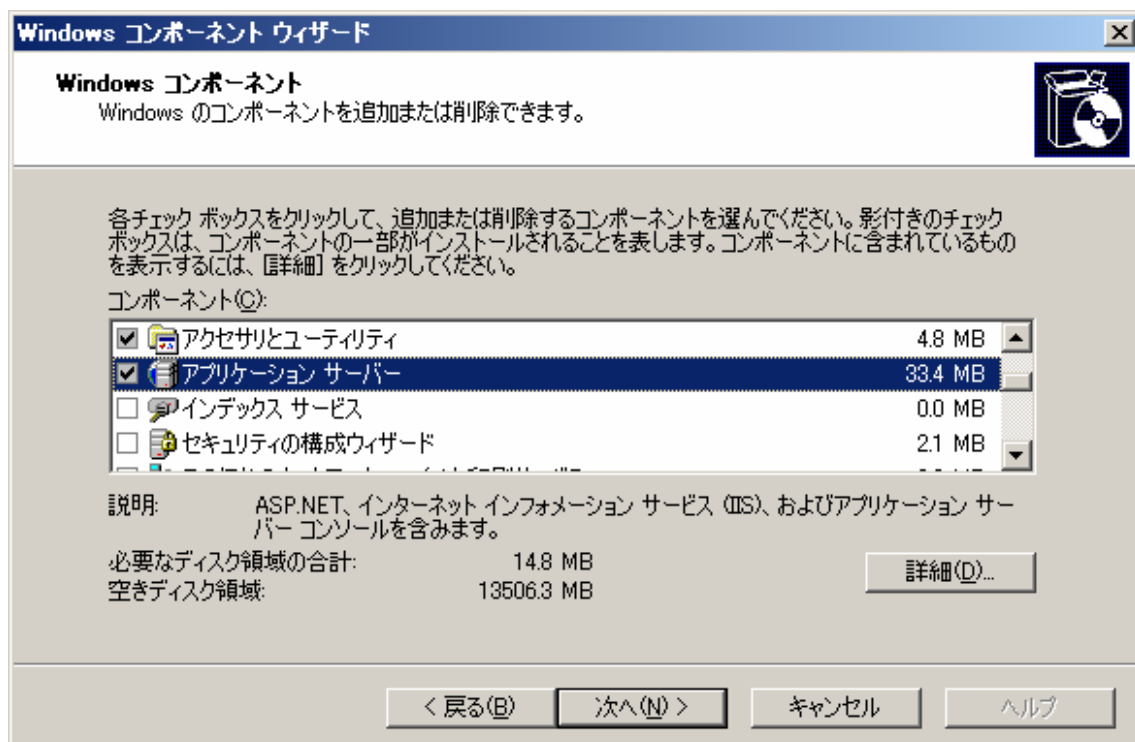
ます。



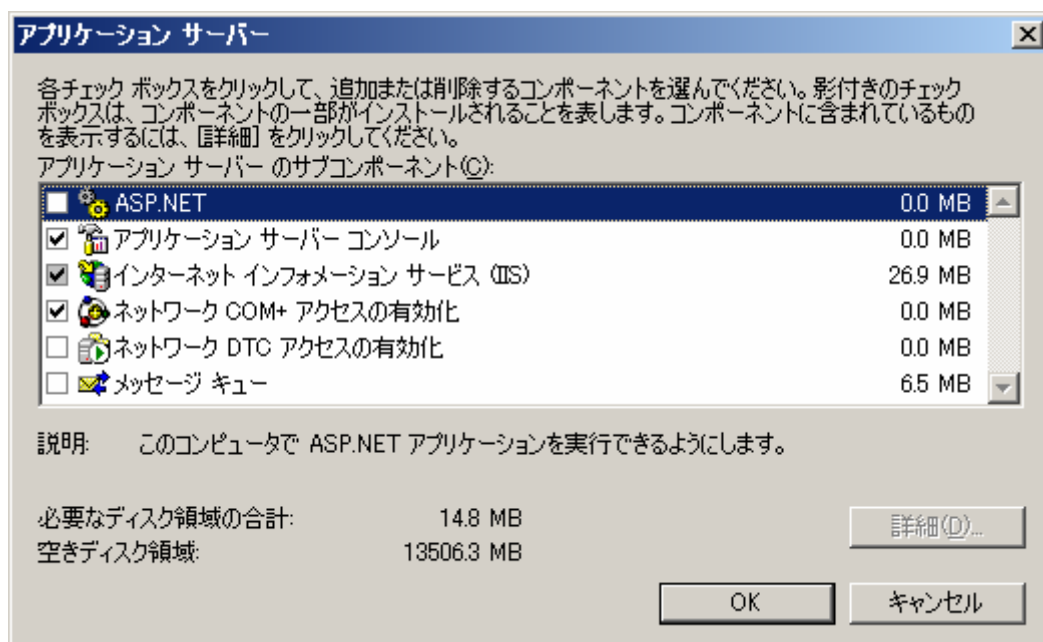
2. 「Windows コンポーネントの追加と削除」を選びます。



3. 「アプリケーション サーバー」にチェックマークを付けてから、「詳細」ボタンをクリックします。



4. 「ASP.NET」にチェックマークを付け (ほかはデフォルトのまま)、 「OK」ボタンをクリックします。



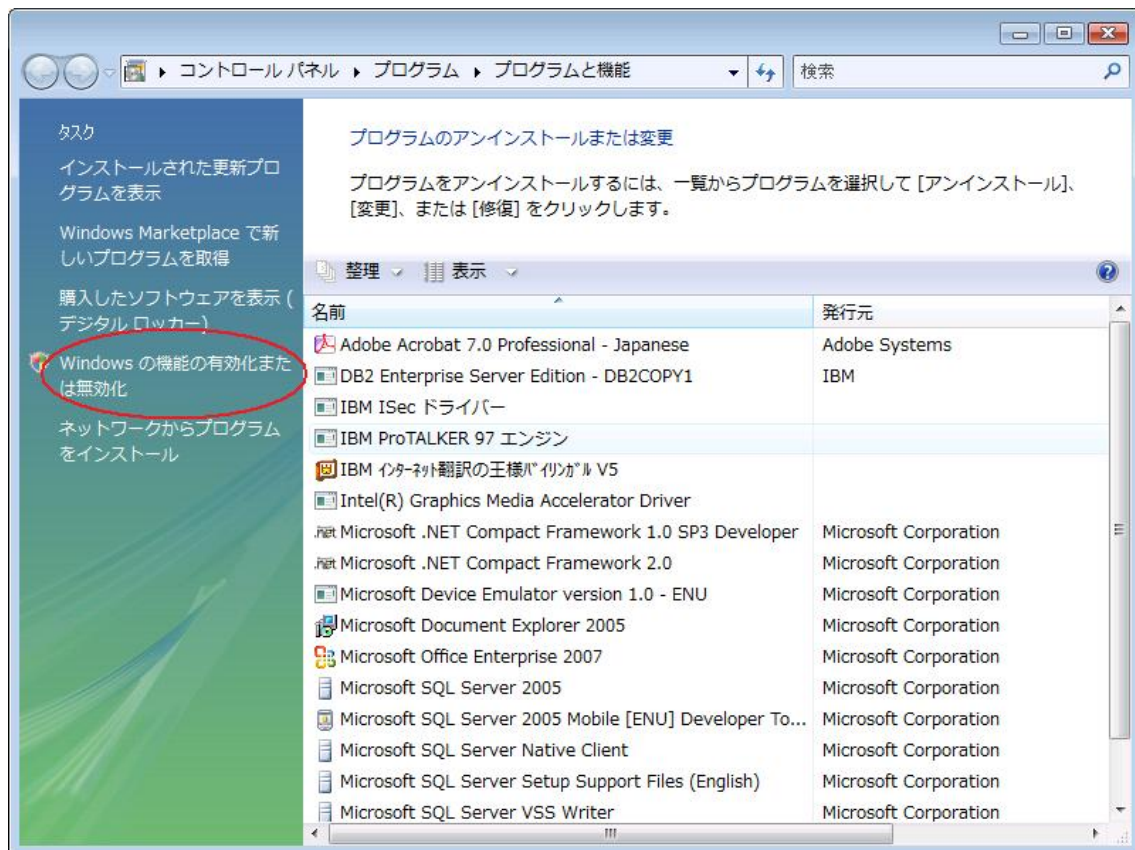
5. 画面の指示に従ってインストールしてください。途中で Windows の CD をセットするように指示されることがあります。
6. 「Windows コンポーネント ウィザードを正しく完了しました」というメッセージが表示されます。
以上で、インターネット インフォメーション サービス(IIS)のインストールが完了しました。



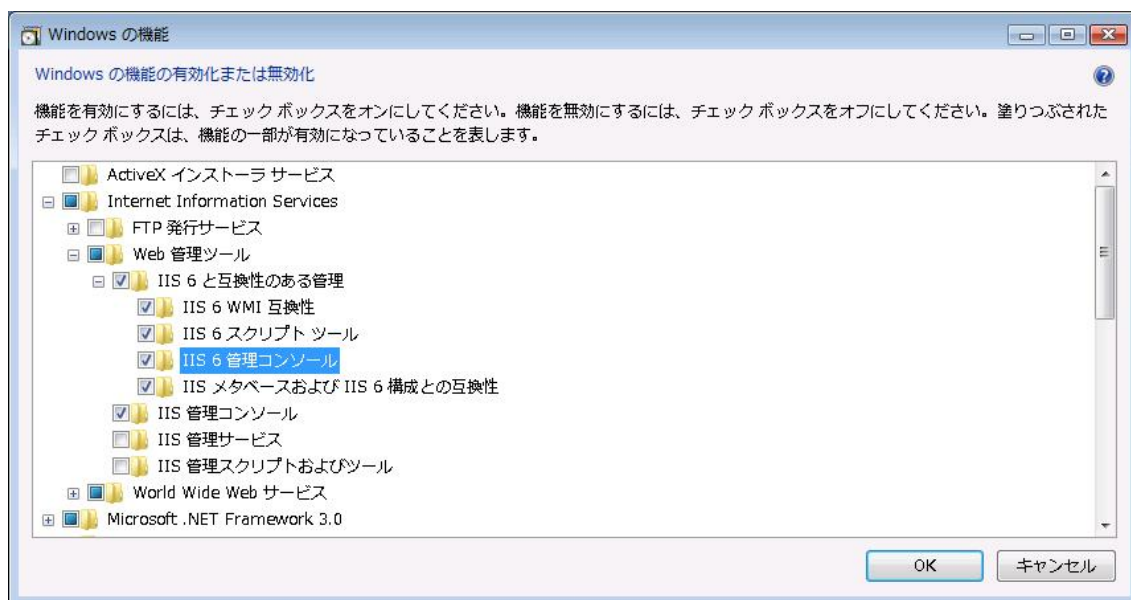
2.2.2 Windows Vista のとき

次の手順で、インターネット インフォメーション サービス(IIS)を導入してください。

1. Windows の「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を選びます。
2. 「Windows の機能の有効化または無効化」を選びます。



3. 「Internet Information Services」の左の「+」をクリックして、下位の項目を展開します。さらに「Web 管理ツール」の左の「+」をクリックし、下位の「IIS 6 と互換性のある管理」の左の「+」をクリックします。「IIS 6 と互換性のある管理」の下位にある全項目にチェックを入れてください。さらに、「IIS 管理コンソール」にチェックを入れてください。



4. 「Microsoft .NET Framework 3.0」の左の「+」をクリックして、下位にある全項目にチェックを入れてください。
5. 「OK」ボタンをクリックし、画面の指示に従ってください。

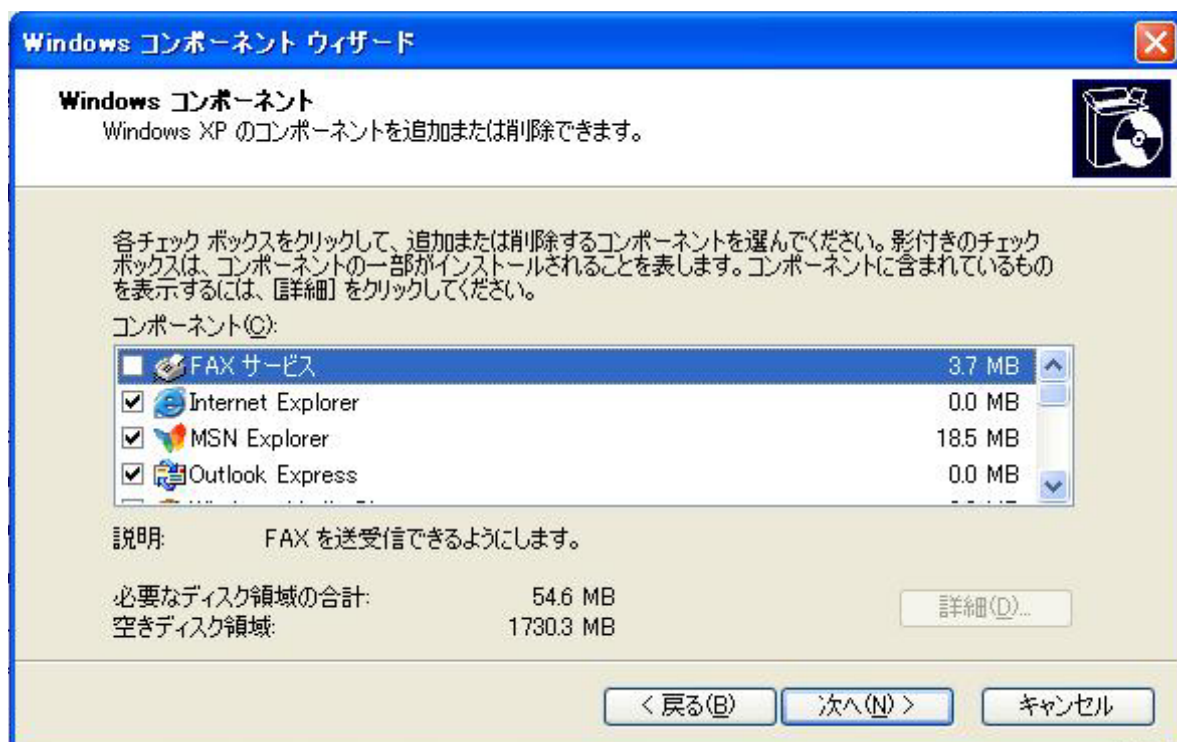
2.2.3 Windows XP Professional のとき

次の手順で、インターネット インフォメーション サービス (IIS) を導入してください。

1. Windows の「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」を選びます。



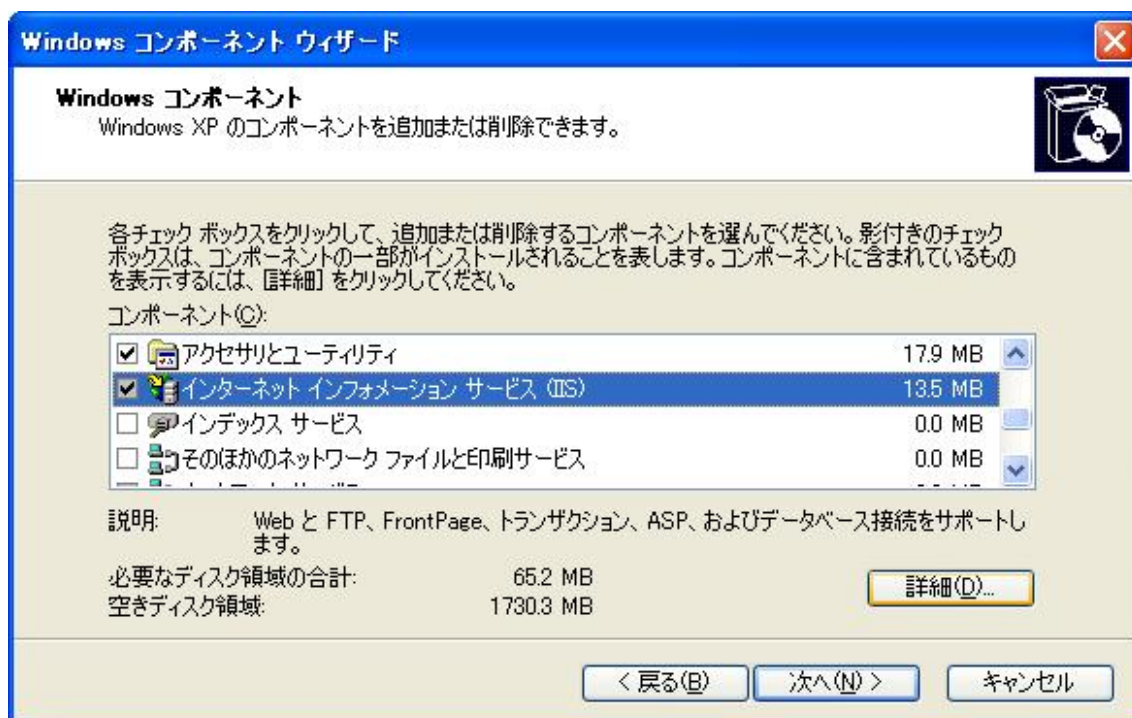
2. 「Windows コンポーネントの追加と削除」を選びます。



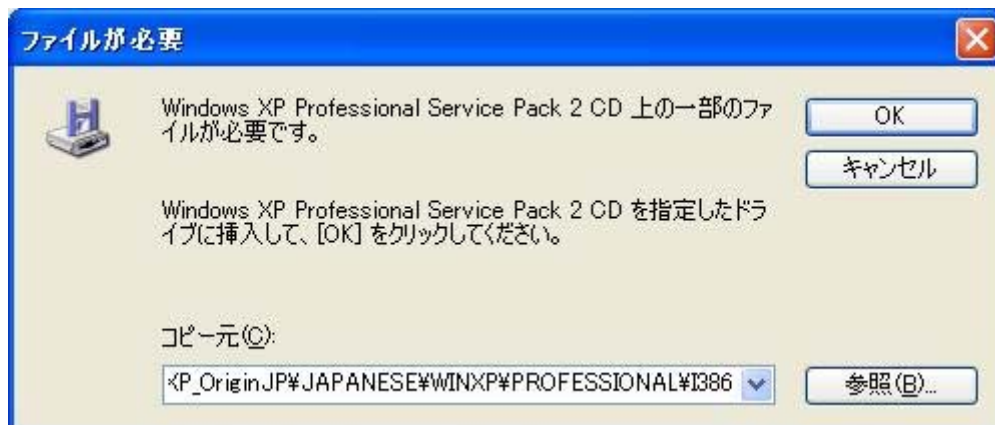
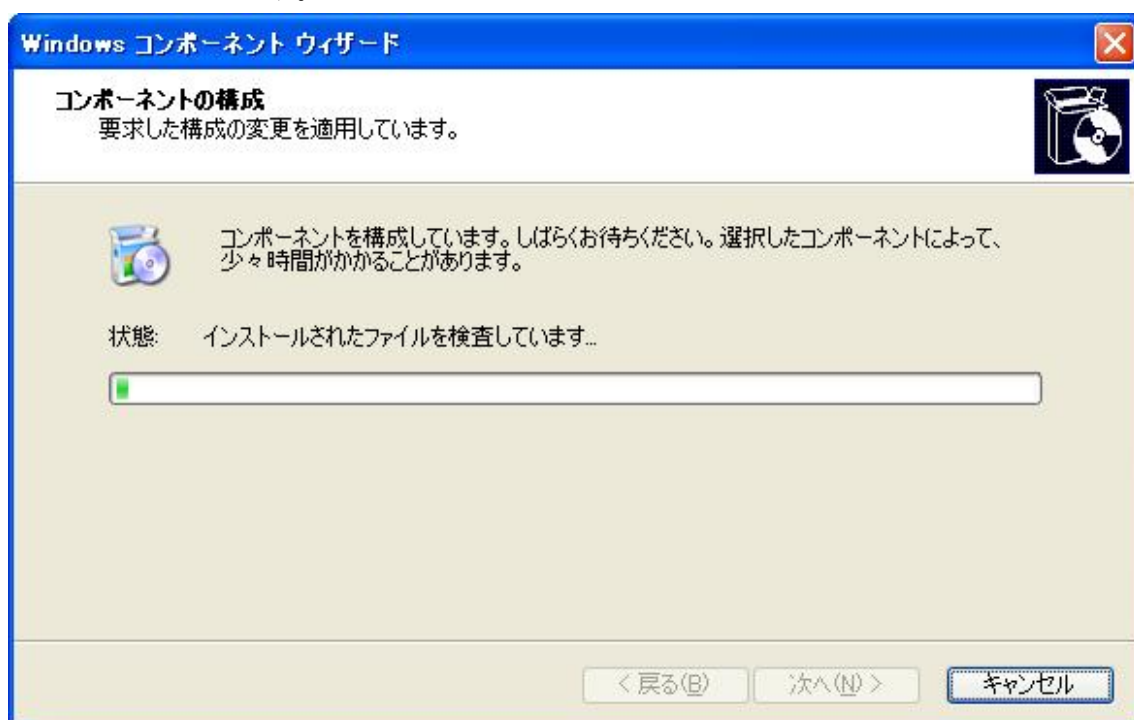
3. 「インターネット インフォメーション サービス(IIS)」を 1 回クリックします。チェックボックスにチェックマークが付き、グレーになります。「次へ」ボタンをクリックします。

【注意】

チェックボックスがグレーになっているのは、「詳細」ボタンを押したときに選択している項目と選択していない項目の両方があることを示しています。「インターネット インフォメーション サービス(IIS)」の詳細はデフォルト(既定値)のままでインストールしてください。



4. 画面の指示に従ってインストールしてください。途中で Windows の CD をセットするように指示されることがあります。



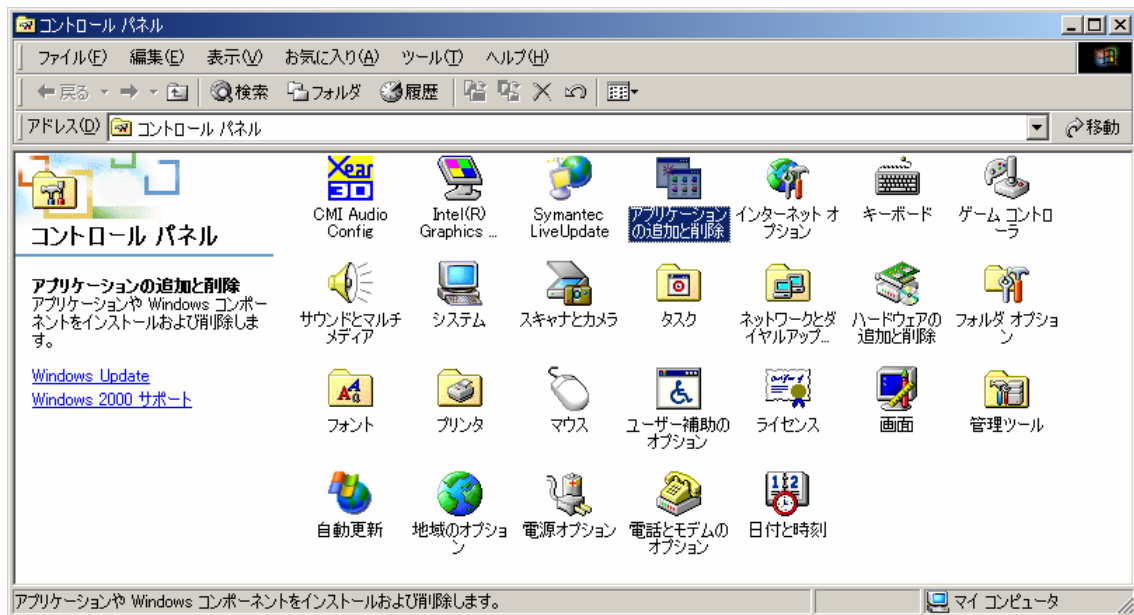
5. 「Windows コンポーネント ウィザードを正しく完了しました」というメッセージが表示されます。
以上で、インターネット インフォメーション サービス(IIS)のインストールが完了しました。



2.2.4 Windows 2000 Server および Windows 2000 Advanced Server のとき

次の手順で、インターネット インフォメーション サービス(IIS)を導入してください。

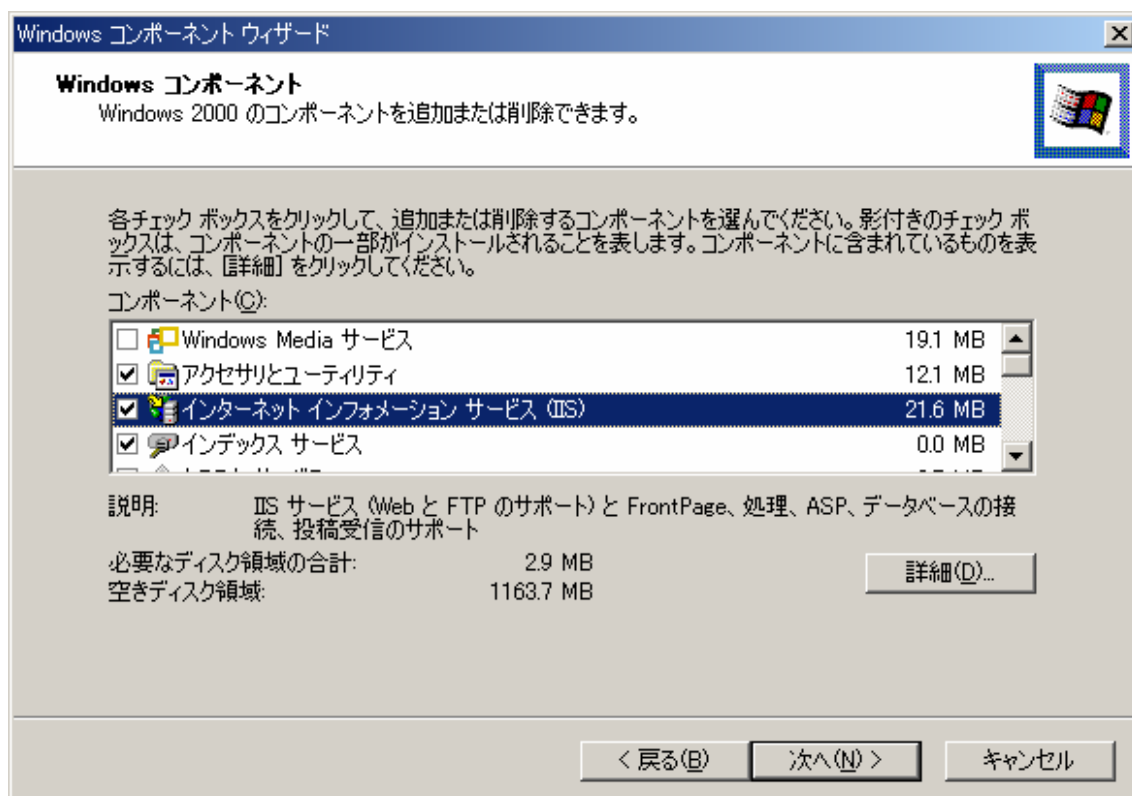
1. Windows の「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」を選びます。



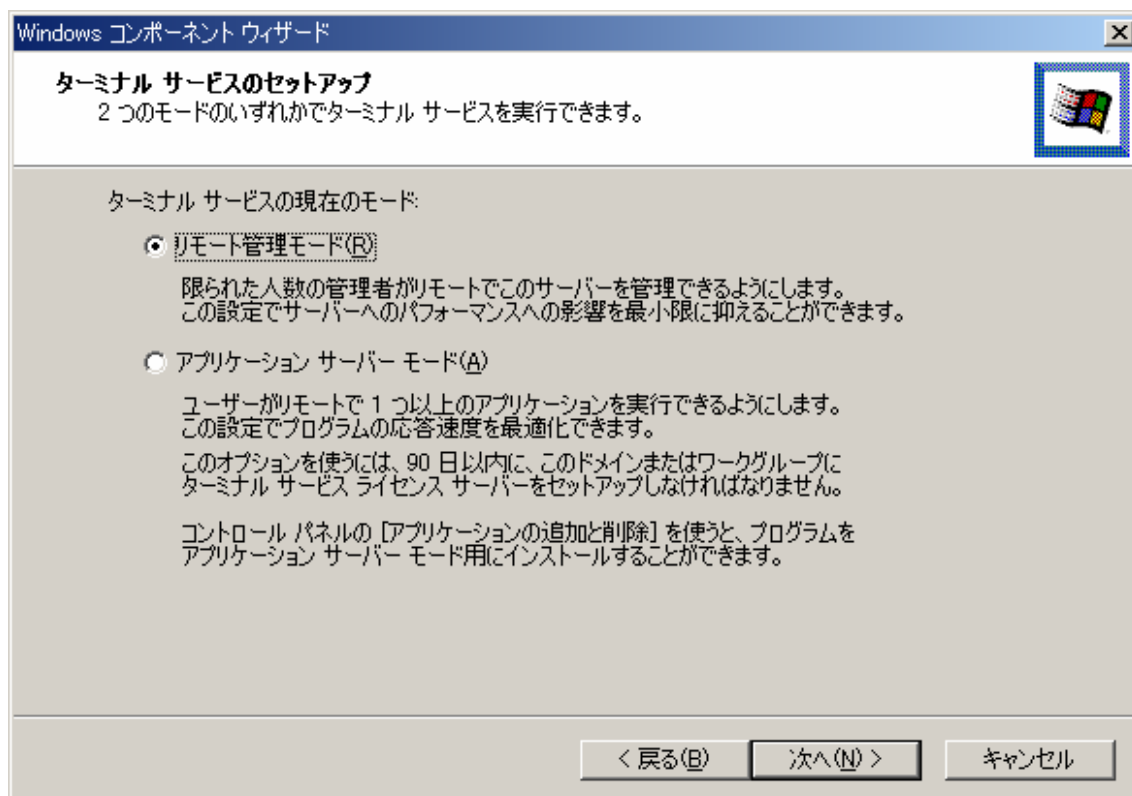
2. 「Windows コンポーネントの追加と削除」を選びます。



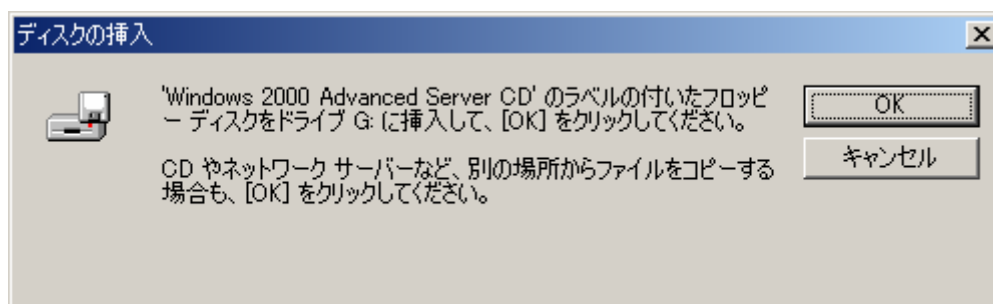
3. 「インターネット インフォメーション サービス (IIS)」にチェックマークを付けてから、「次へ」ボタンをクリックします。初めからチェックマークが付いているときは、そのまま「次へ」ボタンをクリックしてください。



4. ターミナルサービスのモードを選択する画面が表示されることがあります。どちらかを選択して「次へ」ボタンをクリックします。



5. 画面の指示に従ってインストールしてください。途中で Windows の CD をセットするように指示されることがあります。



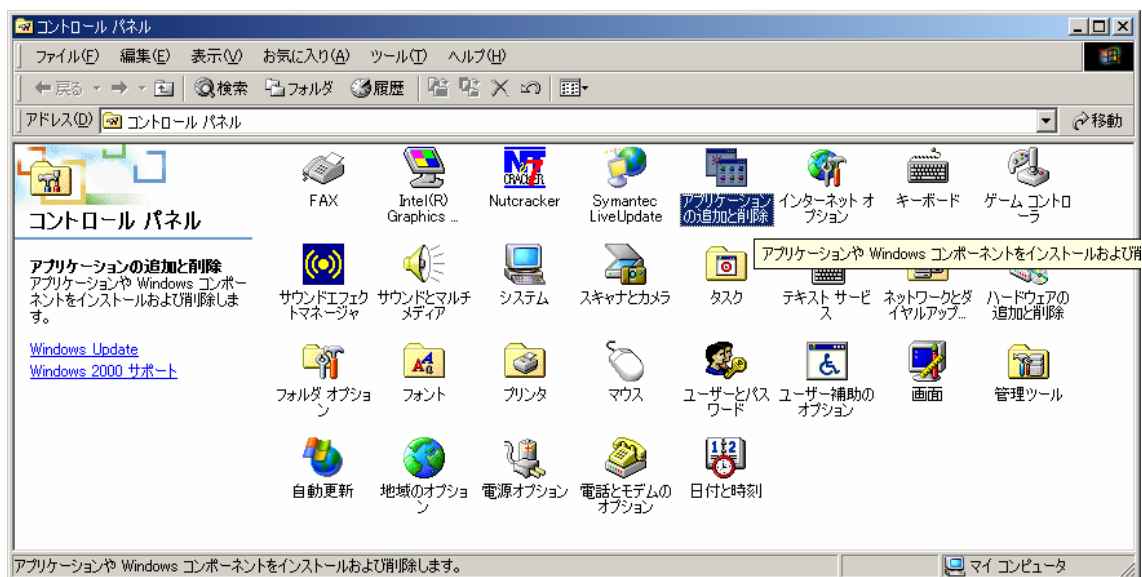
6. 「Windows コンポーネント ウィザードを正しく完了しました」というメッセージが表示されます。
以上で、インターネット インフォメーション サービス(IIS)のインストールが完了しました。



2.2.5 Windows 2000 Professional のとき

次の手順で、インターネット インフォメーション サービス(IIS)を導入してください。

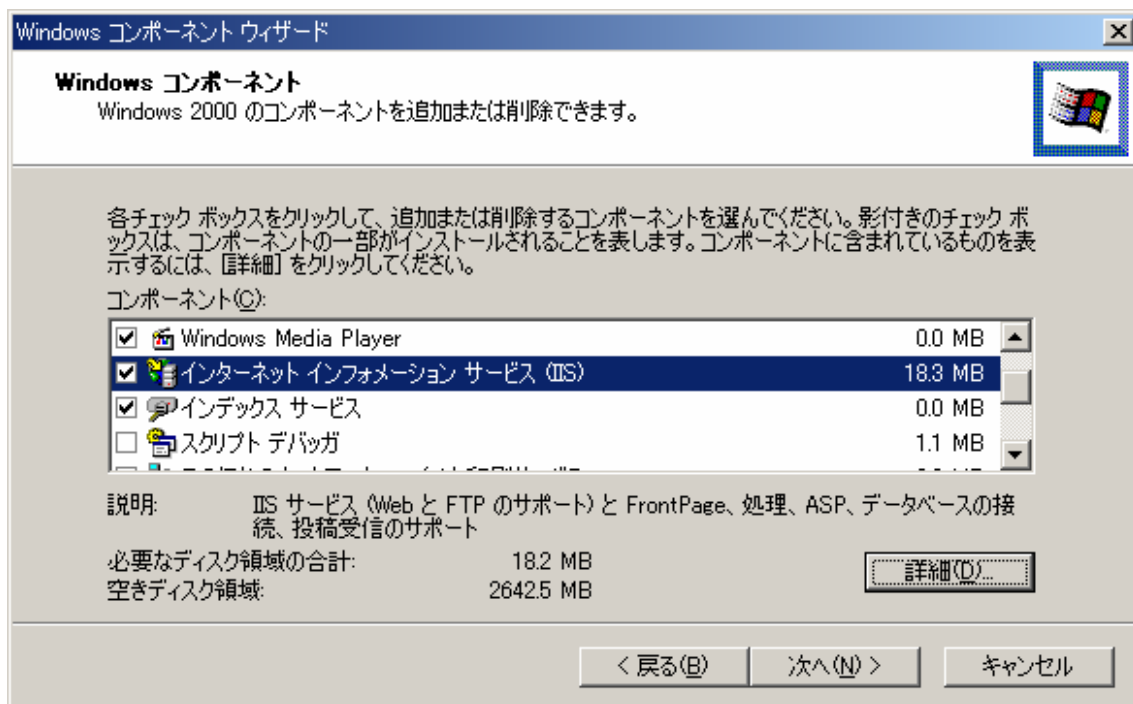
1. Windows の「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」を選びます。



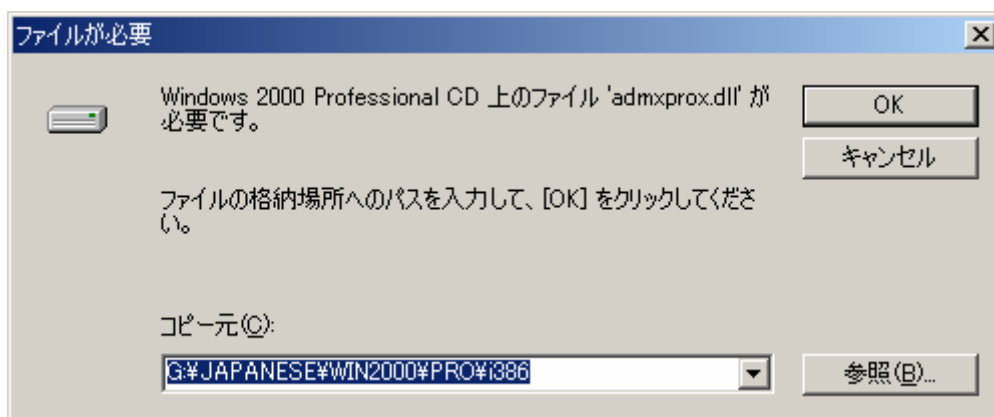
2. 「Windows コンポーネントの追加と削除」を選びます。



3. 「インターネット インフォメーション サービス (IIS)」にチェックマークを付けてから、「次へ」ボタンをクリックします。初めからチェックマークが付いているときは、そのまま「次へ」ボタンをクリックしてください。



4. 画面の指示に従ってインストールしてください。途中で Windows の CD をセットするように指示されることがあります。



5. 「Windows コンポーネント ウィザードを正しく完了しました」というメッセージが表示されます。
以上で、インターネット インフォメーション サービス(IIS)のインストールが完了しました。



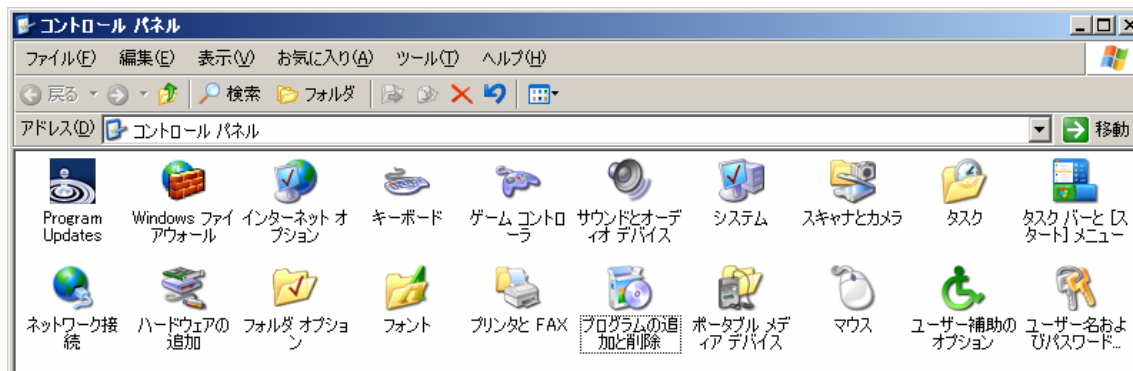
2.3 Microsoft .NET Framework をインストールする

Microsoft .NET Framework 2.0 または 3.0 の導入方法を説明します。

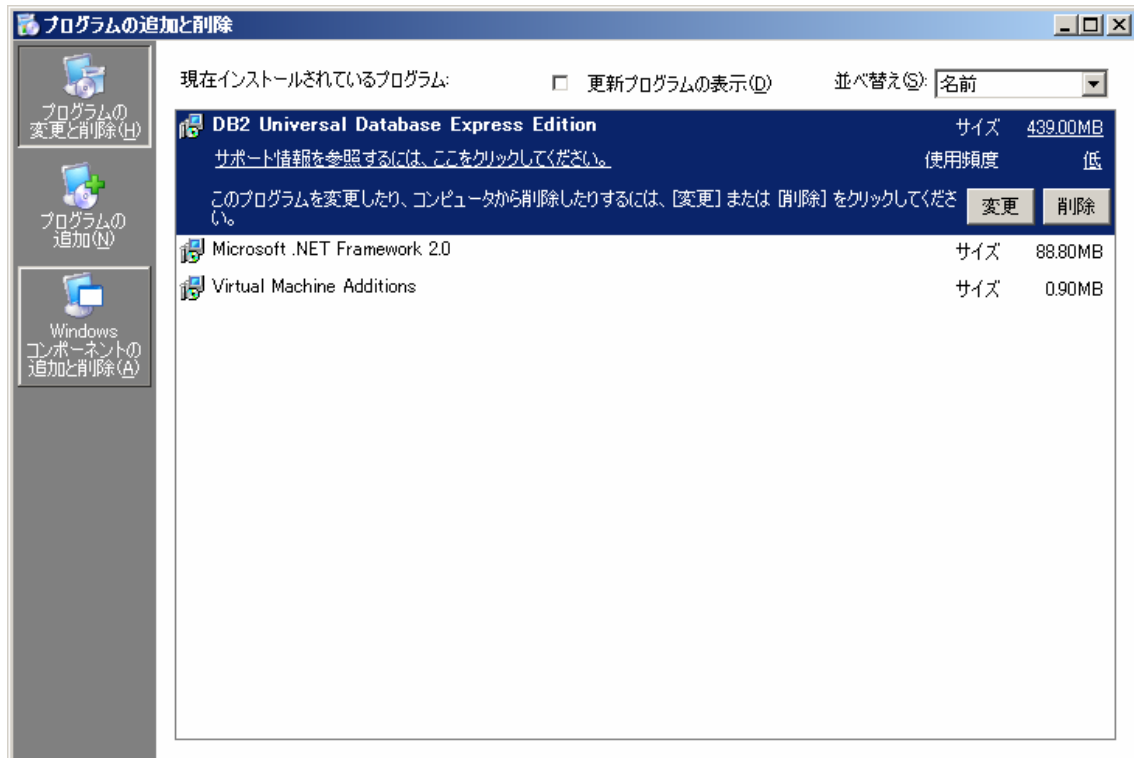
2.3.1 Windows Server 2003 R2 のとき

次の手順で、Microsoft .NET Framework 2.0 を導入してください。

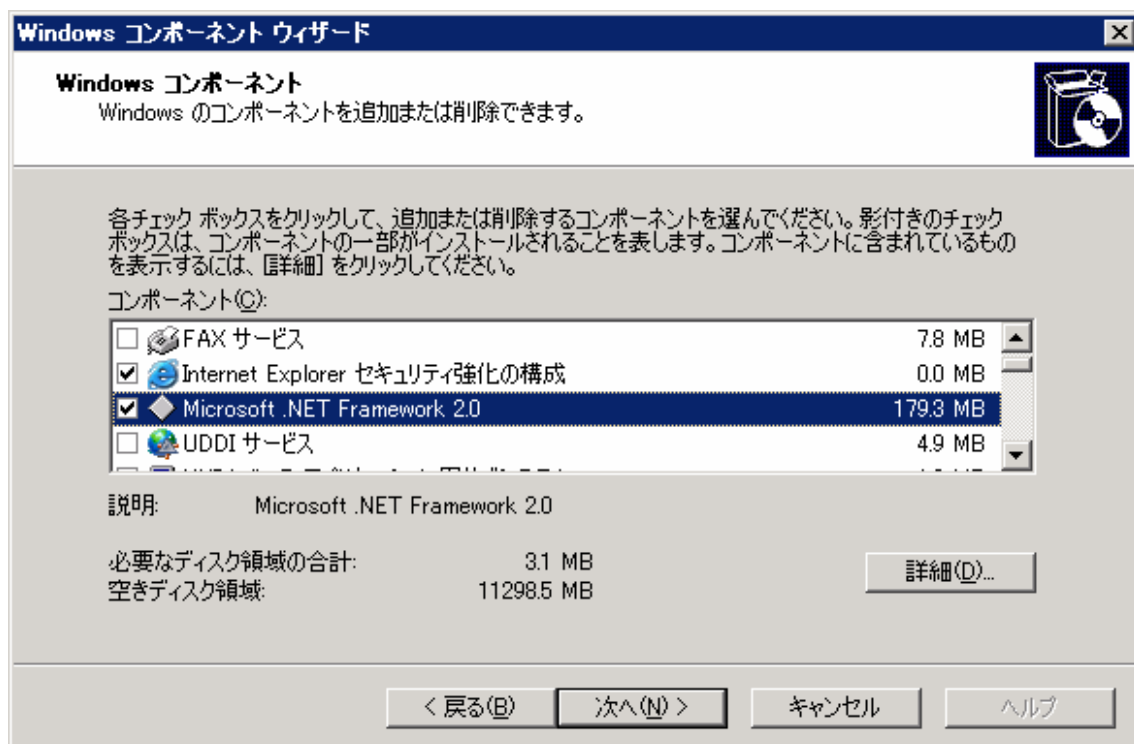
1. Windows の「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」を選びます。



2. 「Windows コンポーネントの追加と削除」を選びます。



3. 「Microsoft .NET Framework 2.0」にチェックマークを付けてから、「次へ」ボタンをクリックします。



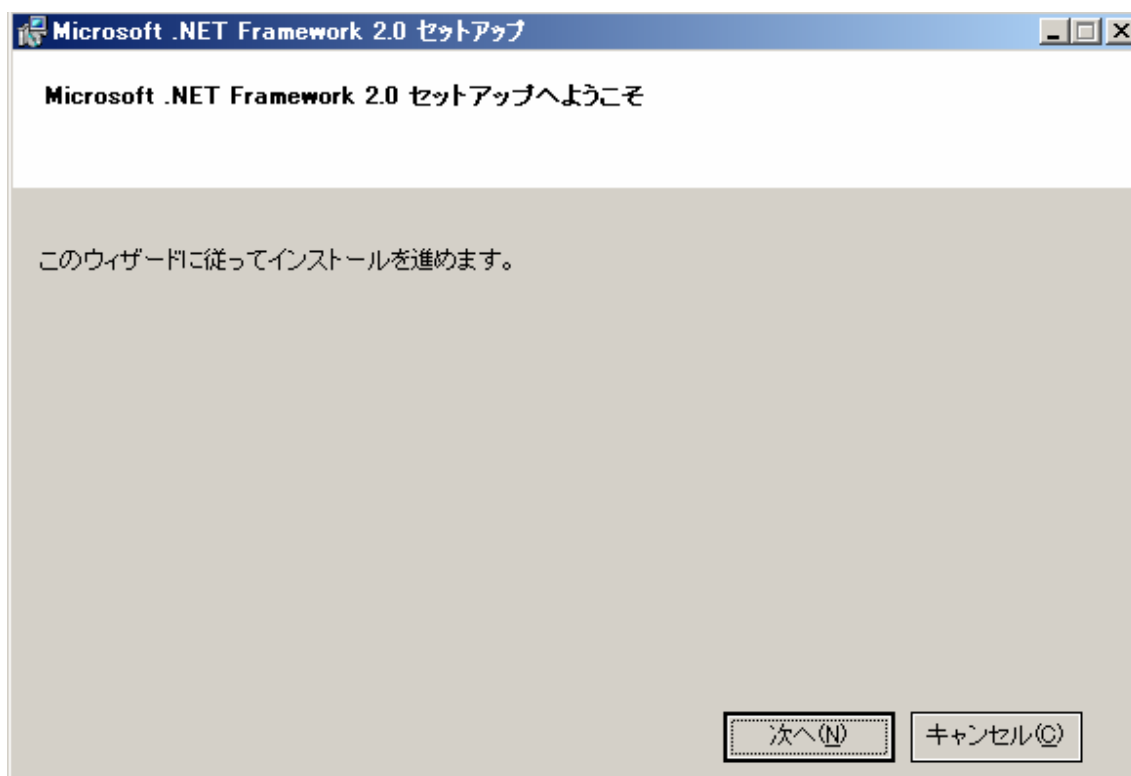
4. 画面の指示に従ってインストールしてください。途中で Windows の CD をセットするように指示されることがあります。
5. インストールが完了すると「Microsoft .NET Framework 2.0 が正常にインストールされました」というメッセージが表示されます。

2.3.2 Windows Server 2003、Windows XP、Windows 2000 のとき

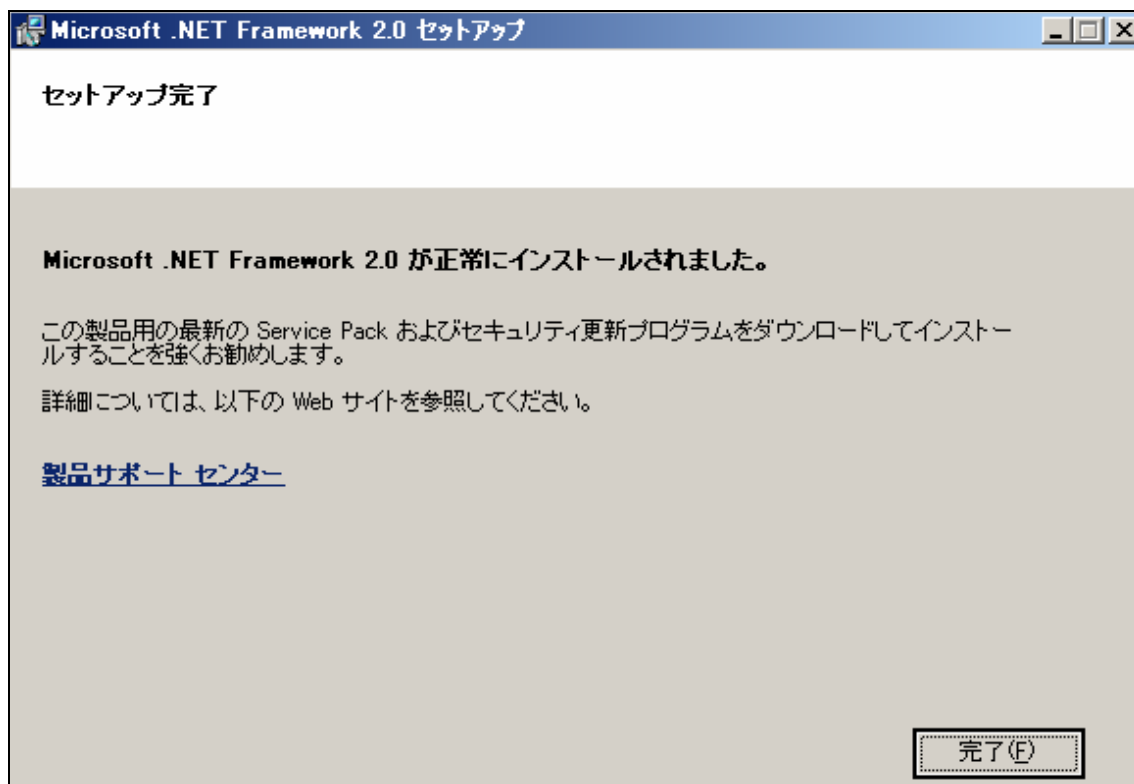
次の手順で、Microsoft .NET Framework 2.0 を導入してください。

1. マイクロソフトのホームページから、Microsoft .NET Framework 2.0 をダウンロードします。ファイル名は dotnetfx.exe です。ダウンロード用ホームページのアドレスは、2007 年 4 月時点では次のとおりです。
<http://www.microsoft.com/japan/msdn/netframework/>

2. ダウンロードしたファイルを起動してください。



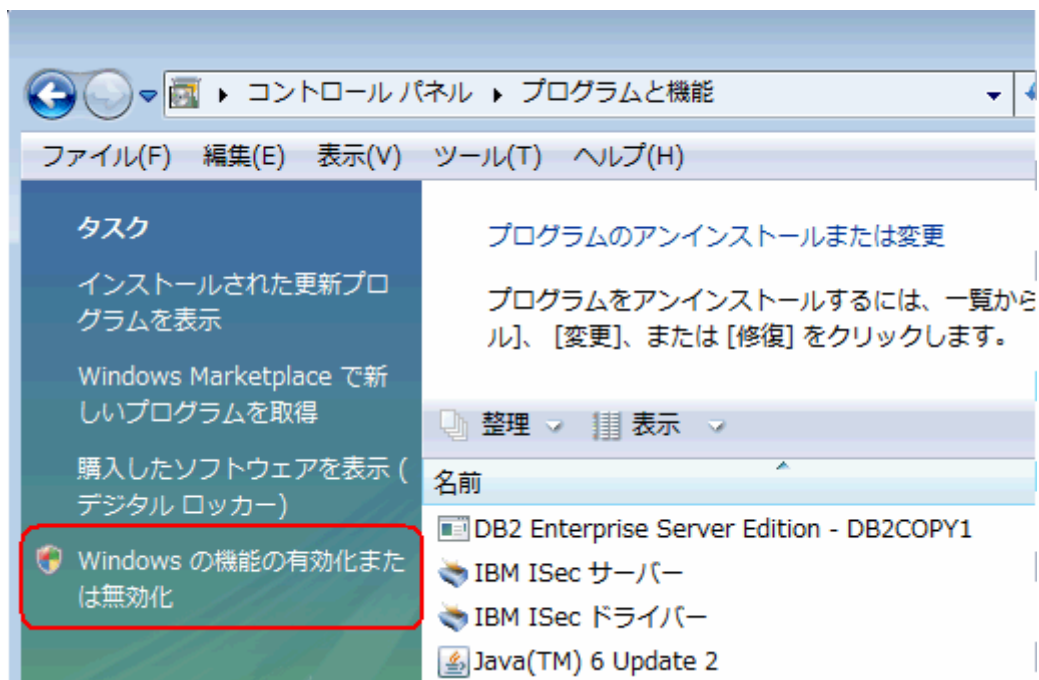
3. 画面の指示に従い、インストールしてください。インストールが完了すると「Microsoft .NET Framework 2.0 が正常にインストールされました」というメッセージが表示されます。



2.3.3 Windows Vista のとき

次の手順で、Microsoft .NET Framework 3.0 を導入してください。

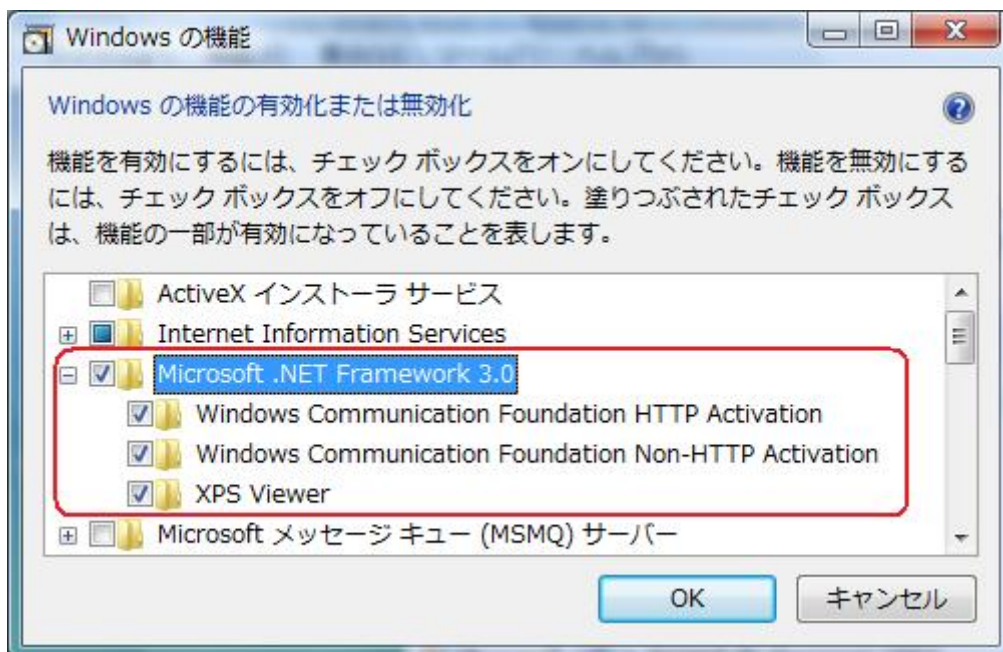
1. Windows の「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」→「Windows の機能の有効化または無効化」を選びます。



2. 「Microsoft .NET Framework 3.0」のすべての項目にチェックマークを付いているかどうかを確認してください。

既にチェックマークが付いているときは、既に Microsoft .NET Framework 3.0 がインストールされています。「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

チェックマークが付いていないときは、チェックマークを付けてから、「OK」ボタンをクリックしてください。



2.4 IBM DB2 をインストールする

IBM DB2 の導入方法を説明します。

ISec サーバーは、IBM DB2 のデータベースを使います。IBM DB2 と ISec サーバーのプログラムは、必ず同一のサーバー・コンピュータにインストールしてください。

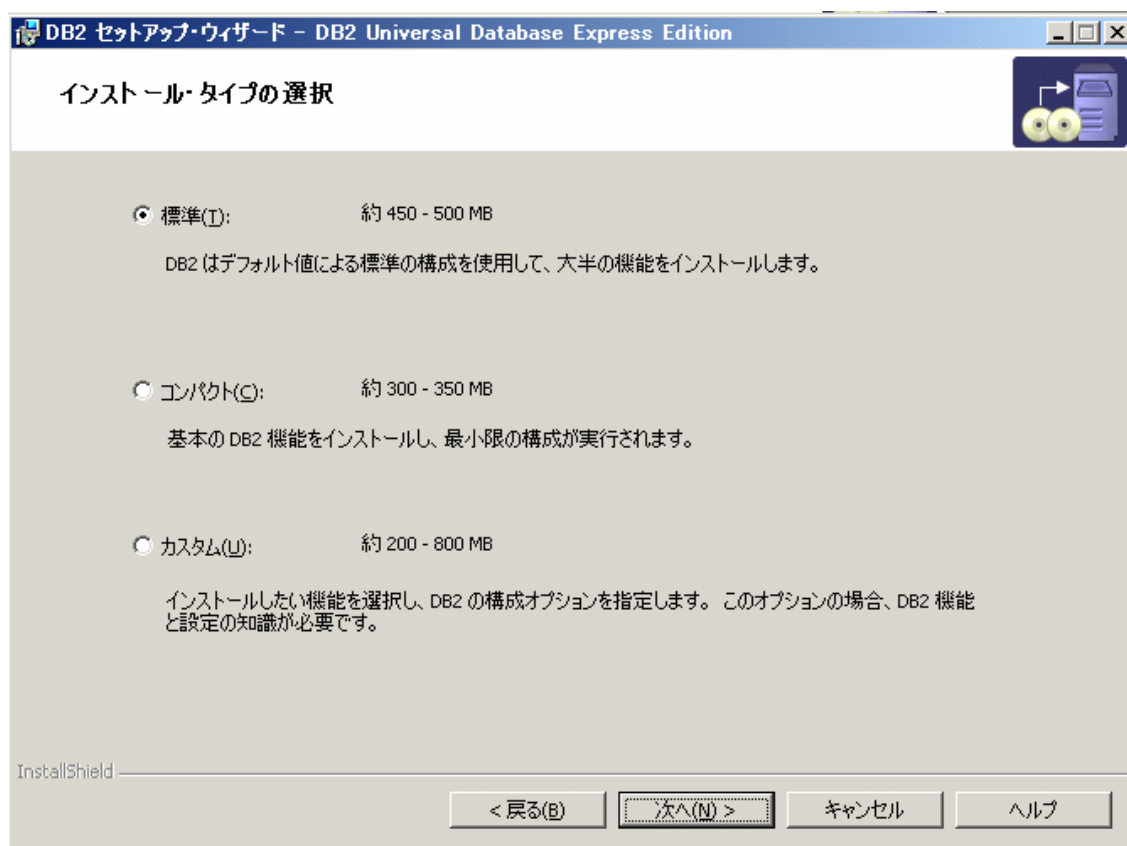
2.4.1 IBM DB2 Universal Database Express Edition V8.2 のとき

IBM DB2 の CD-ROM をセットすると、セットアップ画面が表示されるので「製品のインストール」をクリックします。

次の注意事項に留意し、画面の指示に従ってインストールします。

注意事項:

1. 「インストール・タイプの選択」画面では「標準」を選んでください。



2. 「DB2 Administration Server のユーザー情報の設定」画面で指定するユーザー名とパスワードは必ず控えておいてください。ISec サーバーをインストールするときに必要です。

The screenshot shows a Windows-style window titled "DB2 セットアップ・ウィザード - DB2 Universal Database Express Edition". The main heading is "DB2 Administration Server のユーザー情報の設定". Below this, a message states: "DB2 Administration Server (DAS) がシステムにログオンするユーザー名とパスワードを入力してください。ローカル・ユーザーまたはドメイン・ユーザーを使用できます。". A section titled "ユーザー情報" contains four input fields: "ドメイン" (a dropdown menu), "ユーザー名" (containing "db2admin"), "パスワード", and "パスワードの確認". Below these fields is a checked checkbox with the text "同じユーザー名とパスワードを残りの DB2 サービスで使用する(U)". At the bottom, there are four buttons: "< 戻る(B)", "次へ(N) >", "キャンセル", and "ヘルプ". The "InstallShield" logo is visible in the bottom left corner.

DB2 セットアップ・ウィザード - DB2 Universal Database Express Edition

DB2 Administration Server のユーザー情報の設定

DB2 Administration Server (DAS) がシステムにログオンするユーザー名とパスワードを入力してください。ローカル・ユーザーまたはドメイン・ユーザーを使用できます。

ユーザー情報

ドメイン

ユーザー名

パスワード

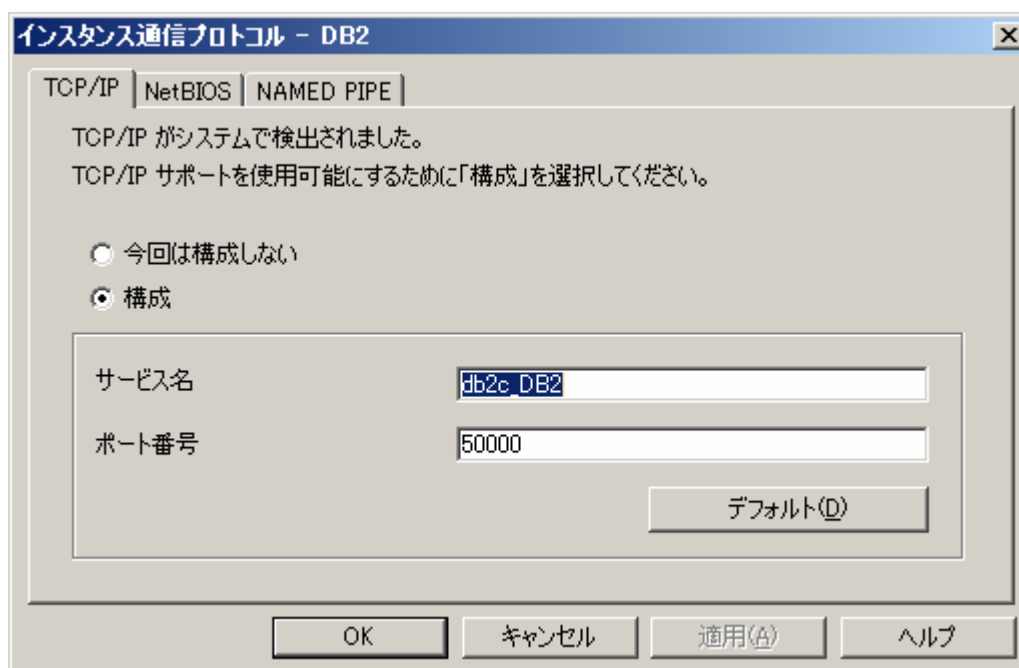
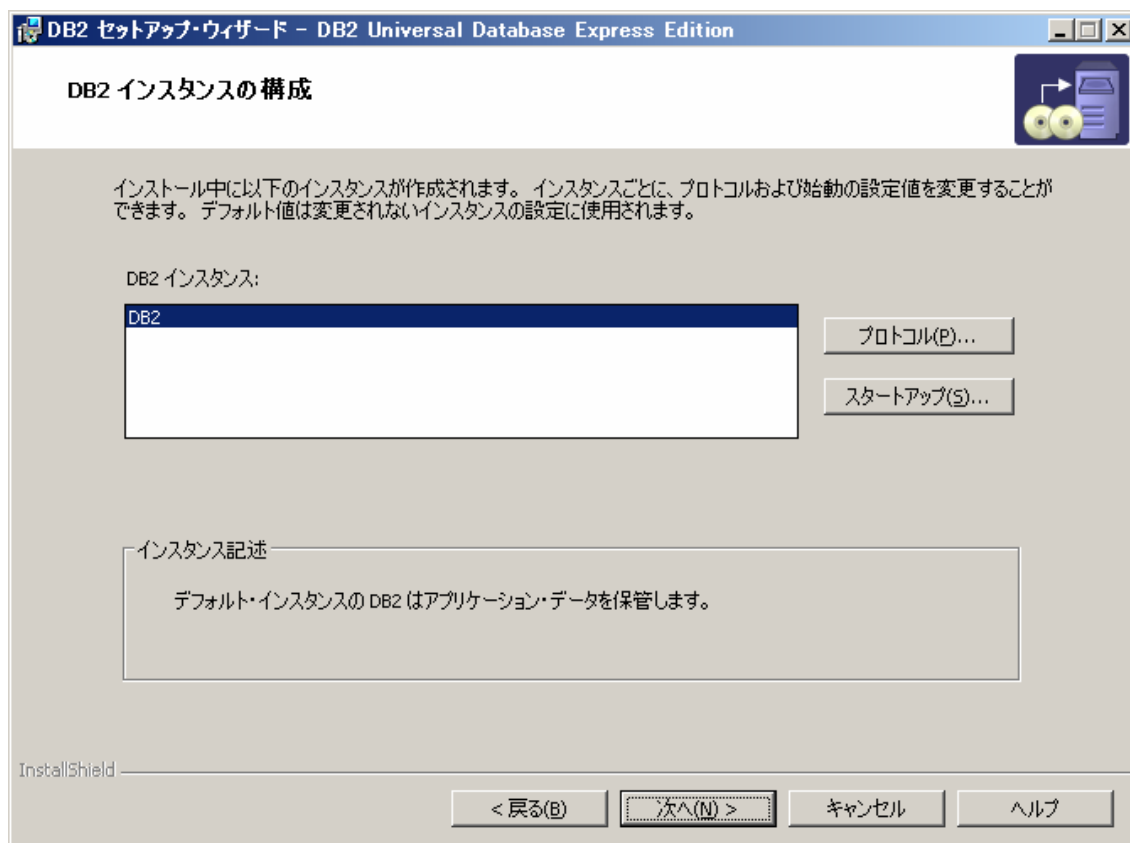
パスワードの確認

☒ 同じユーザー名とパスワードを残りの DB2 サービスで使用する(U)

InstallShield

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

3. 「DB2 インスタンスの構成」画面で、「プロトコル」ボタンをクリックし、TCP/IP ポート番号を変更したとき(デフォルトの 50000 以外を指定したとき)は、指定した TCP/IP ポート番号を必ず控えておいてください。ISec サーバーをインストールするときに必要です。



2.4.2 IBM DB2 V9.1 のとき

IBM DB2 の CD-ROM をセットすると、セットアップ画面が表示されるので「製品のインストール」をクリックします。

次の注意事項に留意し、画面の指示に従ってインストールします。

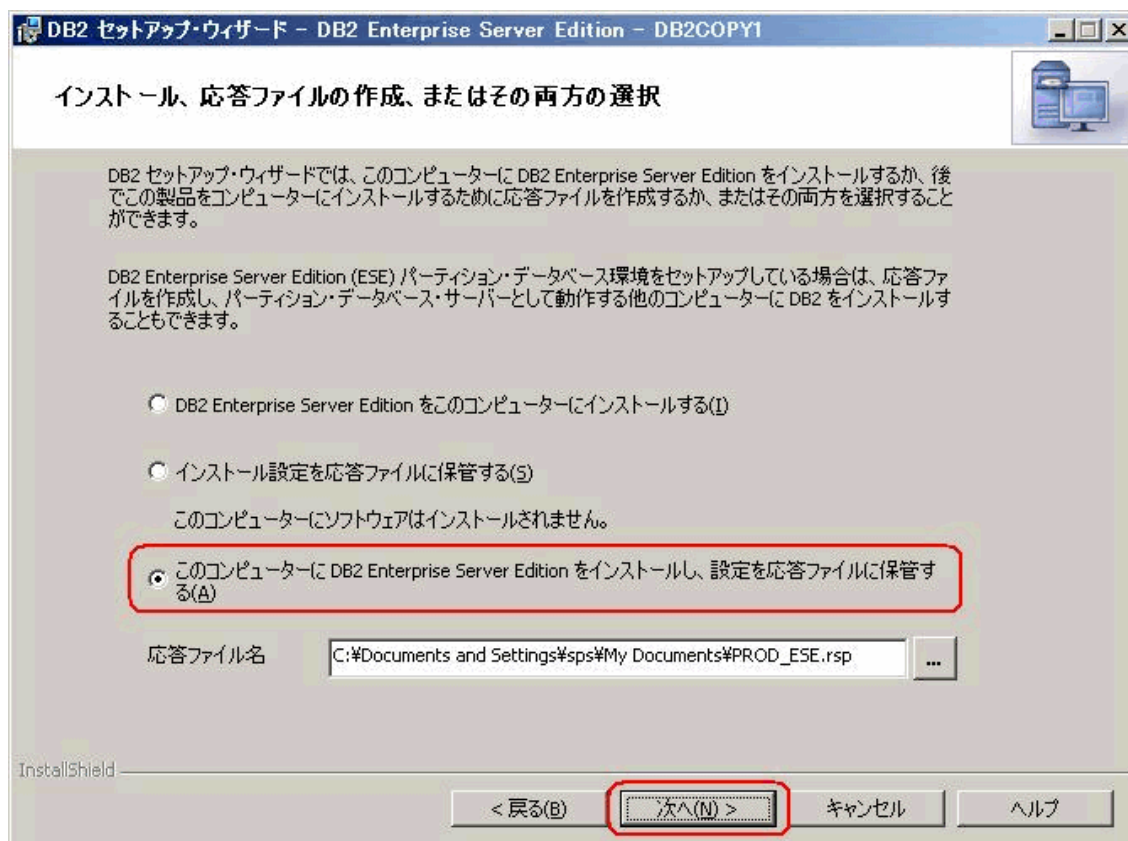
注意事項:

1. 「DB2 Enterprise Server Edition」の「新規インストール」を選んでください。



2. 「インストール・タイプの選択」画面では「標準」を選んでください。

3. 「インストール、応答ファイルの作成、またはその両方の選択」画面では「このコンピュータに DB2 Enterprise Server Edition をインストールし、設定を応答ファイルに保管する」を選んでください。



4. 「DB2 Administration Server のユーザー情報の設定」画面で指定するユーザー名とパスワードは必ず控えておいてください。ISec サーバーをインストールするときに必要です。

The screenshot shows a Windows-style window titled "DB2 セットアップ・ウィザード - DB2 Enterprise Server Edition - DB2COPY1". The main heading is "DB2 Administration Server のユーザー情報の設定". Below this, a message states: "DB2 Administration Server (DAS) がご使用のコンピュータで実行され、DB2 ツールで必要なサポートを提供します。DAS に必要なユーザー情報を指定してください。".

The "ユーザー情報" (User Information) section contains the following fields:

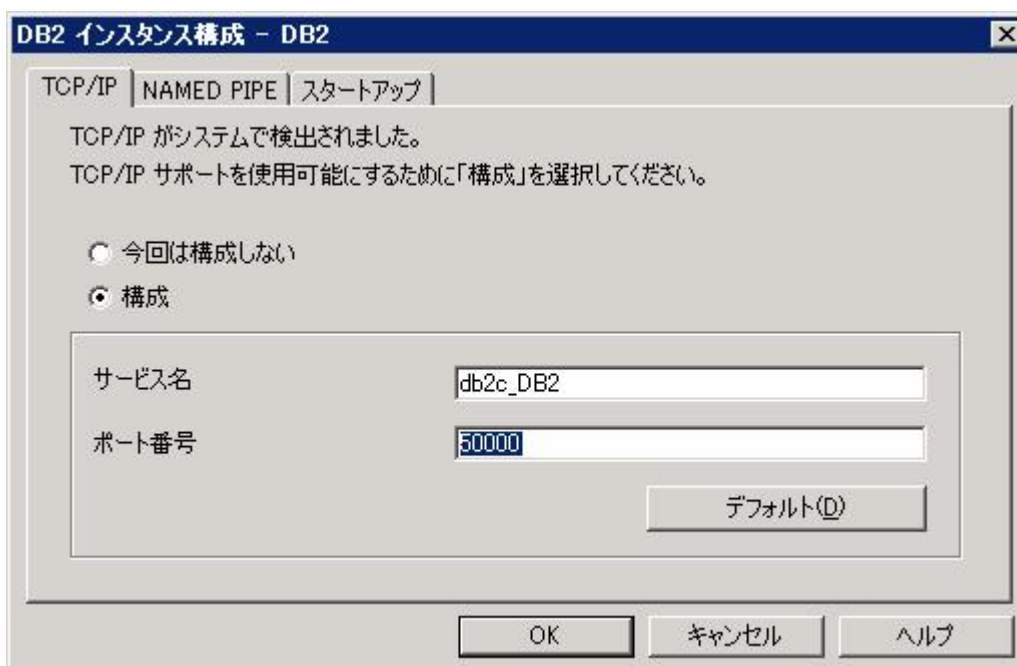
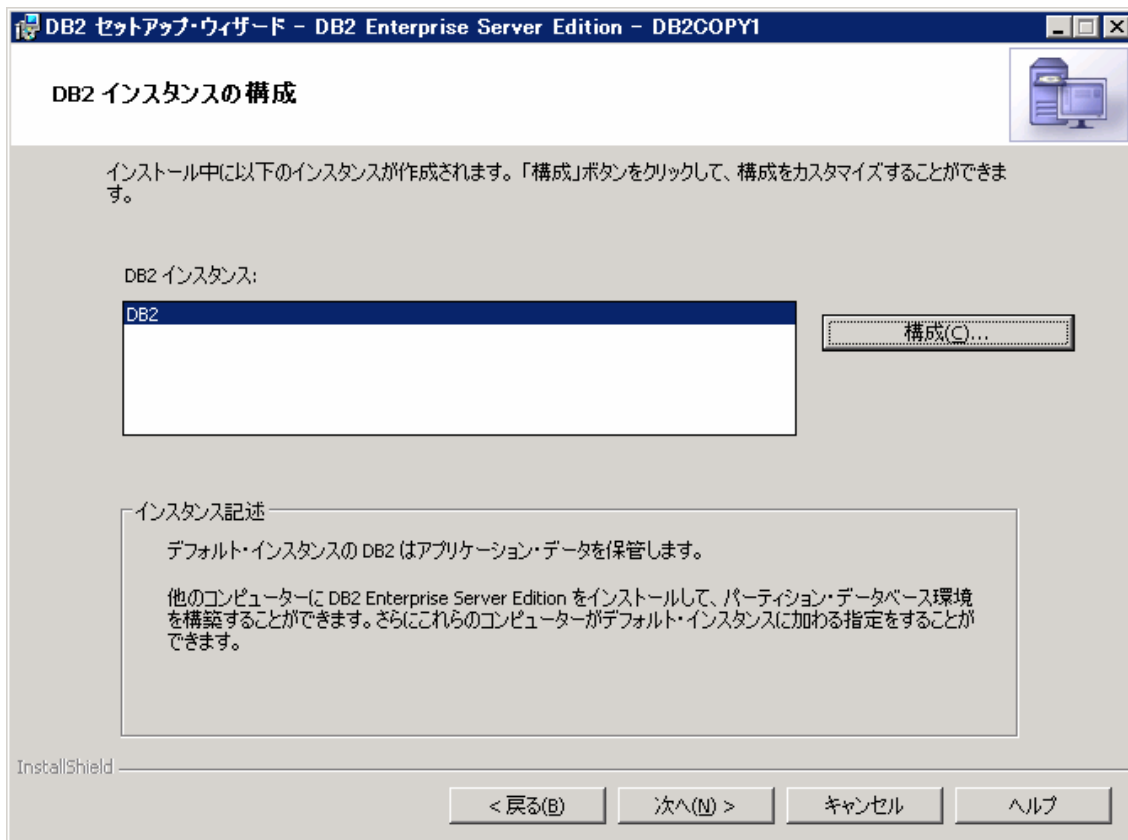
- ドメイン (Domain): A dropdown menu.
- ユーザー名 (Username): A text box containing "sps".
- パスワード (Password): A text box containing "*****".
- パスワードの確認 (Confirm Password): A text box containing "*****".

A red rectangle highlights the Username, Password, and Confirm Password fields.

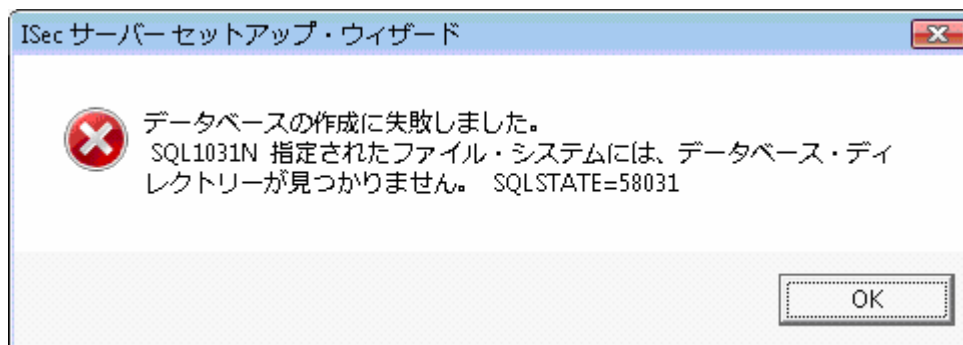
At the bottom, there is a checkbox labeled "同じユーザー名とパスワードを残りの DB2 サービスで使用する(U)" (Use the same username and password for the remaining DB2 services), which is checked.

The bottom of the window features four buttons: "< 戻る(B)" (Back), "次へ(N) >" (Next), "キャンセル" (Cancel), and "ヘルプ" (Help). The "次へ(N) >" button is highlighted with a red rectangle.

5. 「DB2 インスタンスの構成」画面で、「構成」ボタンをクリックし、TCP/IP ポート番号を変更したとき(デフォルトの 50000 以外を指定したとき)は、指定した TCP/IP ポート番号を必ず控えておいてください。ISec サーバーをインストールするときに必要です。



6. Windows Vista に IBM DB2 V9.1 をインストールするときは、IBM DB2 V9.1 の Fix Pack 2 以降を必ずインストールしてください。Fix Pack 2 よりも古い状態では、ISec サーバーのインストール中に次のエラーが表示され、ISec サーバーをインストールできません。



第3章 インストールとアンインストールを行う

ISec サーバーのインストール(導入)方法とアンインストール(削除)方法については、配布パッケージに含まれている README.TXT ファイルを参照してください。

【注意】

- README.TXT ファイルで説明しているのは、ISec サーバーをデフォルト(既定)の設定でインストールする方法です。デフォルト以外の設定でインストールする方法については、4.1節の『ISec サーバーの設定ファイルを編集する』を参照してください。
- ISec サーバーをインストールする前に、必要な準備を行ってください。詳しくは、第 2 章の『インストールの準備を行う』を参照してください。
- ISec サーバーの基本機能だけを使うときは、基本機能をインストールした直後に Web ページ(ログインページ)を一度表示してください(実際にログインする必要はありません)。印刷枚数管理機能も使うときは、印刷枚数管理機能をインストールした直後に Web ページ(ログインページ)を一度表示してください(印刷枚数管理機能をインストールする前に Web ページを表示する必要はありません)。詳しくは、5.1.2節の『ISec サーバーの起動直後にログインページを表示する』を参照してください。

Web ページの URL (アドレス)については、5.1.1節の『ログインページの URL(アドレス)』を参照してください。

ISec サーバーのインストール直後は、ISec データベースにユーザーを登録していません。この状態で利用できるデフォルトのユーザー名については、4.2.3節の『ISec サーバーをインストールした直後のユーザー情報テーブル』を参照してください。

- ISec サーバーのインストール後は、必要な設定を行ってください。詳しくは、第 4 章の『ISec サーバーの設定を行う』を参照してください。
- ISec サーバーの印刷枚数管理機能をインストールした後は、Web ページの「システム管理者メニュー」→「環境設定の変更」画面→「印刷枚数管理機能」の「☐ 有効にする」にチェックを入れてください。ISec サーバーをインストールした直後は、チェックが入っていません。

「☐ 有効にする」にチェックを入れたときは、「印刷枚数をリセットするタイミング」として「日単位」、「週単位」、「月単位」、「年単位」のどれかを必ず選択してください。ISec サーバーをインストールした直後は、どれも選択していない状態になっています。

第4章 ISec サーバーの設定を行う

この章では、ISec サーバーの設定作業について説明します。

ISec サーバーの設定作業には、次の 4 種類があります。

- ISec サーバーの設定ファイルを編集する
- ISec データベースにユーザー情報を登録する
- 「ソフトウェアの自動更新」を設定する
- 「ドライバー設定の自動更新」を設定する

最初の 2 つの作業を終えると、ISec サーバーの運用が可能になります。以下の作業を行ってください。

- ユーザーが使うクライアント PC に ISec ドライバーをインストールし、必要な設定を行ってください。詳しくは『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- ISec サーバーの Web ページを利用してください。
システム管理者が Web ページで行う作業については、第 5 章の『Web ページを使う』を参照してください。
(一般の)ユーザーとグループ管理者が Web ページで行う作業については、『ISec サーバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

残りの 2 つの作業は必要に応じて行います。

それぞれの作業を以下に説明します。

すべての作業は、Windows に管理者権限 (Administrator) でログオンして行ってください。

4.1 ISec サーバーの設定ファイルを編集する

ISec サーバーを設定するには、次の 2 つの方法があります。

- ISec サーバーのインストール前に、配布パッケージに含まれている設定ファイルをテキストエディターで編集する。

この方法は、インストール直後の状態 (設定値) を、インストール前にあらかじめ指定しておくものです。この方法に従うと、ISec サーバーをデフォルト (既定値) 以外の設定でインストールできるので、インストール後の作業を最小限にできます。

この方法は、ISec サーバーを複数のサーバー・コンピューターにインストールするときに便利です。

複数の ISecサーバーを使うシステム構築の最終段階で、ISec サーバーのプログラムを実際

に複数のサーバー・コンピューターにインストールするときは、この方法を検討してください。
それ以外のときは、以下の方法で ISec サーバーを設定してください。

- **ISec サーバーのインストール後に、インストール先フォルダーの設定ファイルをテキストエディターで編集する。**

通常はこちらの方法で ISec サーバーを設定します。

複数の ISec サーバーを使うシステムの要件定義時や設計時に、ISec サーバーの動作を確認する際も、この方法が便利です。

ISec サーバーの設定ファイルには、次の 2 種類があります。

- サーバー制御ファイル (IBMISSVR.CFG)
- 印刷枚数制御ファイル (IBMISLIS.CFG)

どちらもテキストファイルなので、メモ帳などのテキストエディターで編集できます。

4.1.1 サーバー制御ファイル IBMISSVR.CFG を編集する

サーバー制御ファイル IBMISSVR.CFG は、ISec サーバーの動作環境やトレースに関する設定ファイルです。テキストファイルなので、メモ帳などのテキストエディターで編集できます。

このファイルは、ISec サーバー (基本機能) の配布パッケージの ISec フォルダーの下にあります。

ISec サーバーをインストールすると、IBMISSVR.CFG は導入先のフォルダー (通常は C:\¥Inetpub¥wwwroot¥ISec) に複写されます。

ISec サーバーのインストール前に、配布パッケージに含まれている IBMISSVR.CFG を修正すると、インストール直後から修正内容が有効になります。

ISec サーバーのインストール後に、導入先フォルダーの IBMISSVR.CFG を修正することも可能です。このときは、修正内容を有効にするために、インターネット インフォメーション サービス (IIS) の再起動が必要になることがあります (修正項目によって異なります。下表を参照してください)。

【注】

- サーバー制御ファイルの文字コードは UTF-8 です。UTF-8 をサポートするテキストエディター (メモ帳など) で編集してください。

4.1.1.1 サーバー制御ファイル(IBMISVR.CFG)の記述形式

サーバー制御ファイルの記述形式は、次のとおりです。キー名、値に指定する内容の詳細は、「サーバー制御ファイル(IBMISVR.CFG)に指定可能な値」を参照してください。

```
key1=value1
; comment1
key2=value2
key3="value with space characters"
```

- 各行を次の形式で記述します。
 キー名=値
- セミコロン(;)で始まる行はコメントとして無視されます。
- キー名は、必ず行の先頭(1 バイト目)から記述してください。
- キー名と値は、どちらも英大文字、英小文字を区別します。
- キー名と値を結ぶ等号(=)の前後に半角空白文字が存在していると、半角空白文字は無視されます。
- 空白文字を含むキー名または値を指定するときは、全体を二重引用符(")で必ず囲んでください。
- 同じキー名を 2 回以上重複して記述したときは、最後の記述が有効になります。

4.1.1.2 サーバー制御ファイル(IBMISVR.CFG)に指定可能な値

キー名(*1)	値	省略値(*2)	値の最大長(*3)	説明	値を変更した後に必要な操作(*4)
UserCase	Yes または No	No	8	ISec のユーザー名の英大文字と英小文字を区別するかどうかを指定します。 ISec サーバーが印刷ログをデータベース	Windows のコマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します(*5)。

				<p>に記録するとき、ISec サーバーは、クライアントから受け取ったユーザー名が ISec データベースに登録済みかどうかを確認します。</p> <p>ユーザーが ISec サーバーの Web ページにログインするときも、ISec サーバーは、ユーザーが入力したユーザー名が ISec データベースに登録済みかどうかを確認します。</p> <p>このキーは、以上のような確認時に、英大文字と英小文字の違いを無視するかどうかの判断に使います。</p> <p>Yes: 英大文字と英小文字を区別します。</p> <p>No: 英大文字と英小文字を区別しません。</p>	iisreset
DB.Name	テキスト文字列	ISECDB	32	<p>ISec サーバーのデータベース管理機能が ISec データベースにアクセスする際に使うデータベース名を指定します。</p> <p>ISec サーバーのインストール・プログラム (SETUP.EXE) は、常に「ISECDB」という名前のデータベースを作成します。</p> <p>したがって、このキーの値を変えるときは、データベース名の変更も同時に行う必要があります。</p>	<p>Windows のコマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します (*5)。</p> <p>iisreset</p>
DB.Address	IP アドレスまたはホスト名	localhost	64	<p>ISec データベースの IP アドレスまたはホスト名を指定します。</p>	<p>Windows のコマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します (*5)。</p> <p>iisreset</p>

DB.Port	ポート 番号	50000	8	ISec データベースの ポート番号を指定しま す。 IBM DB2 上で設定 しているポート番号 (デフォルトは 50000)と同じものを 指定します。	Windows のコ マンドプロンプト で、次のコマン ドを実行します (*5)。 iisreset
DB.User ID	テキス ト文字 列	isec	32	ISec データベースに アクセスするユーザ ー名を指定します。 IBM DB2 上で設定 しているユーザー名 (IBM DB2 のイン ストール時に指定し ます)と同じものを指定 します。	Windows のコ マンドプロンプト で、次のコマン ドを実行します (*5)。 iisreset
DB.Password	テキス ト文字 列	password	32	ISec データベースに アクセスするパスワ ードを指定します。 IBM DB2 上で設定 しているパスワード (IBM DB2 のイン ストール時に指定し ます)と同じものを指定 します。	Windows のコ マンドプロンプト で、次のコマン ドを実行します (*5)。 iisreset
LDAPAuthen tication				このキーは、現在のバ ージョンの ISec で は使われていません。	
WebEdit Password	Yes または No	Yes	8	ISec サーバーの「ユ ーザー情報の変更」 画面で、パスワードを 変更できるかどうかを 指定します。 Yes: パスワードを変 更できます。 No: パスワードを変 更できません。このと き、「ユーザー情報の 変更」画面には、パス ワードを指定する項目 自体が表示されなくな ります。(一般の)ユー ザー、グループ管理 者、システム管理者の	Windows のコ マンドプロンプト で、次のコマン ドを実行します (*5)。 iisreset

				すべてが、Web ページでパスワードを変更できなくなります。パスワードの変更は、IBM DB2 コントロール・センターなどを使って行います。	
ISecWebApp LogFilePath Name	ファイル名を含むパス名	IBMISWEB.LOG	256	ISec サーバーのトレースファイル名をパス名付きで指定します。パス名は絶対パスでも相対パスでもかまいません。パス名を省略してファイル名だけを指定すると、ISec サーバーのインストール先フォルダーにトレースファイルが作られます。	Windows のコマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します(*5)。 iisreset
ISecInstaller LogFilePath Name	ファイル名を含むパス名	IBMISINS.LOG	256	ISec サーバーのインストール・プログラム (SETUP.EXE) のトレースファイル名をパス名付きで指定します。パス名は絶対パスでも相対パスでもかまいません。 インストール・プログラム (SETUP.EXE) のトレースファイルは、ISec サーバーのインストール時とアンインストール時の両方のタイミングで作られます。 パス名を省略してファイル名だけを指定すると、ISec サーバーのインストール先フォルダーにトレースファイルが作られます。 パス名を省略しファイル名だけを指定してアンインストールすると、環境変数 TEMP が指し示すフォルダー (%TEMP%) にトレースファイルが作られます。	インストール・プログラム (SETUP.EXE) が実行時に参照するので、変更後の操作は不要です。

ISecServer TraceEnabled	True または False	False	8	<p>ISec サーバーがトレースファイル(通常はIBMISSVR.LOG)を作成するかどうかを指定します。</p> <p>True: トレースファイルを作成します。</p> <p>False: トレースファイルを作成しません。</p>	<p>Windows のコマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します(*5)。</p> <p>iisreset</p>
ISecInstaller TraceEnabled	True または False	False	8	<p>ISec サーバーのインストール・プログラム(SETUP.EXE)がトレースファイル(通常はIBMISINS.LOG)を作成するかどうかを指定します。</p> <p>True: トレースファイルを作成します。</p> <p>False: トレースファイルを作成しません。</p>	<p>インストール・プログラム(SETUP.EXE)が実行時に参照するので、変更後の操作は不要です。</p>
ISecServer TraceLevel	1、2、 3 のど れか	1	8	<p>トレースレベルを指定します。指定する数字が大きいくほど、収集するトレース情報の量が増えます。ここで指定する値は、ISec サーバー(Web ページ生成機能)とインストール・プログラム(SETUP.EXE)の両方に共通です。問題が起きたときは、通常2 または 3 を指定してトレース情報を取得してください。</p>	<p>ISec サーバーに対しては、Windows のコマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します(*5)。</p> <p>iisreset</p> <p>インストール・プログラム(SETUP.EXE)に対しては、常に有効です。</p>
ISecServer EventLog Enabled	True または False	True	8	<p>ISec サーバー(Web ページ生成機能)がイベントログにイベントを記録するかどうかを指定します。</p> <p>True: イベントログにイベントを記録します。</p> <p>False: イベントログに</p>	<p>Windows のコマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します(*5)。</p> <p>iisreset</p>

				イベントを記録しません。	
ISecInstaller EventLog Enabled	True または False	True	8	<p>ISec サーバーのインストール・プログラム (SETUP.EXE) がイベントログにイベントを記録するかどうかを指定します。</p> <p>True: イベントログにイベントを記録します。</p> <p>False: イベントログにイベントを記録しません。</p>	インストール・プログラム (SETUP.EXE) が実行時に参照するので、変更後の操作は不要です。
ISecServer EventLog Level	1、2、 3 のど れか	1	8	<p>イベントログのレベルを指定します。指定する数字が大きいほど、記録するイベントが増えます。ここで指定する値は、ISec サーバー (Web ページ生成機能) とインストール・プログラム (SETUP.EXE) の両方に共通です。</p> <p>1: エラーだけを記録します。</p> <p>2: エラーと警告を記録します。</p> <p>3: エラー、警告、情報のすべてを記録します。</p>	<p>ISec サーバーに対しては、Windows のコマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します (*5)。</p> <p>iisreset</p> <p>インストール・プログラム (SETUP.EXE) に対しては、常に有効です。</p>
Version	x.x.x.x の形式 の文字 列	(なし)	16	<p>このキーの値は変更できません。 配布パッケージの中で既に指定してある値を決して変更しないでください。変更すると、ISec サーバーの動作は保証されません。</p>	変更できません。
<p>【注】</p> <p>*1: キー名 この表では、長いキー名を2行以上に分割して表記していますが、実際は1つのつなが</p>					

ったキー名です。キー名が2つ以上あるわけではないのでご注意ください。

例:この表では「ISecInstaller」、「LogFilePath」、「Name」の3行に分けて表記していますが、実際のキー名は「ISecInstallerLogFilePathName」です。

***2: 省略値**

キー名をサーバー制御ファイル (IBMISSVR.CFG) に記述しなかったときは、省略値を記述したものとみなされます。

***3: 値の最大長**

単位はバイトです。

***4: 値を変更した後に必要な操作**

ISec サーバーのインストール後に、サーバー制御ファイル (IBMISSVR.CFG) の各項目を修正したとき、必要な操作を示します。

***5: iisreset コマンド**

インターネット インフォメーション サービス (IIS) を再起動するコマンドです。iisreset コマンドを実行した後は、ISec サーバーのログインページを必ず一度表示してください。詳しくは5.1.2節の『ISec サーバーの起動直後にログインページを表示する』を参照してください。

4.1.1.3 サーバー制御ファイル(IBMISVR.CFG)のサンプル

次は、サーバー制御ファイルのサンプルです。

```
UserCase=No
DB.Name=ISecDB
DB.Address=localhost
DB.Port=50000
DB.User ID=isec
DB.Password=password
LDAPAuthentication=No
WebEditPassword=Yes
ISecWebAppLogFilePathName=IBMISWEB.LOG
ISecServerTraceEnabled=False
ISecInstallerLogFilePathName=IBMISINS.LOG
ISecInstallerTraceEnabled=False
ISecServerTraceLevel=1
Version=1.1.0.0
ISecServerEventLogEnabled=True
ISecInstallerEventLogEnabled=True
ISecServerEventLogLevel=1
```

4.1.2 印刷枚数制御ファイル IBMISLIS.CFG を編集する

印刷枚数制御ファイル IBMISLIS.CFG は、印刷枚数管理機能の設定ファイルです。テキストファイルなので、メモ帳などのテキストエディターで修正できます。

このファイルは、ISec サーバー(印刷枚数管理機能)の配布パッケージの ISec フォルダーの下にあります。

ISec サーバーをインストールすると、IBMISLIS.CFG は導入先のフォルダー(通常は C:\¥Inetpub¥wwwroot¥ISec)に複写されます。

ISec サーバーのインストール前に、配布パッケージに含まれている IBMISLIS.CFG を修正す

ると、インストール直後から修正内容が有効になります。

ISec サーバーのインストール後に、導入先フォルダーの **IBMISLIS.CFG** を修正することも可能です。このときは、修正内容を有効にするために、インターネット インフォメーション サービス (IIS) の再起動が必要です(下表を参照してください)。

【注】

- サーバー制御ファイルの文字コードは **UTF-8** です。**UTF-8** をサポートするテキストエディター(メモ帳など)で編集してください。
- 印刷枚数制御ファイルは、ISec サーバーと ISec ドライバーの両方にあります。このドキュメントで説明しているのは、ISec サーバーの印刷枚数制御ファイルです。ISec ドライバーの印刷枚数制御ファイルについては、『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

4.1.2.1 印刷枚数制御ファイル(IBMISLIS.CFG)の記述形式

印刷枚数制御ファイルの記述形式は、次のとおりです。キー名、値に指定する内容の詳細は、「印刷枚数制御ファイル(IBMISLIS.CFG)に指定可能な値」を参照してください。

```
key1=value1
; comment1
key2=value2
key3="value with space characters"
```

- 各行を次の形式で記述します。
キー名=値
- セミコロン(;)で始まる行はコメントとして無視されます。
- キー名は、必ず行の先頭(1 バイト目)から記述してください。
- キー名と値は、どちらも英大文字、英小文字を区別します。
- キー名と値を結ぶ等号(=)の前後に半角空白文字が存在していると、半角空白文字は無視されます。
- 空白文字を含むキー名または値を指定するときは、全体を二重引用符(")で必ず囲んでください。
- 同じキー名を 2 回以上重複して記述したときは、最後の記述が有効になります。

4.1.2.2 印刷枚数制御ファイル(IBMISLIS.CFG)に指定可能な値

キー名 (*1)	値	省略値 (*2)	値の 最大長 (*3)	説明	値を変更した 後に必要な操 作 (*4)
Limitation OfPrinting	True または False	True	8	<p>印刷枚数管理機能を有効にするかどうかを指定します。</p> <p>True: 印刷枚数管理機能を有効にします。</p> <p>False: 印刷枚数管理機能を無効にします。基本機能だけをインストールしているときと同様に動作します。</p> <p>印刷枚数管理機能を利用するためには、次の3つを指定する必要があります。</p> <p>(1) このキーの値を True にします。</p> <p>(2) ISec ドライバー (クライアント) の印刷枚数制御ファイル (IBMISLIC.CFG) で、LimitationOfPrinting=True を指定します。</p> <p>(3) Web ページの「システム管理者メニュー」→「環境設定の変更」画面→「印刷枚数管理機能」で「<input type="checkbox"/> 有効にする」にチェックを入れます。</p>	<p>Windows のコマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します(*5)。</p> <p>iisreset</p>
Limitation UsePrinter	True または False	False	8	<p>このキーの値は変更できません。</p> <p>配布パッケージの中で既に指定してある値を決して変更しないでください。変更すると、ISec サーバーの動作は保証されません。</p>	変更できません。
<p>【注】</p> <p>*1: キー名 この表では、長いキー名を2行に分割して表記していることがありますが、実際は1つのつながったキー名です。キー名が2つあるわけではないのでご注意ください。 例:この表では「Limitation」と「OfPrinting」の2行に分けて表記していますが、実際のキー名は</p>					

「LimitationOfPrinting」です。

***2: 省略値**

キー名を印刷枚数制御ファイル (IBMISLIS.CFG) に記述しなかったときは、省略値を記述したものとみなされます。

***3: 値の最大長**

単位はバイトです。

***4: 値を変更した後に必要な操作**

ISec サーバーのインストール後に、印刷枚数制御ファイル (IBMISLIS.CFG) の各項目を修正したとき、必要な操作を示します。

***5: iisreset コマンド**

インターネット インフォメーション サービス (IIS) を再起動するコマンドです。iisreset コマンドを実行した後は、ISec サーバーのログインページを必ず一度表示してください。詳しくは5.1.2節の『ISec サーバーの起動直後にログインページを表示する』を参照してください。

4.1.2.3 印刷枚数制御ファイル (IBMISLIS.CFG) のサンプル

次は、サーバー制御ファイルのサンプルです。

```
LimitationOfPrinting=True  
LimitationUsePrinter=False
```

4.2 ISec データベースにユーザー情報を登録する

この節では、ISec サーバーが管理するデータベース (ISECDB) にユーザー情報を登録する方法を説明します。ISec サーバーのインストール後に運用を開始するためには、あらかじめユーザー情報を登録する必要があります。運用中は、必要に応じてユーザー情報の追加、削除、更新を行います。

4.2.1 ISec データベース (ISECDB) の概要

ISec サーバーは、IBM DB2 のデータベースに印刷ログを保存します。ISec を使うユーザーのユーザー名やパスワード、累積印刷枚数といったユーザー情報もデータベースに保存します。

ISec サーバーのインストール・プログラム (SETUP.EXE) は、インストール時にデータベース ISECDB を作成し、このデータベース内にテーブルを作成します。ISec のデータベースは、次の5種類のテーブルから構成されています。

- ユーザー情報テーブル (USERS)
- ジョブ情報テーブル (JOBINFO)
- イベントメッセージテーブル (EVENTMESSAGE)
- システム設定テーブル (SYSSETTING)
- プリンター情報テーブル (PRINTERS)

これらのうち、ISec サーバーのシステム管理者が意識する必要があるのは、ユーザー情報テーブルだけです。ほかのテーブルは意識する必要がありません。

ユーザー情報テーブルは、ユーザー名やパスワードなどのユーザー情報の登録、参照、更新に使います。詳しくは4.2.2節の『ユーザー情報を登録する』を参照してください。

【重要な注意】

- ISec データベース (ISECDB) のテーブルのフォーマットは、今後、ISec の機能拡張に伴い、予告なく変更する可能性があります。
- フォーマットを公開しているテーブルは、ユーザー情報テーブル (USERS) だけです。IBM DB2 コントロール・センターなどを使って、ほかのテーブル (JOBINFO、EVENTMESSAGE、SYSSETTING、PRINTERS) のデータを直接編集しないでください。データを編集するツールなどの開発もご遠慮ください。
- ユーザー情報テーブル (USERS) のデータを編集する目的で何らかのツールなどを開発する場合は、今後テーブルのフォーマットが変わる可能性があることをあらかじめご承知置きください。ユーザー情報テーブルにインポートする目的で CSV ファイルの作成や編集を行うツールを開発する場合も同様です。

4.2.2 ユーザー情報を登録する 2 つの方法

ISec データベースにユーザー情報を登録したり、登録済みの情報を参照、更新したりするには、IBM DB2 のコントロール・センターを使います。次の 2 つの方法があります。

- CSV ファイルを使って登録、更新する。
- コントロール・センターの画面で直接登録、更新する。

通常は前者の方法をお勧めします。特に、ISec サーバーをインストールした後、初めてユーザー情報をデータベースに登録するときは、前者の方法に従ってください。

後者の方法は、次のようなときに便利です。

- 登録済みのユーザー情報の参照だけを行う。
- ユーザー情報のごく一部の属性だけを臨時に変更する。

前者の方法は、4.2.4節の『CSV ファイルを使ってユーザー情報を登録する』を参照してください。

後者の方法は、4.2.5節の『コントロール・センターでユーザー情報を直接登録、更新する』を参照してください。

4.2.3 ISec サーバーをインストールした直後のユーザー情報テーブル

ISec サーバーをインストールすると、データベースにユーザー情報テーブルが作られます。

ISec サーバーのインストール直後は、ユーザー情報テーブルには、次の 2 つのユーザーが登録されています。

SERIALNO (シリアル番号)	USERNAME (ユーザー名)	PASSWORD (パスワード)	ROLE (Web ページへのアクセス権限)
ISec_admin	ISec_admin	password	7 (ユーザー+グループ管理者 +システム管理者)
ISec_unknown	ISec_unknown	password	0 (権限なし)

表の各フィールドの意味については、4.2.6節の『ユーザー情報テーブルのフォーマット』を参照してください。

● ISec_admin

ISec_admin は、ISec サーバーのインストール後、デフォルトで登録されるシステム管理者用ユーザー名です。ISec サーバーをインストールした直後に、このユーザー名とパスワードを使って、一度 Web ページ(ログインページ)を表示してください。詳しくは、第 3 章の『インストールとアンインストールを行う』を参照してください。

セキュリティの観点から、ISec_admin のユーザー名 (USERNAME) かパスワード (PASSWORD) の少なくともどちらかを直ちに変更することを強くお勧めします。

● ISec_unknown

ISec_unknown は、未登録ユーザーを表すユーザー名です。クライアント PC で印刷を行ったユーザー名がデータベースに未登録のとき、ISec サーバーは「ISec_unknown」というユーザーが印刷を行ったとみなし、次のことを行います。

■ユーザー名 ISec_unknown の印刷ログをジョブ情報テーブルに記録します。

■ユーザー情報テーブルの ISec_unknown の印刷枚数を更新します。

ISec_unknown は ISec サーバーが内部的に使用するため、ユーザー名 (USERNAME) とアクセス権限 (ROLE) を変更しないでください。

ISec サーバーのインストール後、初めてデータベースにユーザー登録を行うときは、データベー

スのユーザー情報テーブル (USERS) からデータを取り出して、CSV ファイルを作ります。この CSV ファイルに、登録するユーザー情報を追加してから、データベースに書き戻します。詳しくは、4.2.4 節の『CSV ファイルを使ってユーザー情報を登録する』を参照してください。

4.2.4 CSV ファイルを使ってユーザー情報を登録する

CSV ファイルを使って ISec データベース (ISECDB) のユーザー情報テーブル (USERS) にユーザー情報を登録するには、次の手順に従ってください。

- (1) IBM DB2 のコントロール・センターを使い、ユーザー情報テーブル (USERS) のデータを CSV ファイルに取り出します (エクスポート)。

ISec サーバーのインストール後、初めてエクスポートを行ったときは、次の 2 つのユーザーに関する情報が CSV ファイルに含まれています。

ISec_admin

ISec_unknown

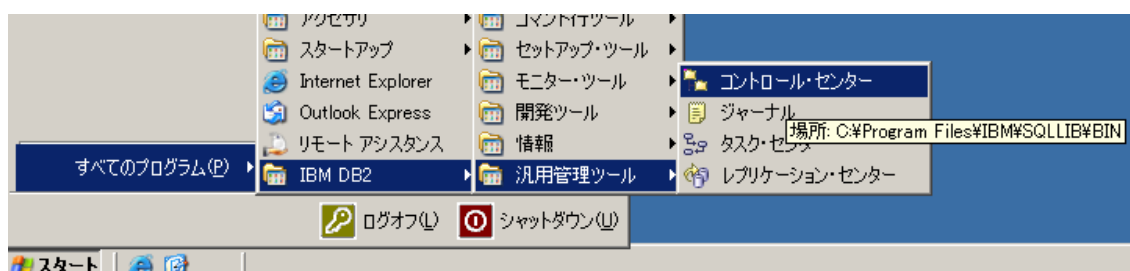
それぞれのユーザーの意味については、4.2.3 節の『ISec サーバーをインストールした直後のユーザー情報テーブル』を参照してください。

- (2) CSV ファイルを編集できるソフトウェア (テキストエディターまたは表計算ソフトウェアなど) を使い、登録するユーザー情報を CSV ファイルに追加します。
- (3) IBM DB2 のコントロール・センターを使い、CSV ファイルをユーザー情報テーブル (USERS) に書き戻します (インポート)。

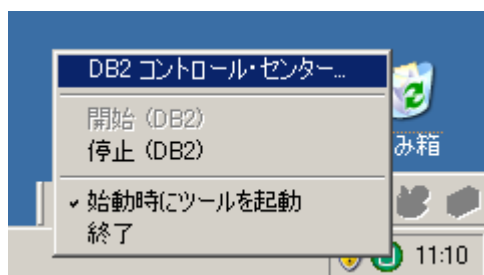
詳しい手順を以下に説明します。

IBM DB2 のコントロール・センターを起動します。起動方法は次の 2 種類があります。

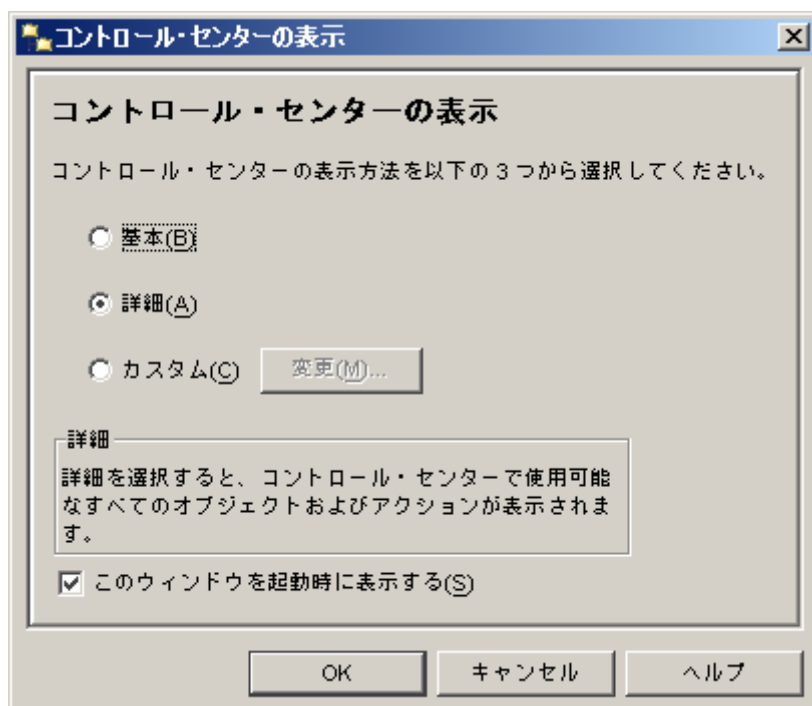
- Windows の「スタート」ボタン→IBM DB2→汎用管理ツール→コントロール・センター



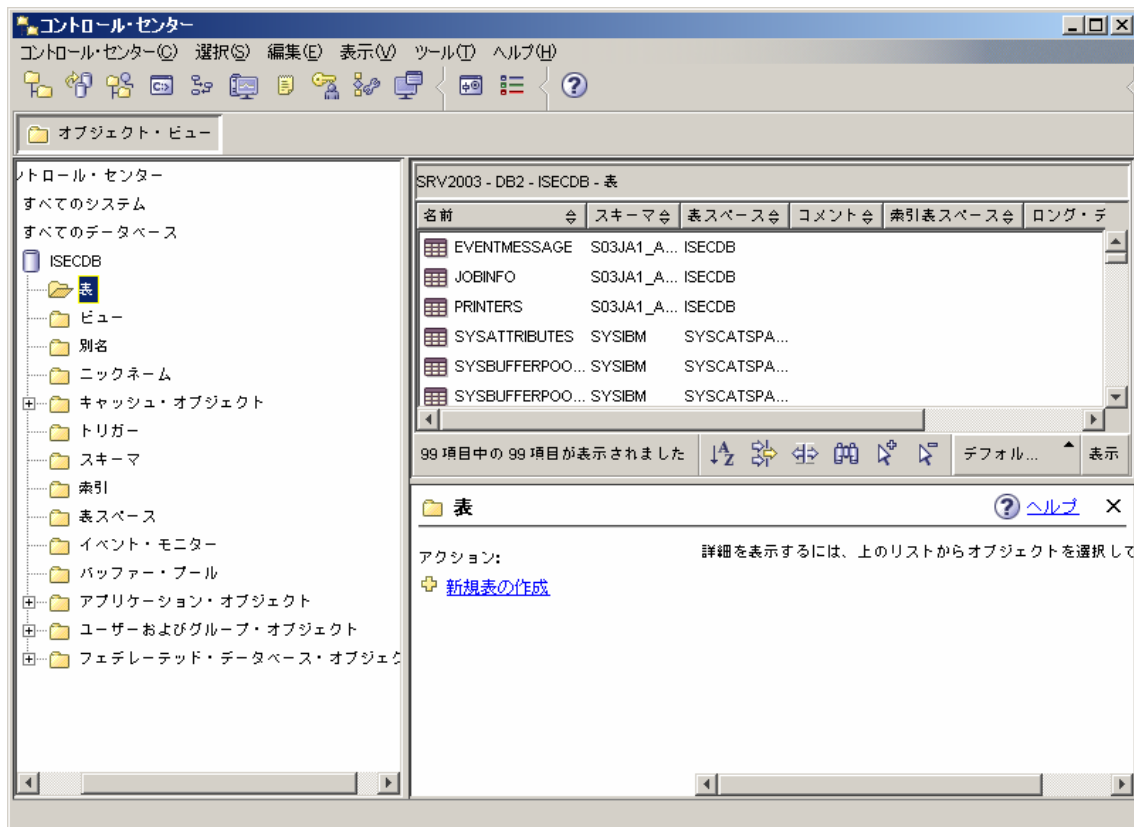
- Windows のタスクバーの DB2 アイコンをクリック→ DB2 コントロール・センター



最初の画面で「詳細」を選択して「OK」ボタンをクリックします。



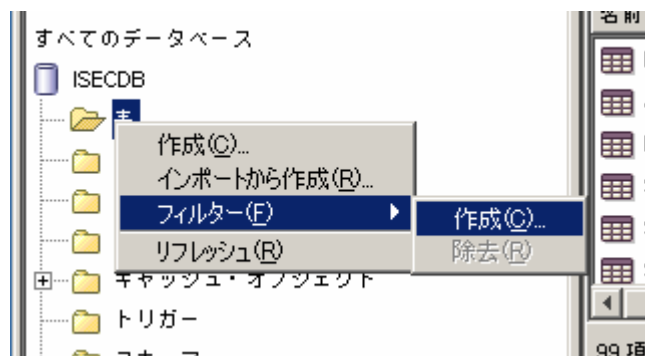
コントロール・センターの画面左側で「すべてのデータベース」→「ISECDB」→「表」の順に選びます。



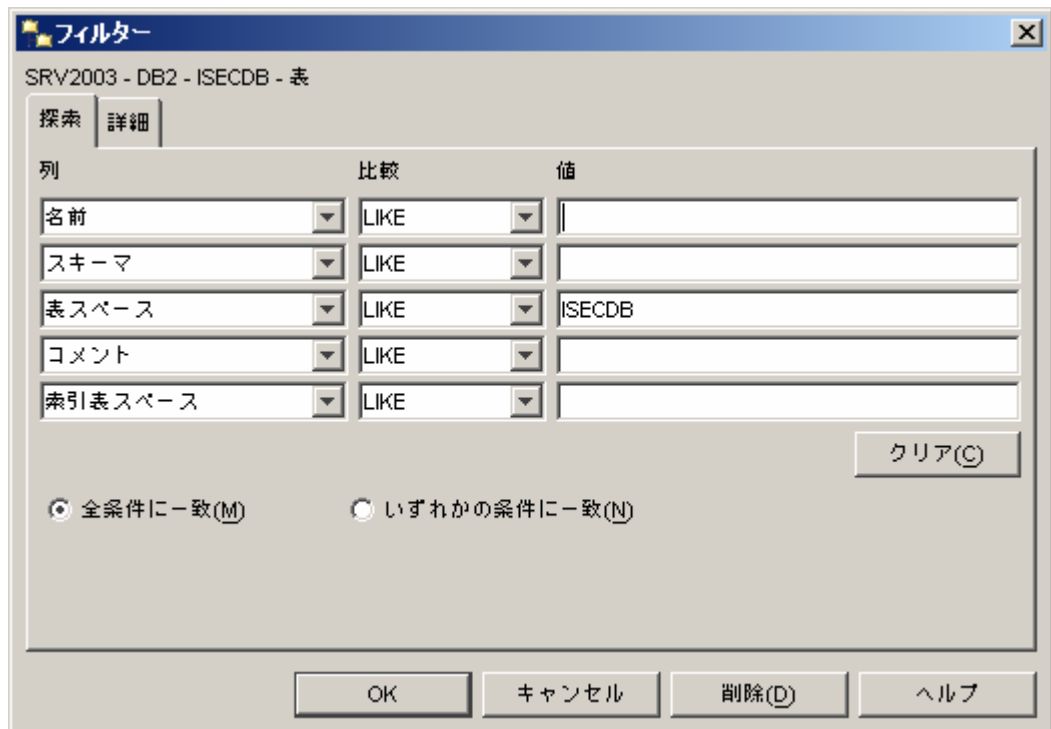
【注意事項】

- 「表」を選ぶと、デフォルトでは、DB2 が使用するすべてのテーブルが画面右側に表示されます。次の手順に従うと、ISec データベース(ISECDB)のテーブルだけを表示できるので便利です。

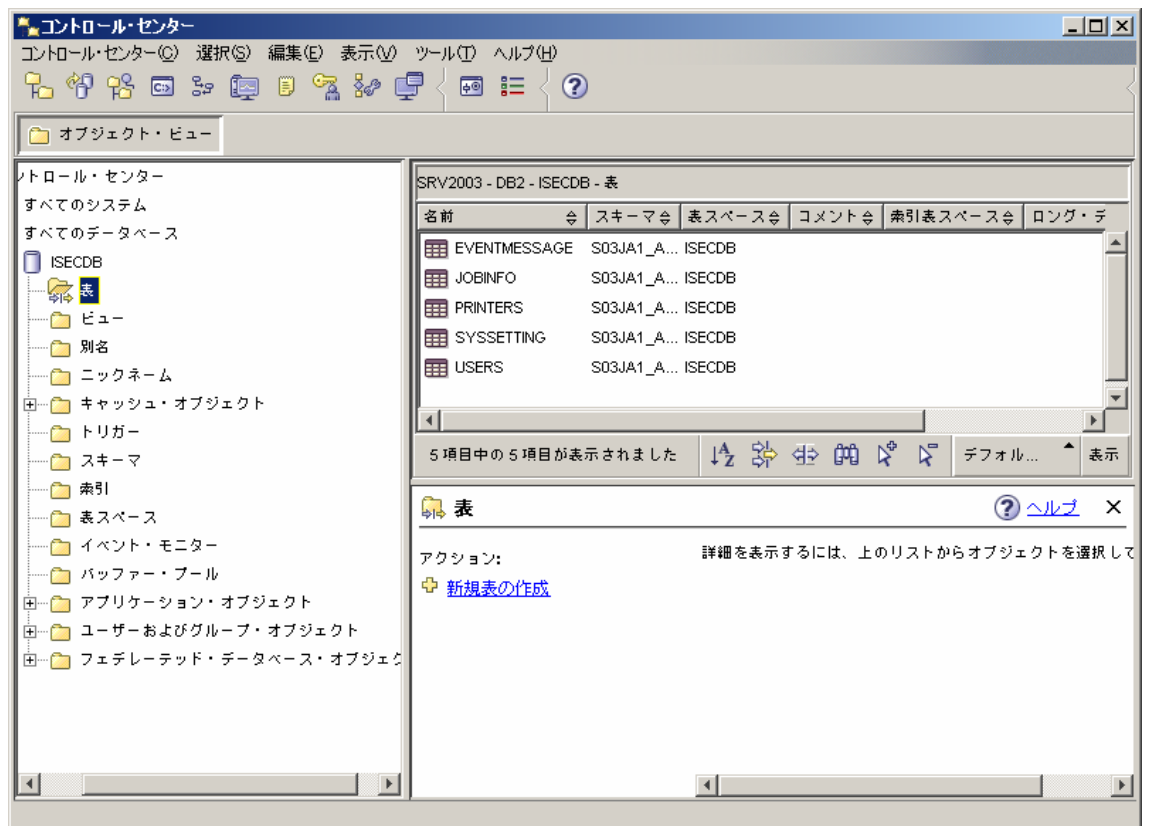
ISECDB の「表」を右クリック→フィルター→作成を選びます。



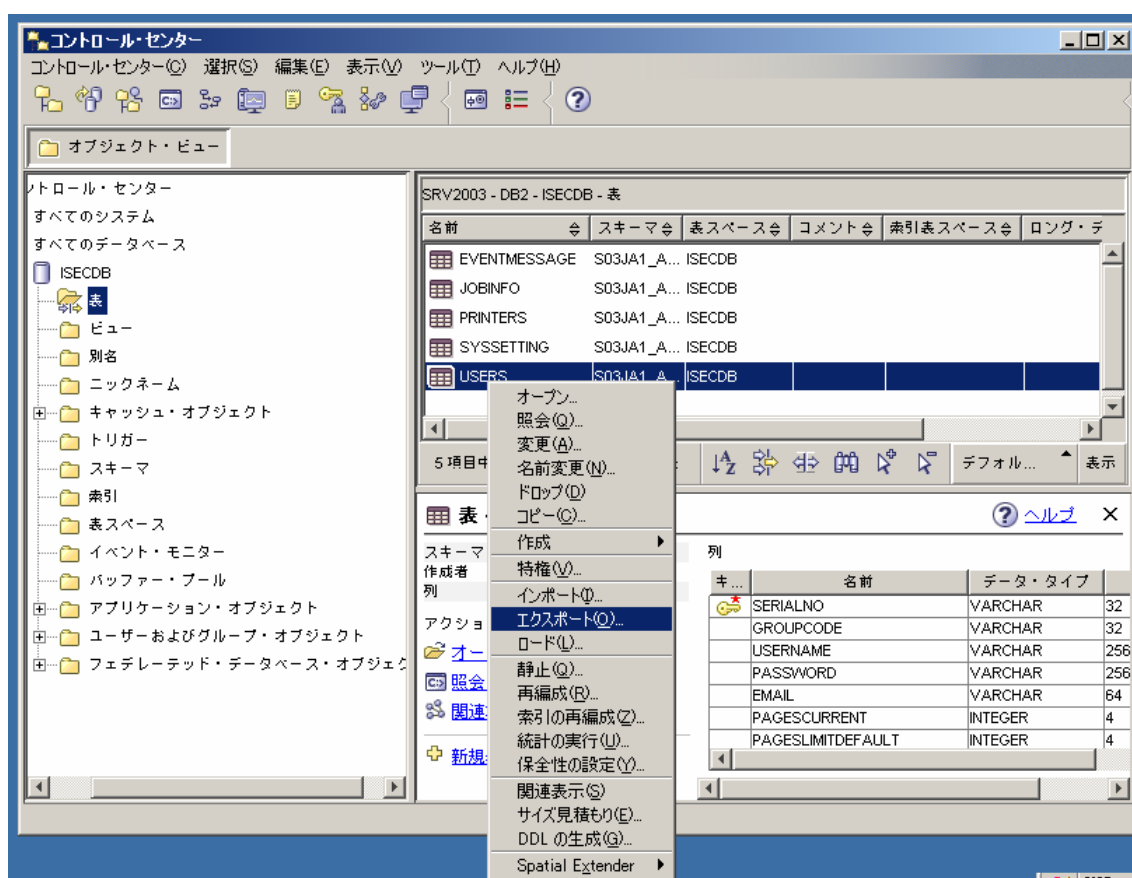
「表スペース」に「ISECDB」を指定します。



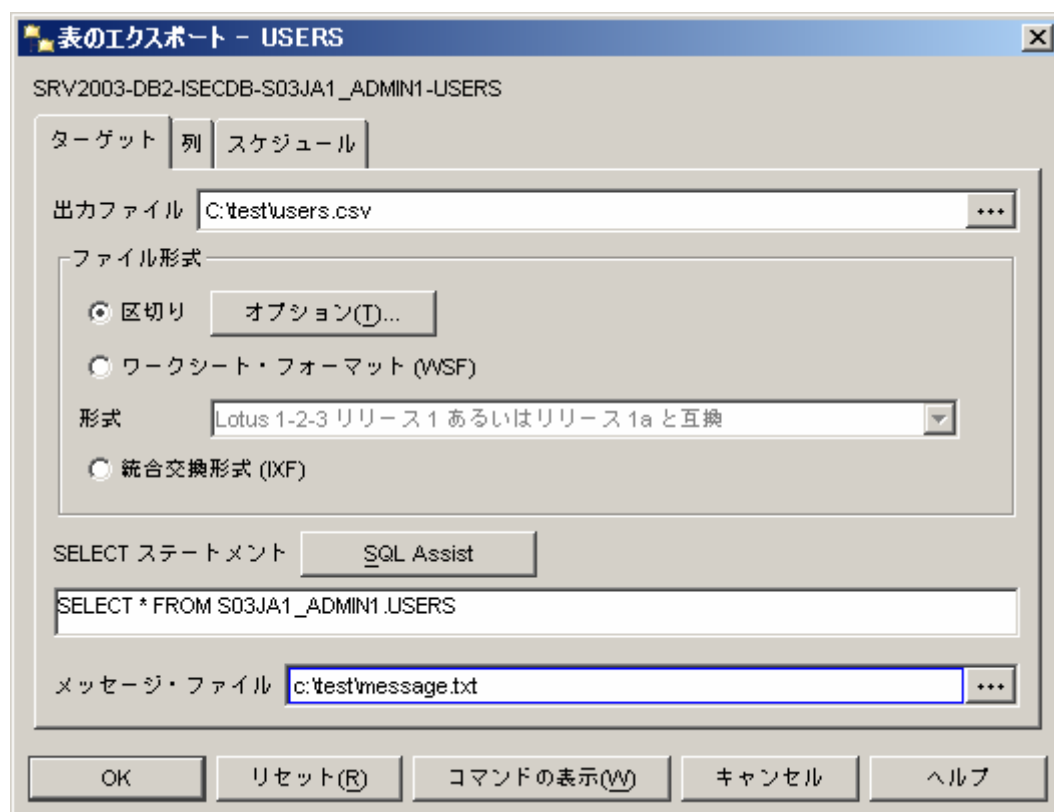
以上の手順で、コントロール・センターの画面右側には、ISec データベース (ISECDB) のテーブルだけが表示されるようになります。



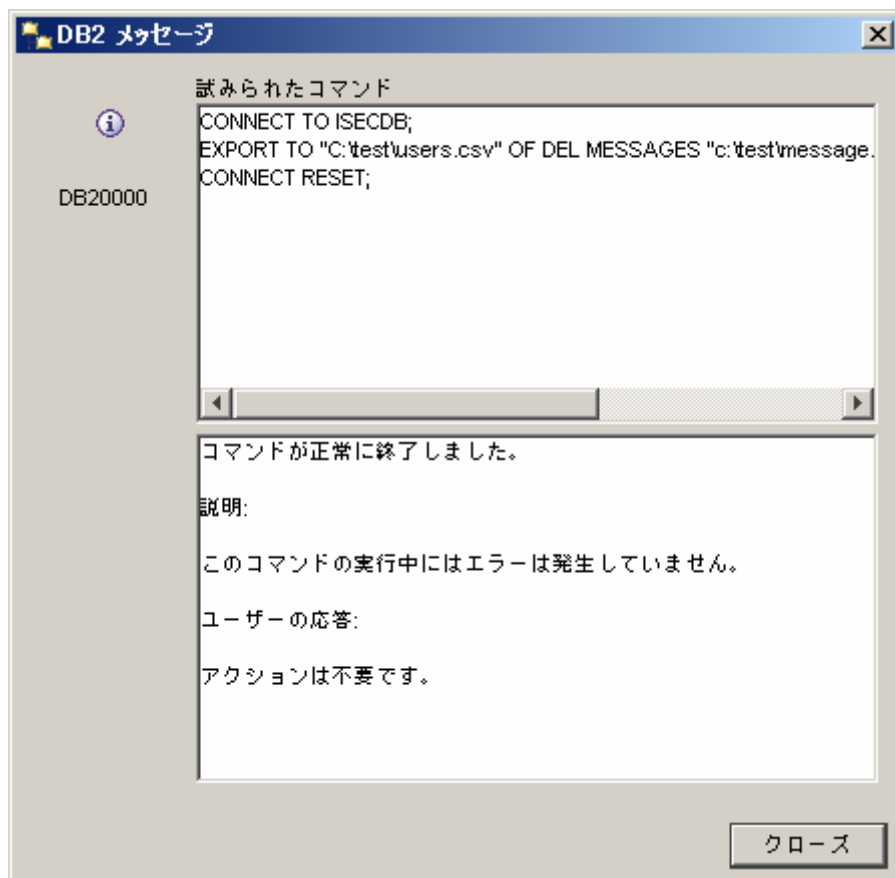
「USERS」テーブルを右クリックして、「エクスポート」を選びます。



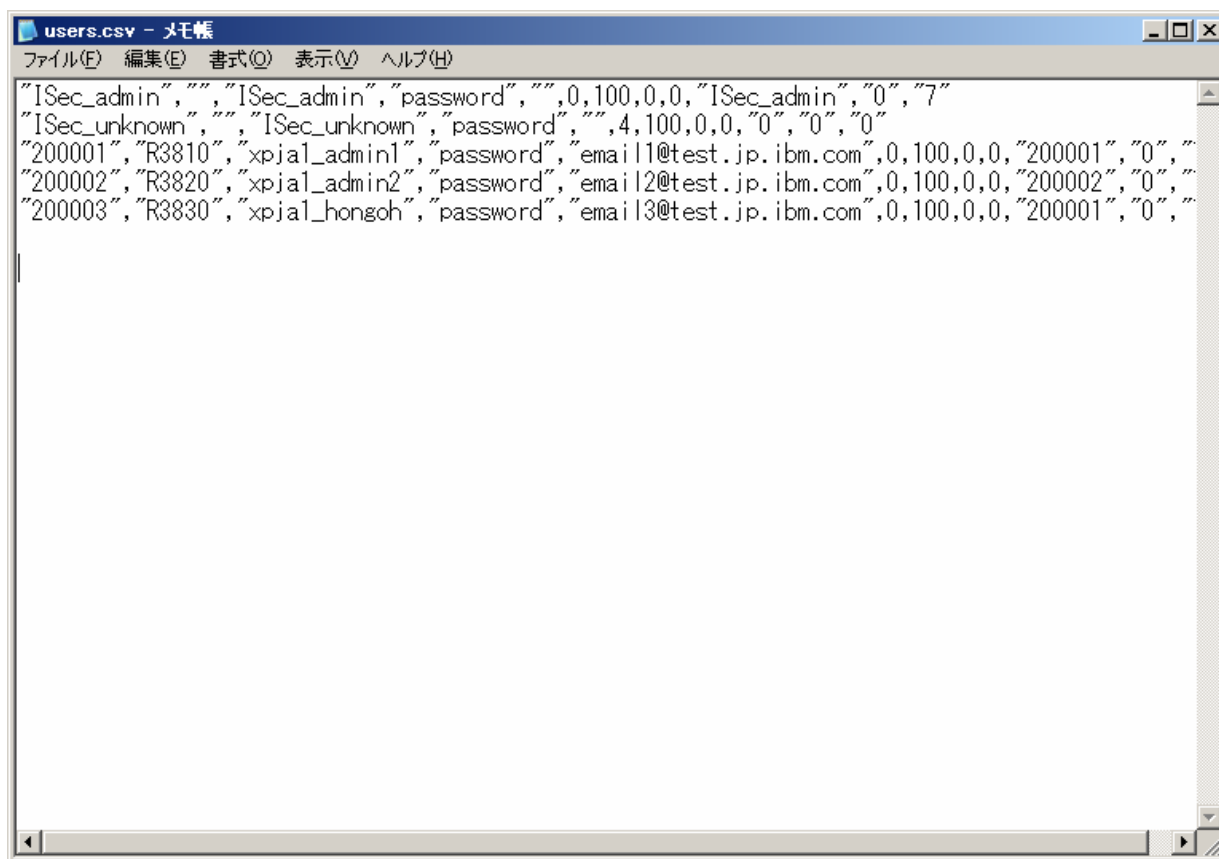
「出力ファイル」と「メッセージ・ファイル」を指定して、「OK」ボタンをクリックします。



次のメッセージが表示されたら CSV ファイルのエクスポートが正常に行われました。「クローズ」ボタンをクリックしてください。



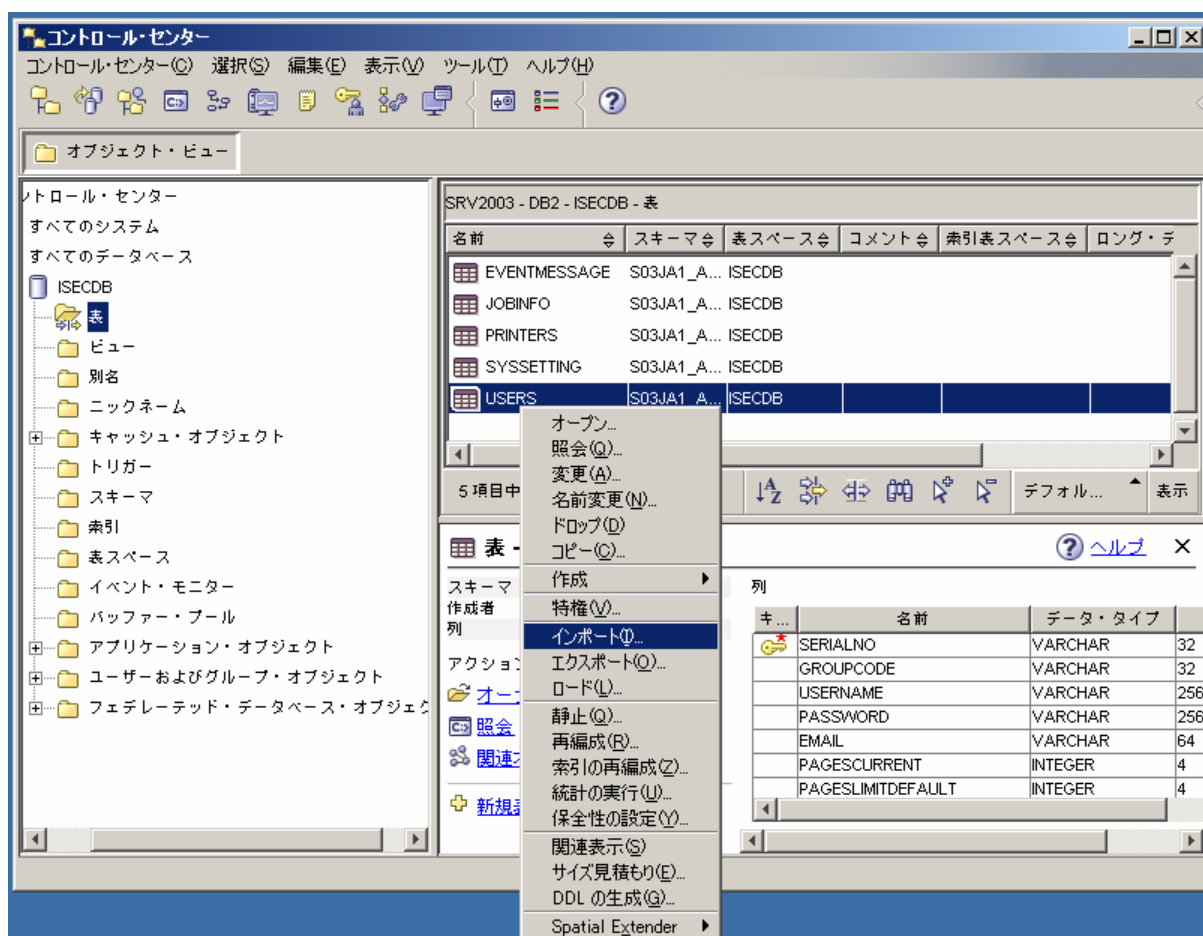
テキストエディター(メモ帳など)または表計算ソフトウェア(Microsoft Excel など)で、エクスポートした CSV ファイルに登録するユーザーを追加します。



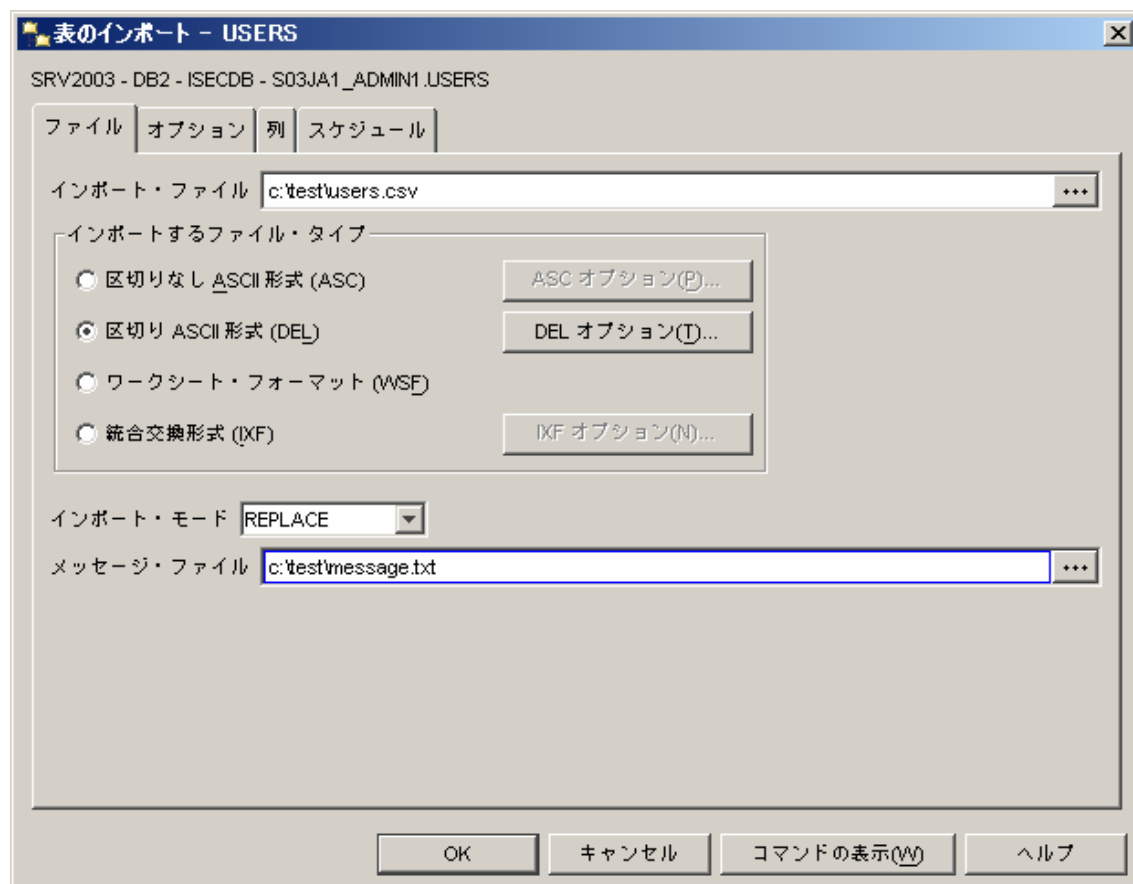
各行のフィールド(カラム)の意味は、4.2.6節の『ユーザー情報テーブルのフォーマット』を参照してください。

最後に、ユーザー情報を追加した CSV ファイルをユーザー情報テーブル(USERS)にインポートします。

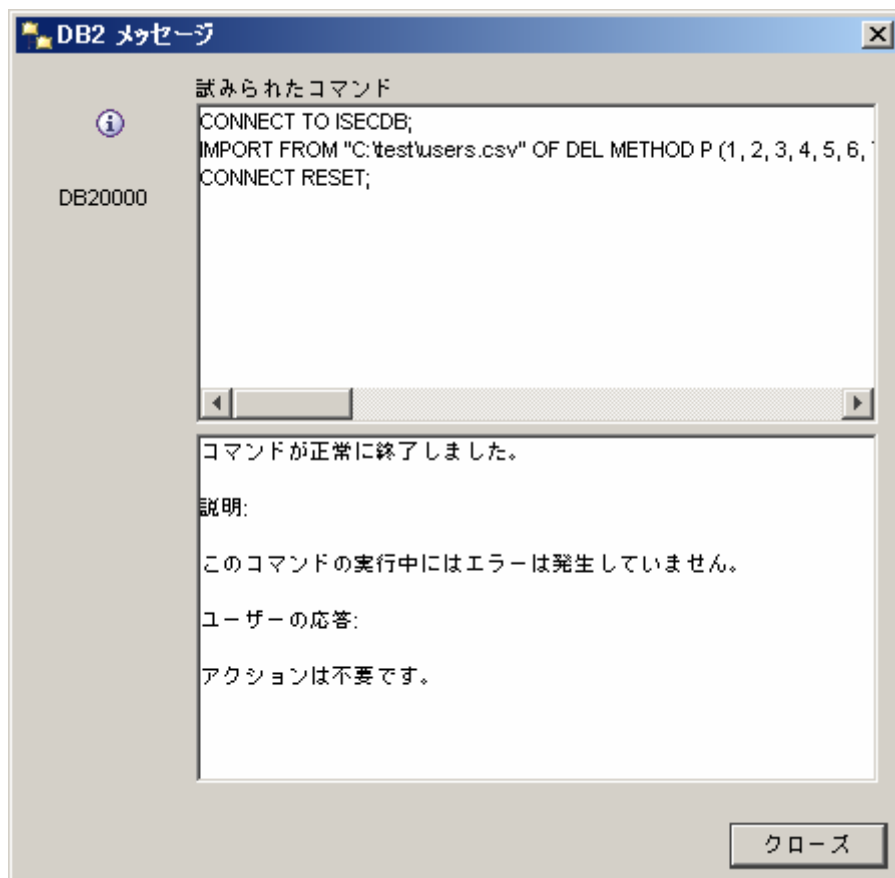
「USERS」を右クリックして「インポート」を選びます。



「インポート・ファイル」と「メッセージ・ファイル」を指定します。「インポート・モード」は「REPLACE」または「INSERT_UPDATE」を指定します。「OK」ボタンをクリックします。



次のメッセージが表示されたら CSV ファイルのインポートが正常に行われました。「クローズ」ボタンをクリックしてください。



確認のため「USERS」をダブルクリックして、テーブルの内容を表示すると、追加したユーザー情報が登録されていることがわかります。

The screenshot shows a window titled '表のオープン - USERS' (Table Open - USERS). The window displays a table with the following data:

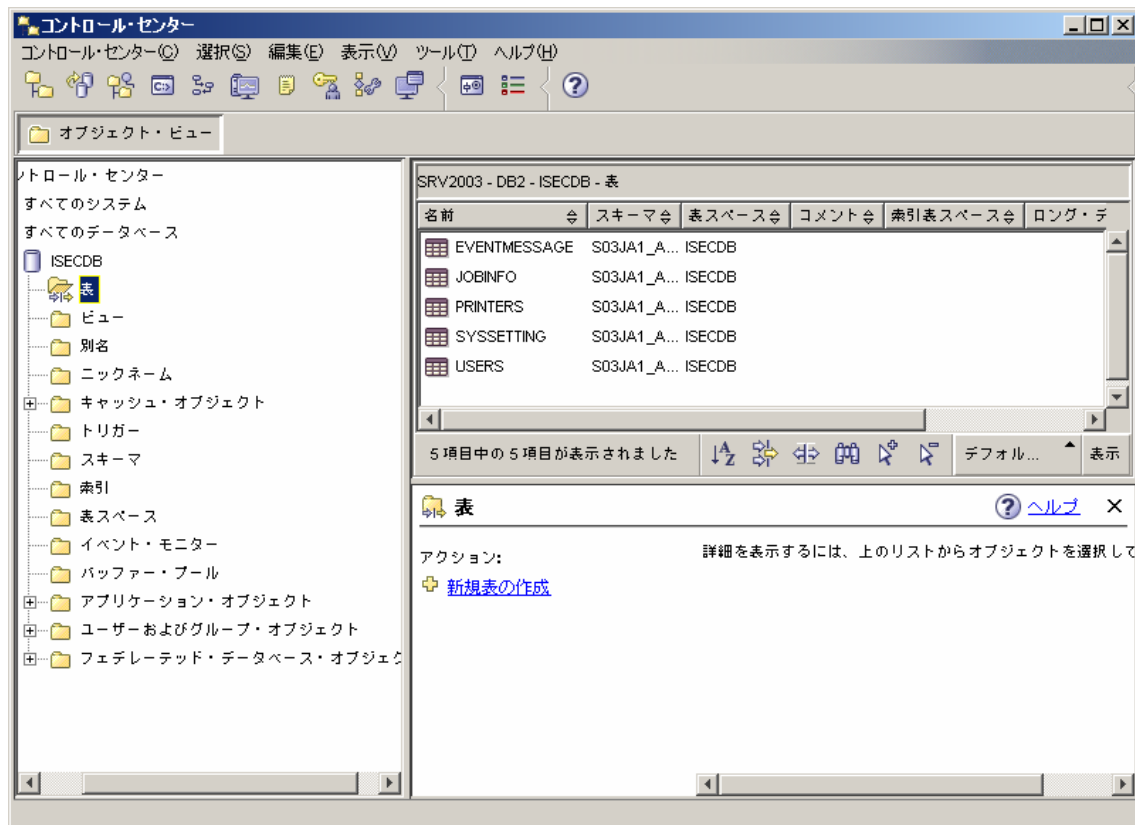
SERIALNO	GROUPCODE	USERNAME	PASSWORD	EMAIL
Sec_admin		ISec_admin	password	
Sec_unknown		ISec_unknown	password	
200001	R3810	xpja1_admin1	password	email1@test.jp.ibm..
200002	R3820	xpja1_admin2	password	email2@test.jp.ibm..
200003	R3830	xpja1_hongoh	password	email3@test.jp.ibm..

Below the table, there are several buttons: 'コミット(M)' (Commit), 'ロールバック(R)' (Rollback), 'フィルター(F)' (Filter), and 'より多くの行のフェッチ(F)' (Fetch more rows). There is also a checkbox for '更新の自動コミット(T)' (Automatic commit on update) and a label 'メモリー内の行数 :5' (Number of rows in memory :5). At the bottom right, there are 'クローズ' (Close) and 'ヘルプ' (Help) buttons.

4.2.5 コントロール・センターでユーザー情報を直接登録、更新する

IBM DB2 のコントロール・センターを使って、ユーザー情報を直接登録したり更新したりする方法を説明します。

最初にコントロール・センターを起動してください。以下の画面のように、ISec データベース (ISECDB) のユーザー情報テーブル (USERS) を選択できる状態にしてください。詳しくは、4.2.4 節の『CSV ファイルを使ってユーザー情報を登録する』を参照してください。



画面右側の「USERS」をダブルクリックするか、または右クリックして「オープン」を選んでください。

「表のオープン」画面が表示されます。

登録済み情報を変更したいときは、変更するセルを直接変更してから「コミット」ボタンをクリックしてください。

表のオープン - USERS

SRV2003 - DB2 - ISECDB - S03JA1_ADMIN1.USERS

SERIALNO	GROUPCODE	USERNAME	PASSWORD	EMAIL
ISec_admin		ISec_admin	password	
ISec_unknown		ISec_unknown	password	

☐ 更新の自動コミット(T)

メモリー内の行数 :3

ユーザーを追加したいときは、最後の行を選択し、「行の追加」ボタンをクリックして行を追加します。登録する情報を入力してから「コミット」ボタンをクリックしてください。

表のオープン - USERS

SRV2003 - DB2 - ISECDB - S03JA1_ADMIN1.USERS

DDDED	PAGESLIMITPRINTED	APPROVERSERIALNO	NOLIMITATION	ROLE
0	0	ISec_admin	0	7
0	0	0	0	0
0	0	20001	0	7

行の追加(A)

行の削除(D)

コミット(M) ロールバック(R) フィルター(F) より多くの行のフェッチ(F)

☐ 更新の自動コミット(T)

コントロール・センター test C:\WINDOWS\system32... users1.csv - メモ帳

最後に「クローズ」ボタンをクリックして、「表のオープン」画面を閉じてください。

4.2.6 ユーザー情報テーブルのフォーマット

ISec データベース (ISECDB) のユーザー情報テーブル (USERS) のフォーマットは、以下のとおりです。ユーザー情報テーブルのフォーマットは、今後変更される可能性があります。詳しくは、4.2.1節の『ISec データベース (ISECDB) の概要』を参照してください。

列の名前と意味	説明	DB			
		データ タイプ (*1)	最 大 長 (バイト) (*2)	空 白 禁 止 (*3)	省 略 値 (*4)
SERIALNO シリアル番号	ユーザーの識別番号です。 ISec データベース内で一意である必要があります。 ユーザーがグループ管理者のとき、ISec サーバーの Web ページにグループ管理者名を表示するために内部的に使われます。 ユーザーのAPPROVERSERIALNO→SERIALNO→USERNAMEの順に情報を検索して、Web ページにグループ管理者名が表示されます。	Char	32	X	N/A
GROUPCODE グループ名	ユーザーが所属する組織の組織コードです。ISec サーバーの Web ページの「ユーザーの管理」画面に表示されます。	Char	32		null
USERNAME ユーザー名	ISec のユーザーを識別する名前です。ユーザーが ISec サーバーの Web ページにログインする際に入力します。 ISec データベース内で一意である必要があります。 ユーザーが Windows へのログオン時に入力するユーザー名に一致させてください。 ユーザー名に使える文字は、Windows のユーザー名に使える文字と同じです。具体的には、次の文字を除く任意の文字が使えます。 “ / ¥ [] : ; = , + * ? < > ピリオド(.)またはスペースだけのユーザー名は使えません。	Char	256	X	N/A
PASSWORD パスワード	ユーザーが ISec サーバーの Web ページにログインする際に入力します。 ユーザーが Windows へのログオン時に入力するパスワードと一致させる	Char	256	X	N/A

	必要はありません。 パスワードに使える文字は、『ISec サーバー ユーザーズ・ガイド』の「4.2 自分のユーザー情報を変更する」または「5.2 グループのユーザーを管理する」を参照してください。				
EMAIL e-メール・アドレス	ユーザーの e-メール・アドレスを記述します。 (*5)	Char	64		null
PAGESCURRENT 現在印刷枚数	クライアント PC に ISec ドライバーをインストールしてから現在までにユーザーが印刷出力した枚数の総計です。直接印刷の枚数は含まれません。	Integer	4	X	N/A
PAGESLIMITDEFAULT 期間内に印刷できる枚数 (初期値)	期間内に印刷できる枚数の初期値を指定します。ここで指定した値は、現在の期間だけでなく、今後の全期間にわたって有効です。 注:この列は、印刷枚数管理機能を導入しているときだけ使われます。	Integer	4	X (*6)	100
PAGESLIMITADDED 期間内に印刷できる枚数 (追加分)	期間内に印刷できる枚数として初期値に追加したい枚数を指定します。現在の期間にだけ有効です。たとえば、毎月 200 枚印刷できる設定になっているとします (初期値が 200)。今月だけ印刷枚数を 300 枚にする場合には、追加分として 100 枚を指定します。 注:この列は、印刷枚数管理機能を導入しているときだけ使われます。	Integer	4	X (*6)	N/A
PAGESLIMITPRINTED 既に印刷した枚数	期間内にすでにこのユーザーが印刷した枚数です。必要に応じてこの数値を変更できます。 注:この列は、印刷枚数管理機能を導入しているときだけ使われます。	Integer	4	X (*6)	N/A
APPROVERSERIALNO グループ管理者	このユーザーのグループ管理者の識別番号を記述します。グループ管理者のレコードの SERIALNO に記述した識別番号に一致させてください。	Char	32	X	N/A
NOLIMITATION 印刷枚数制限を行わ	0: このユーザーに対して印刷枚数管理機能を有効にします。 1: このユーザーに対して印刷枚数管	0 または 1	1		0

ない	<p>理機能を無効にします。たとえ印刷枚数管理機能を導入していても、このユーザーは無制限に印刷できるようになります。</p> <p>注:この列は、印刷枚数管理機能を導入しているときだけ使われます。</p>				
ROLE Web ページへのアクセス権限	<p>4: (一般の)ユーザーであることを指定します。ISec サーバーの Web ページにログインすると、ユーザーメニューだけが表示されます。</p> <p>6: グループ管理者であることを指定します。ISec サーバーの Web ページにログインすると、ユーザーメニューとグループ管理者メニューが表示されます。</p> <p>7: システム管理者であることを指定します。ISec サーバーの Web ページにログインすると、ユーザーメニュー、グループ管理者メニュー、システム管理者メニューのすべてが表示されます。</p> <p>注: この列には、1 と 2 と 4 を任意に加えた数値を指定します。 1 は、システム管理者の権限を意味します。 2 は、グループ管理者の権限を意味します。 4 は、(一般の)ユーザーの権限を意味します。 通常は、上記のように 4、6、7 のどれかを指定してください。 1、2、4を任意に加えることで、以下の値も指定可能ですが、ログイン後に表示されるメニューが通常とは異なりますのでご注意ください。</p> <p>0: Web ページにログインすると、メニューが何も表示されないで、何も行えません。ISec_unknown の ROLE は 0 です。ISec_unknown の詳細は4.2.3節の『ISec サーバーをインストールした直後のユーザー情報テーブル』を参照してください。</p> <p>1: Web ページにログインすると、システム管理者メニューだけが表示されます。ユーザーメニューとグループ管理者メニューは表示されません。</p>	0 以上 7 以下の整数。	1	X	N/A

	<p>2: Web ページにログインすると、グループ管理者メニューだけが表示されます。システム管理者メニューとユーザーメニューは表示されません。</p> <p>3: Web ページにログインすると、システム管理者メニューとグループ管理者メニューだけが表示されます。ユーザーメニューは表示されません。</p> <p>5: Web ページにログインすると、システム管理者メニューとユーザーメニューだけが表示されます。グループ管理者メニューは表示されません。</p>				
--	---	--	--	--	--

*1: Charは、特に記述がないときは、任意のSBCS文字とDBCS文字が使えます。SBCS文字とDBCS文字の混在も可能です。Integerは、特に記述がないときは、0 以上の任意の整数です。最大値は、9 を最大文字数分並べた値です(例: 最大文字数が 4 のとき、最大値は 9999)。

*2: SBCS文字列のときの最大文字数です。すべてDBCSの文字列のときは、最大文字数は半分になります。

*3: 「X」は、この列の値が空白 (null) であってはならないことを意味します。値を入力しないと、IBM DB2 コントロール・センターがエラーを表示します。「X」を記述していないときは、空白 (null) が可能であることを示します。

*4: 値を入力しなかったときは、省略値を入力したものとみなされます。null は、値を入力していない状態(空白)を意味します。N/A は、null の状態があってはならない列なので、省略値が存在しないことを意味します。

*5: 現在のバージョンの ISec では、この列は使われていません。

*6: 基本機能だけを導入しているときは、空白 (null) にできます。印刷枚数管理機能を導入しているときは、空白 (null) にはできません。

4.3 「ソフトウェアの自動更新」を設定する

「ソフトウェアの自動更新」機能の使い方を説明します。この機能は、ISec サーバーの運用中に必要に応じて利用します。ISec の基本機能と印刷枚数管理機能の両方で利用できます。

4.3.1 「ソフトウェアの自動更新」の概要

「ソフトウェアの自動更新」機能を使うと、新しいバージョンの ISec ドライバーを多数のクライアント PC に自動配布できます。この機能の目的は、多数のクライアント PC にインストールしてある ISec ドライバーのバージョンをシステム管理者が集中管理できるようにすることです。

- ISec ドライバーの配布パッケージをあらかじめ ISec サーバーの特定のフォルダーに格納しておきます。

- ISec ドライバーの設定画面で「☐ ソフトウェアの自動更新を有効にする」にチェックを入れておきます。このようにすると、ISec サーバー上に ISec ドライバーの新しいバージョンが存在するかどうかを ISec ドライバーが定期的に確認します。
【補足】 ISec ドライバーのプロパティ画面でエンドユーザーが「今すぐ自動更新する」ボタンをクリックすることにより、ISec サーバーへの確認を直ちに行うこともできます。
- 新しいバージョンが見つかったと、クライアント PC の画面に更新の確認画面が表示されます。「OK」ボタンをクリックすると、ダウンロードとインストールを自動的に行います。
- インストール後は、クライアント PC の再起動が必要になります。

4.3.2 自動配布する ISec ドライバーを ISec サーバーに準備する

次の手順で行ってください。ISec サーバーはデフォルト(既定)のフォルダーにインストールしてあるものとして説明します。デフォルト以外のフォルダーにインストールしたときは、以下の説明を適宜読み替えてください。ISec サーバーのデフォルトのインストール先は、次のとおりです。

`C:\Inetpub\wwwroot\ISec`

- (1) ISec サーバーの次のフォルダーの下に新しいフォルダーを作ってください。

`C:\Inetpub\wwwroot\ISec\SERVERDATA\SoftwareUpdate`

新しいフォルダーの名前は、自動配布する ISec ドライバー(これから ISec サーバーに置く ISec ドライバー)のバージョン番号に一致させてください。

【例】

これからバージョン 1.1.1.0 の ISec ドライバーを ISec サーバーに置いて自動配布したいときは、次のフォルダーを作ります。

`C:\Inetpub\wwwroot\ISec\SERVERDATA\SoftwareUpdate\1.1.1.0`

- (2) 自動配布する ISec ドライバーの全ファイルを (1) で作成したフォルダーに複写します。

【例】

- (1) のフォルダーに、次のファイルを置きます。これは基本機能のファイルです。

IBMISCFG.XML

IBMISCHK.DLL

IBMISCHK.EXE

IBMISCLT.CFG

IBMISDRJ.DLL

IBMISDRV.CHM

IBMISDRV.DLL

IBMISDRV.HLP

IBMISDRV.INF

IBMISDUI.DLL
IBMISELG.DLL
IBMISLIB.DLL
IBMISMGR.EXE
IBMISRPC.DLL
IBMISUIL.DLL
IBMISWMP.CFG
LICENSE.TXT
README.TXT
SETUP.EXE

- (3) 次のファイルをテキストエディター（メモ帳など）で修正します。

Version.xml

このファイルは、次のフォルダーにあります。

C:\¥Inetpub¥wwwroot¥ISec¥SERVERDATA¥SoftwareUpdate

このファイル「Version.xml」は、ISec サーバーをインストールした直後は、次の内容です。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<Version>
    <New></New>
</Version>
```

<New>と </New> の間に、自動配布する ISec ドライバーのバージョン番号を記述して保存します。記述する ISec ドライバーのバージョン番号は、(1) で作成したフォルダーの名前に一致します。

【例】

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<Version>
    <New>1.1.1.0</New>
</Version>
```

この例では、クライアント PC にインストールしてある ISec ドライバーのバージョンが「1.1.0.0」のときは、サーバー上の「1.1.1.0」の方が新しいので、自動更新が行われます。

クライアント PC の ISec ドライバーが「1.1.2.0」のときは、サーバー上の「1.1.1.0」の方が古いので、自動更新は行われません。

バージョン番号の比較は、次の 2 つを使って行います。

■ クライアント PC にインストールしてある ISec ドライバーのバージョン

■ ISec サーバー上の Version.xml ファイル内部の <Version> の記述

(1) で作成したフォルダー名は、自動更新を行うべきかどうかを判断する際には参照されません。したがって、(1) の段階では、複数のフォルダーを異なるフォルダー名で作成しておくことも可能です。自動更新を行うとき、実際に参照されるファイルは、Version.xml ファイル内部の <Version> に一致するフォルダー名のファイルです。

【例】

次のフォルダーを作成してあるものとします。

C:\Inetpub\wwwroot\ISec\SERVERDATA\SoftwareUpdate\1.1.1.0

C:\Inetpub\wwwroot\ISec\SERVERDATA\SoftwareUpdate\1.1.2.0

C:\Inetpub\wwwroot\ISec\SERVERDATA\SoftwareUpdate\1.1.3.0

クライアント PC の ISec ドライバーのバージョンは「1.1.0.0」とします。

ISec サーバー上の Version.xml ファイルの内容が次のとおりだったとします。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<Version>
    <New>1.1.2.0</New>
</Version>
```

このときは、次の 2 つを比較した結果、「自動更新を行う」と判断されます。

■ クライアント PC 上の ISec ドライバーのバージョン「1.1.0.0」

■ ISec サーバー上の Version.xml ファイル内部の記述「1.1.2.0」

自動更新の際、ISec サーバーからクライアント PC にダウンロードされるのは、Version.xml の記述に基づき、次のフォルダーの全ファイルになります。

C:\Inetpub\wwwroot\ISec\SERVERDATA\SoftwareUpdate\1.1.2.0

4.3.3 「ソフトウェアの自動更新」のためにポーリングを行うタイミング

ISec ドライバー上で「☐ ソフトウェアの自動更新を有効にする」にチェックが入っていると、ISec ドライバーは ISec サーバーに対して定期的にポーリングを行い、サーバー上に新しい ISec ドライバーがあるかどうかを確認します。

ポーリングを行うタイミングは、次のようにして決まります。

- ポーリングを行う間隔は、ISec ドライバーの設定ファイルに記述します。具体的には「クライアント制御ファイル」(IBMISCLT.CFG) の SoftwareUpdateTime キーにポーリング間隔を指定します。デフォルトは 360 分です。詳しくは『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- ISec メッセンジャー (ISec ドライバーのコンポーネントであるアプリケーション) の開始時には、必ずポーリングを行います。この結果、次のことが言えます。
 - ◆Windows へのログオン時には、ISec メッセンジャーが自動的に開始するので、ポーリングを行います。
 - ◆Windows の起動後、まだログオンしていない状態では、ISec メッセンジャーが開始していないので、ポーリングは行いません。
 - ◆ポーリングを意図的に実行したいときは、いったん Windows をログオフしてから、再度ログオンしてください。
 ISec メッセンジャーについては『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- ISec メッセンジャーは、ポーリングが成功すると、「最後にポーリングが成功した日時」をクライアント PC 上に記録します。ポーリングの結果、新しい ISec ドライバーがサーバー上に見つからず、自動更新を行わなかったとしても、ポーリング自体が成功すれば、常に日時を記録します。
- いったんポーリングが成功すると、次にポーリングを行うタイミングは、「クライアント制御ファイル」(IBMISCLT.CFG) の SoftwareUpdateTime キーに指定した時間(デフォルト 360 分)が経過したか、または ISec メッセンジャーが実行を開始したか、どちらか早いタイミングです。SoftwareUpdateTime キーに指定した時間が経過したかどうかの判断は、クライアント PC 上に記録した「最後にポーリングが成功した日時」に基づいて行います。
- ISec メッセンジャーは、通信エラーなどでポーリングが失敗すると、ポーリングを再試行します。ポーリング失敗後の再試行の間隔は、「クライアント制御ファイル」(IBMISCLT.CFG) の LocalLogIntervalTime キーの値によって決まります。デフォルトは 10 分です。いったんポーリングが失敗すると、以後はポーリングが成功するまで、この間隔でポーリングを行います。

4.3.4 「ソフトウェアの自動更新」の注意事項

「ソフトウェアの自動更新」機能を使うときは、次の点に注意してください。

- ターミナルサービス利用時の注意

ターミナルサービスを利用しているサーバーに ISec ドライバーをインストールしているときは、「ソフトウェアの自動更新」の機能を使わないでください。

ISec ドライバーのプロパティ画面(「接続設定」タブ)の「今すぐ自動更新する」ボタンは、ユーザー権限に関係なく有効です。

システム管理者でない一般ユーザー(制限ユーザー)が「今すぐ自動更新する」ボタンをクリックして、実際に自動更新が行われると、次の確認メッセージが表示されます。

設定を有効にするには、コンピューターを再起動する必要があります。

今すぐ再起動する場合は「はい」を押してください。

ここでもしもユーザーが「はい」ボタンをクリックすると、ターミナルサービスを運用しているサーバーが再起動されてしまいます。これはターミナルサービスを利用しているほかのユーザーに重大な影響を与えます。

このような「一般ユーザー(制限ユーザー)によるサーバーの再起動」を防ぐために、ターミナルサービスの運用時は「ソフトウェアの自動更新」の機能を使わないでください。

4.4 「ドライバー設定の自動更新」を設定する

「ドライバー設定の自動更新」機能の使い方を説明します。この機能は、ISec サーバーの運用中に必要に応じて利用します。ISec の基本機能と印刷枚数管理機能の両方で利用できます。

4.4.1 「ドライバー設定の自動更新」の概要

「ドライバー設定の自動更新」機能を使うと、ISec ドライバーの設定ファイルを多数のクライアント PC に自動配布し、ISec ドライバーの設定内容を一斉に更新できます。この機能の目的は、多数のクライアント PC にインストールしてある ISec ドライバーの設定内容をシステム管理者が集中管理できるようにすることです。

自動配布の対象になる「ドライバー設定ファイル」とは、次の 2 つを指します。

- 構成情報ファイル (IBMISCFG.XML)
- ウォーターマーク設定ファイル (IBMISWMP.CFG)

「構成情報ファイル」と「ウォーターマーク設定ファイル」の詳細は『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

「構成情報ファイル」と「ウォーターマーク設定ファイル」のどちらか片方だけを自動配布することも可能です。

以下が手順の概要です。

- 自動配布したいドライバー設定ファイル(「構成情報ファイル」と「ウォーターマーク設定ファイル」)をあらかじめ ISec サーバーの特定のフォルダーに格納しておきます。
- ISec ドライバーの設定画面で「☐ ドライバー設定の自動更新を有効にする」にチェックを入れておきます。このようにすると、ISec サーバー上に ドライバー設定ファイルの新しい

いバージョンが存在するかどうかを ISec ドライバーが定期的に確認します。

【補足】 ISec ドライバーのプロパティ画面でエンドユーザーが「今すぐ自動更新する」ボタンをクリックすることにより、ISec サーバーへの確認を直ちに行うこともできます。

- 新しいバージョンのドライバー設定ファイルが見つかると、クライアント PC の画面に更新の確認画面が表示されます。「OK」ボタンをクリックすると、ダウンロードと設定更新を自動的に行います。
- 設定更新後は、クライアント PC の再起動が必要になります。

ドライバー設定ファイルの自動配布を行うのは、次の 2 つを比較して、サーバー側の方が新しいと判断したときだけです。

- クライアント PC 上のドライバー設定ファイルのバージョン
- サーバー上のドライバー設定ファイルのバージョン

「クライアント PC 上のドライバー設定ファイルのバージョン」の意味については、『ISec ドライバーユーザーズ・ガイド』の「バージョン情報を表示する」を参照してください。

「サーバー上のドライバー設定ファイルのバージョン」の意味は、以下で説明します。

4.4.2 自動配布するドライバー設定ファイルを ISec サーバーに準備する

次の手順で行ってください。ISec サーバーはデフォルト(既定)のフォルダーにインストールしてあるものとして説明します。デフォルト以外のフォルダーにインストールしたときは、以下の説明を適宜読み替えてください。ISec サーバーのデフォルトのインストール先は、次のとおりです。

C:\¥Inetpub¥wwwroot¥ISec

- (1) ISec サーバーの次のフォルダーの下に新しいフォルダーを作ってください。

C:\¥Inetpub¥wwwroot¥ISec¥SERVERDATA¥SettingUpdate

新しいフォルダーの名前は、自動配布するドライバー設定ファイル(これから ISec サーバーに置くドライバー設定ファイル)のバージョン番号に一致させてください。

ドライバー設定ファイルのバージョン番号は、次の形式です。

YYYYMMDD.N

YYYY: 年(西暦)

MM: 月

DD: 日

N: 0 以上 999 以下の 10 進数

【例】

これからバージョン 20070601.10 のドライバー設定ファイルを ISec サーバーに置いて自動配布したいときは、次のフォルダーを作ります。

C:\¥Inetpub¥wwwroot¥ISec¥SERVERDATA¥SettingUpdate¥20070601.10

- (2) 自動配布するドライバー設定ファイル、つまり構成情報ファイル (IBMISCFG.XML) とウォーターマーク設定ファイル (IBMISWMP.CFG)を (1) で作成したフォルダーに複写します。構成情報ファイルかウォーターマーク設定ファイルのどちらか片方だけをフォルダーに置いてもかまいません。
- (3) 次のファイルをテキストエディター (メモ帳など) で修正します。

Version.xml

このファイルは、次のフォルダーにあります。

C:\¥Inetpub¥wwwroot¥ISec¥SERVERDATA¥SettingUpdate

このファイル「Version.xml」は、ISec サーバーをインストールした直後は、次の内容です。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<Version>
    <New></New>
</Version>
```

<New>と </New> の間に、自動配布するドライバー設定ファイルのバージョン番号を記述して保存します。記述するバージョン番号は、(1) で作成したフォルダーの名前に一致します。

【例】

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<Version>
    <New>20070601.10</New>
</Version>
```

この例では、クライアント PC にインストールしてあるドライバー設定ファイルのバージョンが「20070601.0」のときは、サーバー上の「20070601.10」の方が新しいので、自動更新が行われます。

クライアント PC の ISec ドライバーが「20070602.0」のときは、サーバー上の「20070601.10」の方が古いので、自動更新は行われません。

バージョン番号の比較は、次の 2 つを使って行います。

- クライアント PC 上のドライバー設定ファイルのバージョン
- ISec サーバー上のドライバー設定ファイルのバージョン

(1) で作成したフォルダー名は、自動更新を行うべきかどうかを判断する際には参照されません。したがって、(1) の段階では、複数のフォルダーを異なるフォルダー名で作成しておくことも可能です。自動更新を行うとき、実際に参照されるファイルは、**Version.xml** ファイル内部の **<Version>** に一致するフォルダー名のファイルです。

【例】

次のフォルダーを作成してあるものとします。

C:\¥Inetpub¥wwwroot¥ISec¥SERVERDATA¥SoftwareUpdate¥20070601.9

C:\¥Inetpub¥wwwroot¥ISec¥SERVERDATA¥SoftwareUpdate¥20070601.10

C:\¥Inetpub¥wwwroot¥ISec¥SERVERDATA¥SoftwareUpdate¥20070601.11

クライアント PC のドライバー設定ファイルのバージョンは「20070601.0」とします。

ISec サーバー上の **Version.xml** ファイルの内容が次のとおりだったとします。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<Version>
    <New>20070601.10</New>
</Version>
```

このときは、次の 2 つを比較した結果、「自動更新を行う」と判断されます。

■ クライアント PC 上のドライバー設定ファイルのバージョン「20070601.0」

■ ISec サーバー上の **Version.xml** ファイル内部の記述「20070601.10」

自動更新の際、ISec サーバーからクライアント PC にダウンロードされるのは、**Version.xml** の記述に基づき、次のフォルダーの全ファイルになります。

C:\¥Inetpub¥wwwroot¥ISec¥SERVERDATA¥SoftwareUpdate¥20070601.10

4.4.3 「ドライバー設定の自動更新」のためにポーリングを行うタイミング

ISec ドライバー上で「☐ ドライバー設定の自動更新を有効にする」にチェックが入っていると、ISec ドライバーは ISec サーバーに対して定期的にポーリングを行い、サーバー上に新しいドライバー設定ファイルがあるかどうかを確認します。

ポーリングを行うタイミングは、次のようにして決まります。

- ポーリングを行う間隔は、ISec ドライバーの設定ファイルに記述します。具体的には「クライアント制御ファイル」(IBMISCLT.CFG) の **SettingUpdateTime** キーにポーリング間隔を指定します。デフォルトは 360 分です。詳しくは『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- ISec メッセンジャー (ISec ドライバーのコンポーネントであるアプリケーション) の開始時

には、必ずポーリングを行います。この結果、次のことが言えます。

◆Windows へのログオン時には、ISec メッセンジャーが自動的に開始するので、ポーリングを行います。

◆Windows の起動後、まだログオンしていない状態では、ISec メッセンジャーが開始していないので、ポーリングは行いません。

◆ポーリングを意図的に実行したいときは、いったん Windows をログオフしてから、再度ログオンしてください。

ISec メッセンジャーについては『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- ISec メッセンジャーは、ポーリングが成功すると、「最後にポーリングが成功した日時」をクライアント PC 上に記録します。ポーリングの結果、新しいドライバー設定ファイルがサーバー上に見つからず、自動更新を行わなかったとしても、ポーリング自体が成功すれば、常に日時を記録します。
- いったんポーリングが成功すると、次にポーリングを行うタイミングは、「クライアント制御ファイル」(IBMISCLT.CFG) の `SettingUpdateTime` キーに指定した時間(デフォルト 360 分)が経過したか、または ISec メッセンジャーが実行を開始したか、どちらか早いタイミングです。`SettingUpdateTime` キーに指定した時間が経過したかどうかの判断は、クライアント PC 上に記録した「最後にポーリングが成功した日時」に基づいて行います。
- ISec メッセンジャーは、通信エラーなどでポーリングが失敗すると、ポーリングを再試行します。ポーリング失敗後の再試行の間隔は、「クライアント制御ファイル」(IBMISCLT.CFG) の `LocalLogIntervalTime` キーの値によって決まります。デフォルトは 10 分です。いったんポーリングが失敗すると、以後はポーリングが成功するまで、この間隔でポーリングを行います。

4.4.4 「ドライバー設定の自動更新」の注意事項

「ドライバー設定の自動更新」機能を使うときは、次の点に注意してください。

- ターミナルサービス利用時の注意
ターミナルサービスを利用しているサーバーに ISec ドライバーをインストールしているときは、「ドライバー設定の自動更新」の機能を使わないでください。
ISec ドライバーのプロパティ画面(「接続設定」タブ)の「今すぐ自動更新する」ボタンは、ユーザー権限に関係なく有効です。
システム管理者でない一般ユーザー(制限ユーザー)が「今すぐ自動更新する」ボタンをクリックして、実際に自動更新が行われると、次の確認メッセージが表示されます。

設定を有効にするには、コンピューターを再起動する必要があります。

今すぐ再起動する場合は「はい」を押してください。

ここでもしもユーザーが「はい」ボタンをクリックすると、ターミナルサービスを運用しているサーバーが再起動されてしまいます。これはターミナルサービスを利用しているほかのユーザーに重大な影響を与えます。

このような「一般ユーザー(制限ユーザー)によるサーバーの再起動」を防ぐために、ターミナルサービスの運用時は「ドライバー設定の自動更新」の機能を使わないでください。

第5章 Web ページを使う

ISec サーバーのインストールが終了すると、Web ページが使えるようになります。
システム管理者が Web ページで行う作業を説明します。

5.1 ログインページを表示する

ISec サーバーの Web ページを使うには、まずログインページを表示します。

5.1.1 ログインページの URL(アドレス)

ISec サーバーのログインページの URL(アドレス)は、次のとおりです。

`http://ISec サーバーのホスト名/ISec/`

【例】`http://server.mycompany.co.jp/ISec/`

次の点にご注意ください。

- 「/ISec/」の最後の「/」は省略できます。
- 「ISec」は大文字と小文字を区別しません。「isec」も有効です。
- 「ISec」の部分は固定です。別の文字列には変えられません。
- ISec サーバーをインストールしたコンピューター上では、次の URL でログインページを表示できます。

`http://localhost/ISec/`

5.1.2 ISec サーバーの起動直後にログインページを表示する

次のときは、必ず ISec サーバーのログインページを一度表示してください。

- ISec サーバーをインストールした直後
- ISec サーバーを再起動した直後
- `iisreset` コマンドなどを使い、インターネット インフォメーション サービス (IIS) を再起動した直後

【注意】

- 上記のときにログインページの表示が必要な理由は、インターネット インフォメーション サービス (IIS) の起動後、初めて Web ページを表示するときに内部的に行われる処理があるからです。

- `iisreset` コマンドは、インターネット インフォメーション サービス (IIS) を再起動するコマンドです。コマンドプロンプトで「`iisreset`」と入力して、[Enter] キーを押すと実行できます。
- サーバー・コンピュータの処理速度によりますが、ログインページを最初に表示するときだけ、数十秒かかることがあります。2 回目以後の表示は直ちに行われます (サーバー・コンピュータとネットワークの状況によります)。
- ログインページを表示するだけでよく、実際にログインする必要はありません。ただし、ISec サーバーをインストールした直後は、サーバーの動作確認の目的で、ログインすることをお勧めします。
- 上記のときにログインページを表示しないと、クライアント PC から最初に印刷を行ったときに、ISec サーバーで内部処理が行われます。そのため、1 回目の印刷に時間がかかります。あらかじめログインページを一度表示しておけば、クライアント PC からの印刷に時間がかかることはありません。

5.1.3 ISec サーバーにログインする

ログインページでユーザー名とパスワードを入力すると、ISec サーバーにログインできます。ログインの方法については、『ISec サーバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

次の点にご注意ください。

- ISec サーバーのインストール直後で、まだ ISec データベースにユーザーを登録していない状態では、ログインページで入力できるユーザー名が限られています。この状態で使用できるユーザー名については、4.2.3節の『ISec サーバーをインストールした直後のユーザー情報テーブル』を参照してください。
- ISec サーバーをインストールし、正常にログインできることを確認した後は、ISec サーバーの設定を行い、データベースにユーザーを登録してください。詳しくは、第 4 章の『ISec サーバーの設定を行う』を参照してください。
- ISec サーバーのデータベースにユーザーを登録した後は、ISec ドライバーを利用するユーザーに、ISec サーバーの Web ページ (ログインページ) の URL (アドレス) を通知してください。

5.2 システム管理者が Web ページで行う作業

システム管理者は ISec サーバーの Web ページを使って次のことが行えます。

- 環境設定の変更
- 印刷状況の表示

- 印刷ログの削除
- ユーザーの管理

ISec サーバーにログインするとトップメニューが表示されます。トップメニューには、「ユーザーメニュー」、「グループ管理者メニュー」、「システム管理者メニュー」が表示されます。システム管理は「システム管理者メニュー」を使用します。

以下では「システム管理者メニュー」の使い方を説明します。「ユーザーメニュー」と「グループ管理者メニュー」の使い方は、『ISec サーバー ユーザーズ・ガイド』を参照してください。



図 1 トップメニュー

5.3 環境設定を変更する

システム管理者は、ユーザーを自動的にログアウトさせるまでのタイムアウト時間、トップメニューに表示する問い合わせ先情報、印刷枚数制限値をリセットするタイミングの指定など、システムの設定を変更できます。

設定を変更する手順は次のとおりです。

1. トップメニューで、「システム管理者メニュー」の「環境設定を変更する」をクリックします。

➡ 「環境設定の変更」画面が表示されます。

ISec > システム管理者メニュー > 環境設定の変更 >

トップメニューに戻る ひとつ上に戻る

環境設定を変更し、「変更」ボタンをクリックしてください。

【Web ページの設定】

設定項目	値	説明
接続タイムアウト(分)	10	画面を操作しないまま指定した時間が経過すると自動的にログアウトされます。 0 を指定すると、自動的なログアウトは行われません。
問い合わせ先	長田(おさだ)[内線 1685]	ISec サーバーにログインした直後の画面に表示されます。 最長全角 32 文字 (半角 64 文字) です。

【印刷枚数管理機能の設定】

次回の印刷枚数リセット日時: 2007/05/20 00:00

設定項目	値	説明
印刷枚数管理機能	<input checked="" type="checkbox"/> 有効にする	チェックを入れたときだけ印刷枚数管理機能が有効になります。 チェックを外すと、以下の設定は無効になります。
印刷枚数をリセットするタイミング	<input type="radio"/> 日単位 <input checked="" type="radio"/> 週単位 実行日: 日 曜日 間隔: 1 週 <input type="radio"/> 月単位 実行日: <input checked="" type="radio"/> 日付指定 1 日 間隔: 1 ヶ月 <input type="radio"/> 年単位 実行日: 1 月 1 日 間隔: 1 年	印刷枚数をリセットするタイミングです。
印刷枚数をリセットする時刻	0 時 0 分	印刷枚数をリセットする時刻です。

変更... 環境設定を変更します。

リセット 画面を変更前の状態にいったん戻し、環境設定の変更を続けます。

図 2 「環境設定の変更」画面

2. 【環境設定の変更】の下にある「接続タイムアウト(分)」と「問い合わせ先」を必要に応じて指定します。

接続タイムアウト(分)

ユーザーが ISec サーバーにログインしたあと、処理を行わずにいた場合に、自動的にログアウトするまでの時間を分単位で指定します。指定できる値は 0 から 65535 までです。0 を指定すると、タイムアウトは自動で行われません。

変更した時点でそのユーザーがログインしていたときは、次回のログイン時から変更後のタイムアウト時間が有効になります。接続タイムアウトの変更は、現在ログイン中のユ

ーザーには無効です(そのユーザーがログインした時点でのタイムアウト値が適用されます)。

問い合わせ先

トップメニューに表示する問い合わせ先情報(場所、担当者、電話番号など)を指定します。

3. 【印刷枚数制限期間の設定】の下にある「印刷枚数管理機能」、「印刷枚数リセットのタイミング」、「印刷枚数リセット時刻」を必要に応じて指定します。

注:【印刷枚数制限期間の設定】は印刷枚数管理機能をインストールしている場合に表示されます。

印刷枚数管理機能

印刷枚数管理機能を有効にするときは、「☐ 有効にする」にチェックを入れてください。ISec サーバー(印刷枚数管理機能)をインストールした直後は、チェックが外れています。

印刷枚数リセットのタイミング

印刷枚数をリセットする間隔を指定します。ISec サーバー(印刷枚数管理機能)をインストールした直後は、何も指定していません。印刷枚数管理機能の「☐ 有効にする」(上記)をチェックしたときは、「印刷枚数リセットのタイミング」を指定する必要があります。「☐ 有効にする」にチェックを入れて、「印刷枚数リセットのタイミング」に何も指定せずに「変更」ボタンをクリックすると、画面は何も変化しません。

- 日間隔で印刷枚数をリセットするには、「日単位」にチェックマークを付け、間隔を日数で指定します。間隔に指定できる値は 1 から 999 までです。
- 週間隔で印刷枚数をリセットするには、「週単位」にチェックマークを付け、実行日に曜日を指定し、間隔に週数を指定します。間隔に指定できる値は 1 から 99 までです。
- 月間隔で印刷枚数をリセットするには、「月単位」にチェックマークを付け、実行日を「日付指定」または「月末」から選択します。「日付指定」を選択した場合は、日付も指定する必要があります。この場合は、該当月の指定日にリセットが行われます。「月末」を選択した場合は、該当月の最後の日にリセットが行われます。リセットを行う間隔は月数で指定します。間隔に指定できる値は 1 から 99 までです。
- 年間隔で印刷枚数をリセットするには、「年単位」にチェックマークを付け、実行日に日付を指定し、間隔に年数を指定します。間隔に指定できる値は 1 から 9 までです。

印刷枚数リセット時刻

印刷枚数をリセットする時刻を指定します。省略時は午前 0 時 0 分です。

4. 変更する項目を指定したら、「変更」ボタンをクリックします。

➡ 確認画面が表示され、変更項目が赤で表示されます。

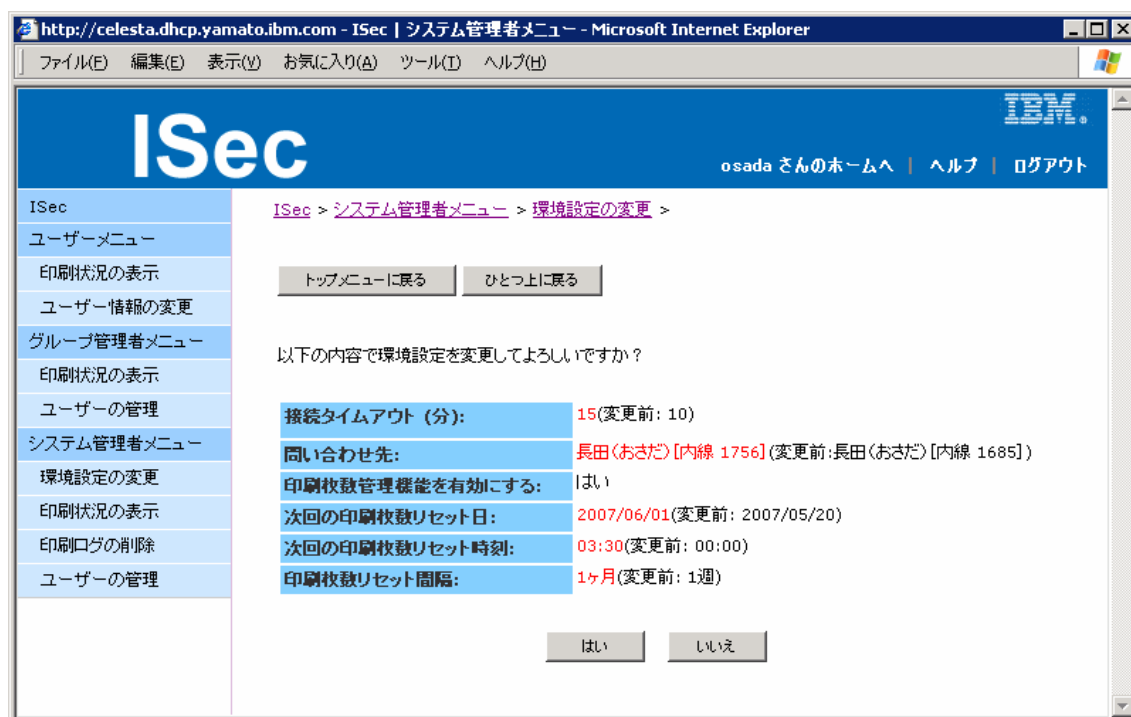


図 3 「環境設定の変更」—確認画面

5. 内容を確認して、「はい」をクリックします。

➡ 結果画面が表示され、新しい設定が保存されます。



図 4 「環境設定の変更」—結果画面

5.4 印刷状況を表示する

システム管理者が管理するユーザーの印刷ジョブを表示します。

印刷状況を表示する手順は次のとおりです。

1. トップメニューで、「システム管理者メニュー」の「すべての印刷状況を表示する」をクリックします。

➡ 「印刷状況の表示」画面が表示されます。表示したい印刷ジョブの条件を指定します。

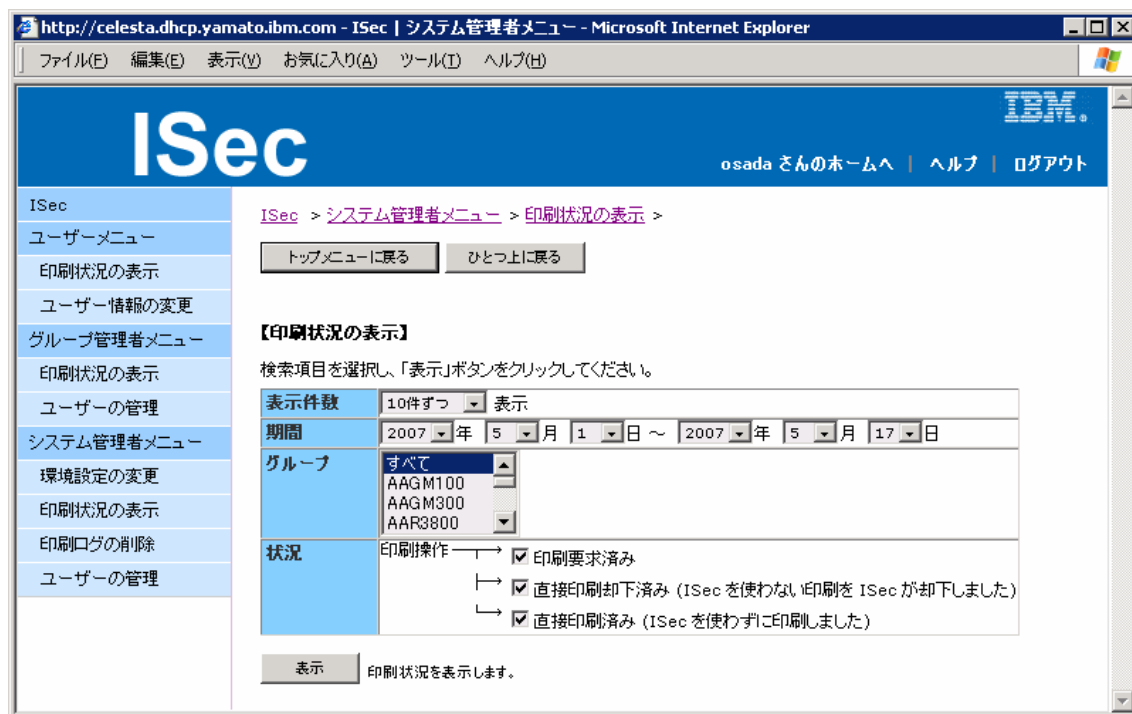


図 5 「印刷状況の表示」画面

2. 表示件数、期間、グループ、状況を必要に応じて指定します。

表示件数

印刷ジョブを一度に何件ずつ表示するかを指定します。省略時は 10 件ずつ表示されます。

期間

表示したい印刷ジョブの出力期間を指定します。省略時は当月の印刷ジョブが表示されます。

グループ

表示するユーザー・グループを指定します。省略時はすべてのグループに属するユーザーの印刷ジョブが表示されます。

状況

次の中から、表示したい印刷ジョブの状況を選択します。複数の項目を選択できます。

- 「印刷要求済み」にチェックマークを付けると、印刷要求を出したジョブが表示さ

れます。

- 「直接印刷却下済み」にチェックマークを付けると、ISec を使わない印刷で ISec により却下された印刷ジョブが表示されます。
- 「直接印刷済み」にチェックマークを付けると、ISec を使わずに印刷したジョブが表示されます。

3. 「表示」ボタンをクリックします。

➡ 「印刷ジョブ一覧」画面に、指定した検索条件に合うすべてのジョブのジョブ ID、状況、印刷出力日付、ユーザー名、ドキュメント名などが表示されます。

ISec > システム管理者メニュー > 印刷状況の表示 > 印刷ジョブ一覧 >

トップメニューに戻る ひとつ上に戻る

【印刷ジョブ一覧】
見出しの項目をクリックするとソートされます。
ジョブ ID をクリックすると内容が表示されます。

ジョブ ID	状況	日付	ユーザー名	ドキュメント名	印刷枚数	累計印刷枚数
791	印刷要求済み	2007/05/17 22:43:26	osaadmin	セッション B - EHONE	1	825
790	直接印刷却下済み	2007/05/17 22:39:15	osaadmin	newpage1.html - 無題	824	824
789	印刷要求済み	2007/05/17 22:37:55	approver12	MSInfo6	5	5
788	直接印刷済み	2007/05/17 22:29:25	osaadmin	InfoPrint Security の優位性.txt - メモ帳	824	824
787	印刷要求済み	2007/05/17 22:17:34	user122	ドキュメント	3	3
786	印刷要求済み	2007/05/17 22:16:42	admin1	無題	1	1
785	印刷要求済み	2007/05/17 22:15:35	approver11	http://www.ibm.com/jp/	1	2
784	印刷要求済み	2007/05/17 21:58:41	approver11	http://www.google.co.jp/webhp?sourceid=navclient&hl=ja&ie=UTF-8	1	1
783	印刷要求済み	2007/05/17 21:55:20	osaadmin	Microsoft Word - 文書1	1	824
782	印刷要求済み	2007/05/17 21:22:18	osaadmin	無題 - メモ帳	1	823

全326件中1-10件目 1 2 3 4 5 ...

CSV 形式でダウンロードする... ☐ 見出しを含める

図 6 「印刷ジョブ一覧」画面

中央画面の左上と左下には、指定した検索条件に合ったジョブの全件数が表示されます。指定した検索条件に合うジョブが指定した表示件数よりも多い場合は、中央画面の右上と右下に各ページへのリンクが表示されます。

各列の見出しをクリックすると、表示順をソートできます。すでにソートキーになっている見出しを再度クリックすると、昇順と降順が入れ替わって表示されます。見出し行に▲が表示されている場合

は、そのソートキーによって昇順で表示されていることを示します。▼が表示されている場合は、降順で表示されていることを示します。Web ブラウザーの更新ボタンをクリックすると最新の情報に更新できます。

「印刷ジョブ一覧」画面では、印刷ジョブの状況によってジョブが色分けされて表示されます。

- 直接印刷が却下されたときは、濃いオレンジ色で表示されます。
- 直接印刷が行われたときは、薄いオレンジ色で表示されます。
- ユーザー情報がデータベースに登録されていないユーザーからの印刷ジョブは、黄色で表示されます。

「印刷ジョブ一覧」画面に表示される項目の詳細は表 1 を参照してください。

表 1 印刷ジョブ一覧の項目説明

No	項目	説明
1	ジョブ ID	印刷ジョブの識別番号。ISec サーバーが印刷ログをデータベースに保存する際に決定します。ジョブ ID をクリックすると、印刷ジョブの詳細情報が表示されます。
2	状況	印刷ジョブの印刷状況。次のいずれかが表示されます。 印刷要求済み 直接印刷却下済み 直接印刷済み
3	日付	クライアント PC 上で印刷ジョブを実行した日時(プリンターから出力された日時ではありません)。厳密には、アプリケーションが ISec ドライバーに印刷データを渡し始めた日時です。YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式で表示されます。
4	ユーザー名	印刷ジョブを実行したユーザー名。 Windows のログオンに使っているユーザー名です。 Windows のコマンドプロンプトで「net config workstation」を実行すると、クライアント PC 上で現在使っているユーザー名を確認できます。 ISec ドライバーを使って印刷した直後の印刷キュー画面(「プリンタと FAX」画面の「IBM ISec Driver」をダブルクリックすると表示されます)では、「所有者」にユーザー名が表示されます。
5	ドキュメント名	印刷ジョブの名前。印刷に使ったアプリケーションによってドキュメント名が異なります。

		ISec ドライバーの印刷キュー画面（「プリンタと FAX」画面の「IBM ISec Driver」をダブルクリックすると表示されます）では、「ドキュメント名」の欄に表示されます。
6	印刷枚数	印刷ジョブで出力した枚数。両面印刷のときは、ISec ドライバーのプロパティ→「環境設定」タブの設定によってカウント方法が決まります。直接印刷のときは表示されません。
7	累計印刷枚数	クライアント PC に ISec ドライバーをインストールしてから現在までにユーザーが印刷出力した枚数の総計。直接印刷の枚数は含まれません。このデータは、ISec サーバーのデータベースに保存されています。

この画面から、印刷ジョブの詳細情報の表示やデータのダウンロードができます。手順の詳細については、5.4.1節の『印刷ジョブの内容を表示する』および5.4.2節の『印刷ジョブ情報をダウンロードする』を参照してください。

5.4.1 印刷ジョブの内容を表示する

印刷ジョブの詳細情報を表示します。

印刷ジョブの詳細情報を表示する手順は次のとおりです。


1. 「印刷ジョブ一覧」画面で詳細情報を表示したいジョブのジョブ ID をクリックします。
 「ドキュメント情報の表示」画面が表示され、その印刷ジョブに関連する詳細情報が確認できます。



図 7 「ドキュメント情報の表示」画面

注: 上の画面はユーザーメニューから表示していますが、システム管理者メニューから表示しても同じ情報が表示されます。

表 2 「ドキュメント情報の表示」画面の項目説明

No	項目	説明
【ドキュメント情報の表示】		
1	ジョブ ID	印刷ジョブの識別番号。ISec サーバーが印刷ログをデータベースに保存する際に決定します。
2	状況	印刷ジョブの印刷状況。次のいずれかが表示されます。 印刷要求済み 直接印刷却下済み 直接印刷済み
3	日付	ISec サーバーが印刷ログを記録した日付 (プリンターから出力された日付ではありません)。YYYY/MM/DD の形式で表示されます。
4	時刻	ISec サーバーが印刷ログを記録した時刻 (プリンターから出力された時刻ではありません)。hh:mm:ss の形式で表示されます。
5	ユーザー名	印刷ジョブを実行したユーザー名。 Windows のログオンに使っているユーザー名です。 Windows のコマンドプロンプトで「net config workstation」を実行すると、クライアント PC 上で現在使っているユーザー名を確認できます。 ISec ドライバーを使って印刷した直後の印刷キュー画面 (「プリンタと FAX」画面の「IBM ISec Driver」をダブルクリックすると表示されます) では、「所有者」にユーザー名が表示されます。
6	コンピューター名	印刷ジョブを実行したコンピューターの名前。 NetBIOS 名に一致します。Windows のコマンドプロンプトで「net config workstation」を実行すると表示されます。コントロールパネル→システム→「コンピューター名」で指定します。
7	IP アドレス	印刷ジョブを実行したコンピューターの IP アドレス。 ISec は IPv4 だけをサポートします。IPv6 はサポートしていません。 VPN を使用しているときなどで、クライアント PC が複数の IP

		<p>アドレスを持っていることがあります。このときは、最初に見つかった IP アドレスが表示されます。Windows のコマンドプロンプトで「ipconfig」コマンドを実行すると表示されます。</p>
8	ホスト名	<p>印刷ジョブを実行したコンピューターのホスト名。</p> <p>DNS を使っているときは、FQDN (Fully Qualified Domain Name) に一致します。</p> <p>クライアント PC 上に hosts ファイルが存在するときは、IP アドレスの直後に記述されます。</p> <p>複数のホスト名が割り当てられているときは、ISec は最初に見つかったホスト名を使います。</p> <p>Windows のコマンドプロンプトで「net config workstation」を実行すると「フルコンピュータ名」として表示されます。</p> <p>コントロールパネル→システム→「コンピュータ名」で「フルコンピュータ名」として表示されます。</p>
9	MAC アドレス	<p>印刷ジョブを実行したコンピューターの MAC アドレス。</p> <p>XX-XX-XX-XX-XX-XX (XX は大文字の 16 進数) の形式で表示されます。</p> <p>クライアント PC のネットワーク・アダプター・カードが持っている識別番号です。</p> <p>Windows のコマンドプロンプトで「ipconfig /all」を実行すると「Physical Address」として表示されます。</p>
10	印刷開始日時	<p>アプリケーションが ISec ドライバーに印刷データを渡し始めた日時。YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式で表示されます。</p>
11	印刷終了日時	<p>アプリケーションが ISec ドライバーに印刷データを渡し終えた日時。YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式で表示されます。</p> <p>これは Windows でアプリケーションが処理が終了した日時です。プリンターで印刷が終了した日時ではありません。</p>
12	ドキュメント名	<p>印刷ジョブの名前。印刷に使ったアプリケーションによってドキュメント名が異なります。</p> <p>ISec ドライバーの印刷キュー画面（「プリンタと FAX」画面の「IBM ISec Driver」をダブルクリックすると表示されます）では、「ドキュメント名」の欄に表示されます。</p>
13	今回印刷した枚数	<p>印刷ジョブで出力した枚数。両面印刷のときは、ISec ドライバーのプロパティ→「環境設定」タブの設定によってカウント方法が決まります。（注 1）</p>

14	用紙名	<p>印刷ジョブに使った用紙の種類 (A4、B5 など) が表示されます。 (注 1)</p> <p>アプリケーションからの印刷時に設定画面 (ファイル→ページ設定 など、アプリケーションによって異なります) で指定したものが表示されます。</p> <p>Windows 上で使える用紙名は、「プリンタと FAX」画面→「ファイル」メニュー→サーバーのプロパティ→「用紙」タブで確認できます。</p>
15	用紙サイズ	印刷ジョブに使った用紙のサイズ。(注 1)
16	カラー/モノクロ	<p>印刷ジョブの色指定 (カラーまたはモノクロ)。(注 1)</p> <p>印刷時にモノクロを指定しても、印刷ログには「カラー」と記録されることがあります。一部のアプリケーションは、独自の方法でカラーからモノクロ印刷ジョブを生成するため、このような現象が起きます。</p>
17	両面印刷	<p>印刷ジョブの両面印刷指定。次のいずれかが表示されます。(注 1)</p> <p>片面印刷</p> <p>短辺とじ両面印刷</p> <p>長辺とじ両面印刷</p>
18	部数	<p>印刷部数。(注 1)</p> <p>印刷時に「部単位で印刷」を指定したときは、複数部数を指定しても、「部数=1」と記録されることがあります。アプリケーションが独自に「部単位で印刷」の機能を実現しているときに、この現象が起ることがあります。</p>
19	プリンター名	<p>出力先のプリンター・ドライバー名。</p> <p>ISec ドライバーの印刷設定画面→「基本設定」タブで指定したプリンター名です。</p> <p>クライアント PC の「プリンタ(と FAX)」画面に表示されています。</p>
20	ポート名	<p>実プリンター・ドライバー (「基本設定」タブで指定しているプリンター・ドライバー) が使っている出力先の印刷ポート名。</p> <p>クライアント PC の「プリンタ(と FAX)」画面→実プリンター・ドライバーを右クリック→プロパティ→「ポート」タブで確認できます。</p>
21	アプリケーション	印刷ジョブを実行したアプリケーションの名前。この情報は表示さ

		れないことがあります。
22	オペレーティング・システム	印刷ジョブを実行したオペレーティング・システム。直接印刷のときだけ表示されます。
23	ヘッダー印刷	ヘッダー印刷の有無。(注 1)
24	フッター印刷	フッター印刷の有無。(注 1)
25	ウォーターマーク	ウォーターマーク印刷(背景印刷)の有無。(注 1)
26	今までの累計印刷枚数	クライアント PC に ISec ドライバーをインストールしてから現在までにユーザーが印刷出力した枚数の総計。直接印刷の枚数は含まれません。このデータは、ISec サーバーのデータベースに保存されています。
27	グループ管理者名	グループ管理者のユーザー名。
28	備考	データベースに登録されていないユーザーが実行した印刷ジョブは、この欄にユーザー名が表示されます。
【製品管理情報】		
29	ISec クライアント バージョン	クライアント PC にインストールされている ISec ドライバーのバージョン。
30	ドライバー設定ファイル バージョン	ドライバー設定ファイル(構成情報ファイル [IBMISCFG.XML] とウォーターマーク設定ファイル [IBMISWMP.CFG])のバージョン。
31	データ通信の一時保留	ローカルログ機能を使って、印刷ログをクライアント PC に一時保留したかどうかが表示されます。
注 1: 直接印刷の場合は、この項目は表示されません。		

5.4.2 印刷ジョブ情報をダウンロードする

印刷ジョブ一覧の情報をCSV(カンマ区切りテキスト)形式でダウンロード(エクスポート)します。ダウンロードしたファイルには、各ジョブIDについて表 2 に示した情報が書き出されます。

ダウンロードの手順は次のとおりです。

1. 「印刷ジョブ一覧」画面「CSV 形式でダウンロードする」ボタンをクリックします。

注: 見出しも含めてデータをダウンロードしたい場合は、「見出しを含める」にチェックマークを付けてから「CSV 形式でダウンロードする」ボタンをクリックします。

➡ 「ファイルのダウンロード」画面が表示されます。

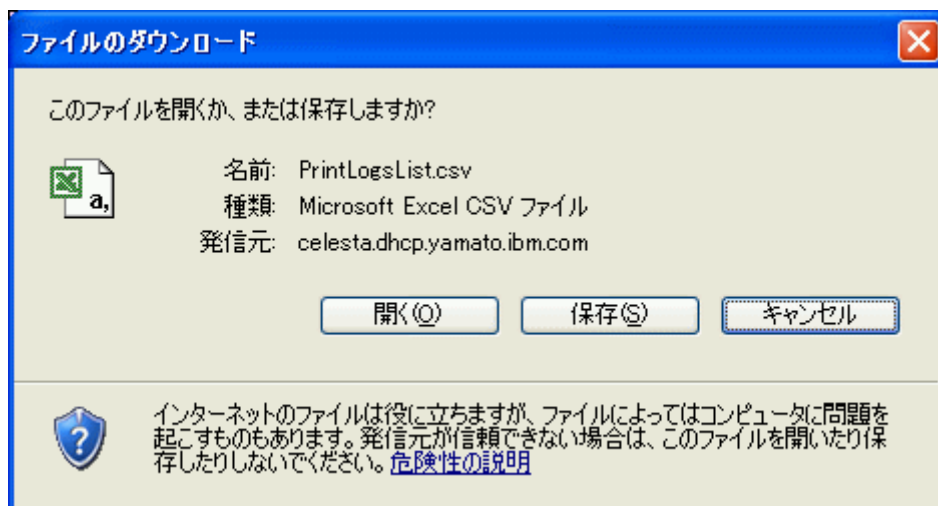


図 8 「ファイルのダウンロード」画面

2. 「保存」ボタンをクリックします。
➡ 「名前を付けて保存」画面が表示されます。
3. ファイルの場所とファイル名を指定して、「保存」ボタンをクリックします。
➡ CSV 形式のファイル(ファイル拡張子が .csv)が保存されます。

5.5 印刷ログを削除する

不要になった印刷ログを、期間を指定して削除します。

印刷ログを削除する手順は次のとおりです。

1. トップメニューで、「システム管理者メニュー」の「印刷ログを削除する」をクリックします。

➡ 「印刷ログの削除」画面が表示されます。

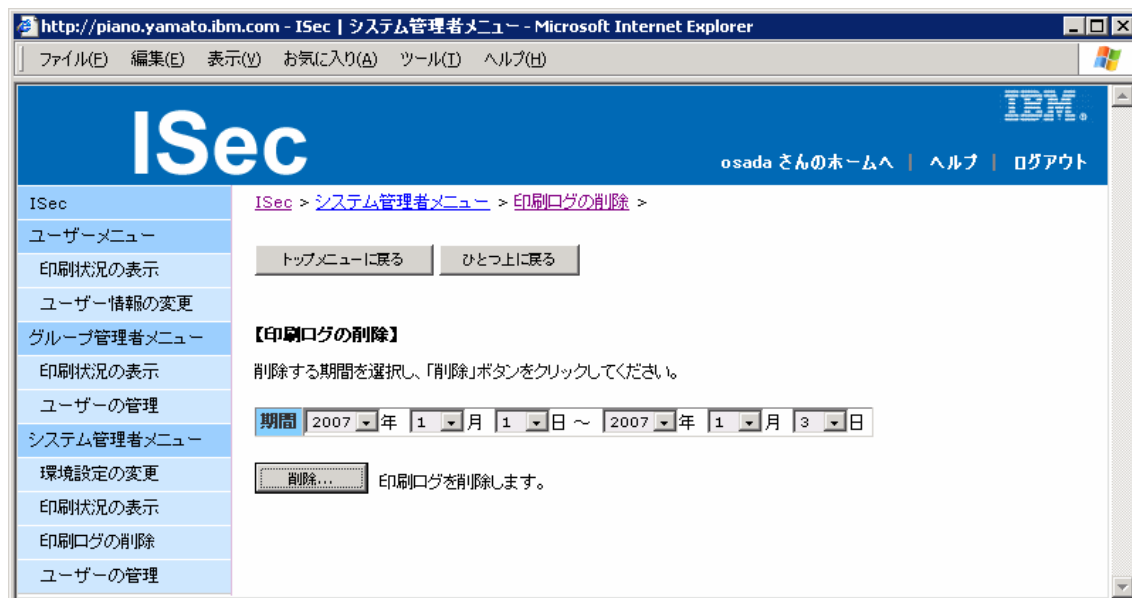


図 9 「印刷ログの削除」画面

2. 削除する期間を指定します。
3. 「削除」ボタンをクリックします。

➡ 確認画面が表示されます。

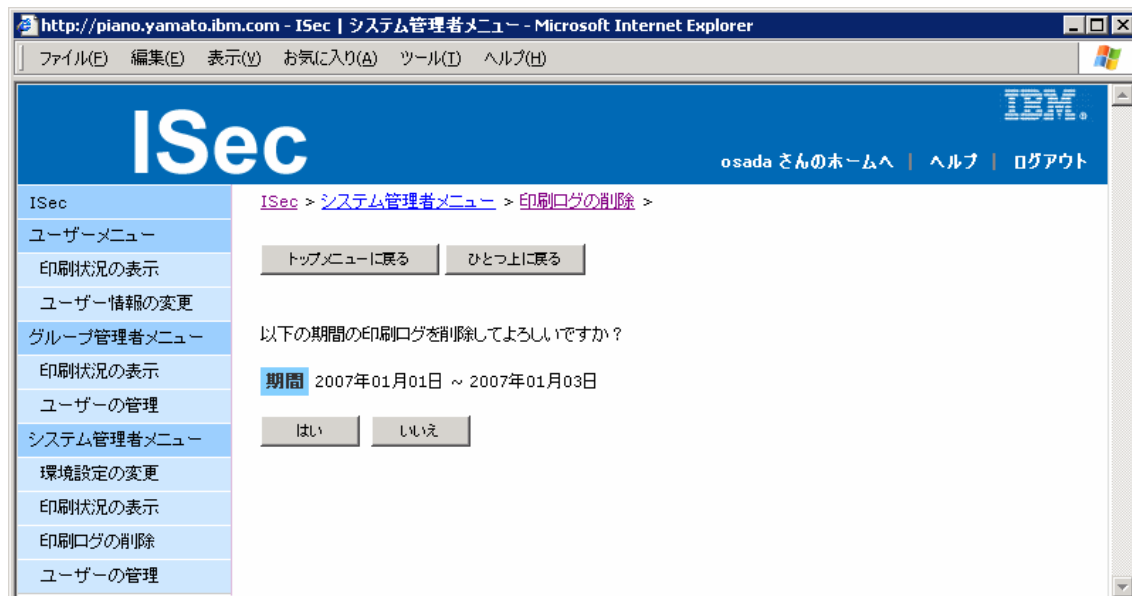


図 10 「印刷ログの削除」—確認画面

4. 確認画面で期間を確認し、「はい」をクリックします。

- ➡ 「印刷ログを正常に削除しました」というメッセージが表示され、指定した期間の印刷ログが削除されます。

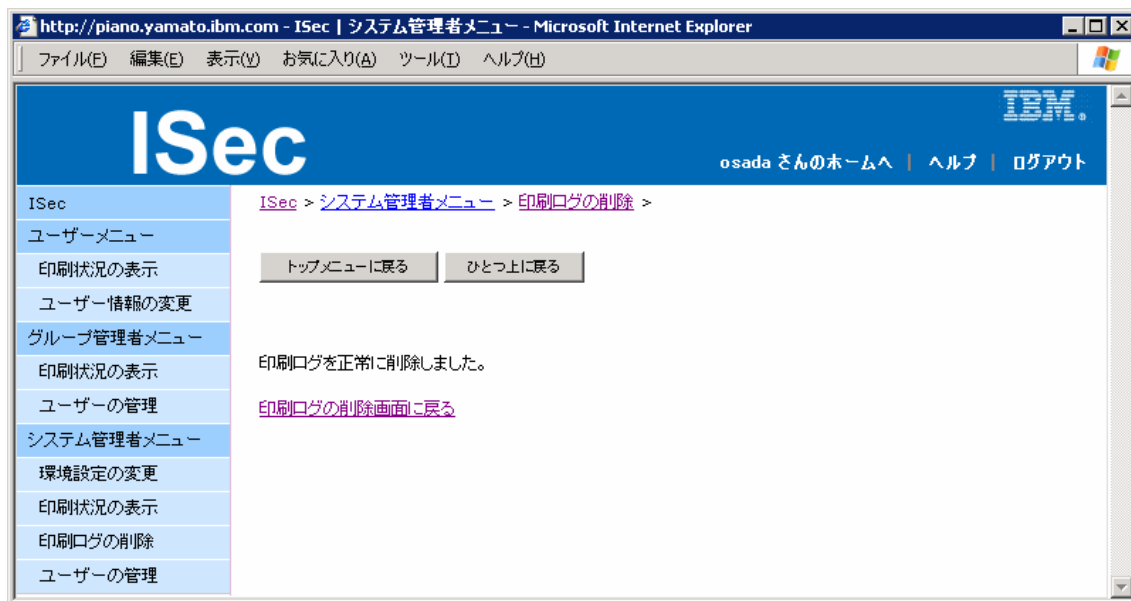


図 11 「印刷ログの削除」—結果画面

5.6 ユーザーを管理する

ユーザーの管理を行います。

ユーザーの管理を行う手順は次のとおりです。

1. トップメニューで、「システム管理者メニュー」の「すべてのユーザーを管理する」をクリックします。

➡ 次の画面が表示されます。

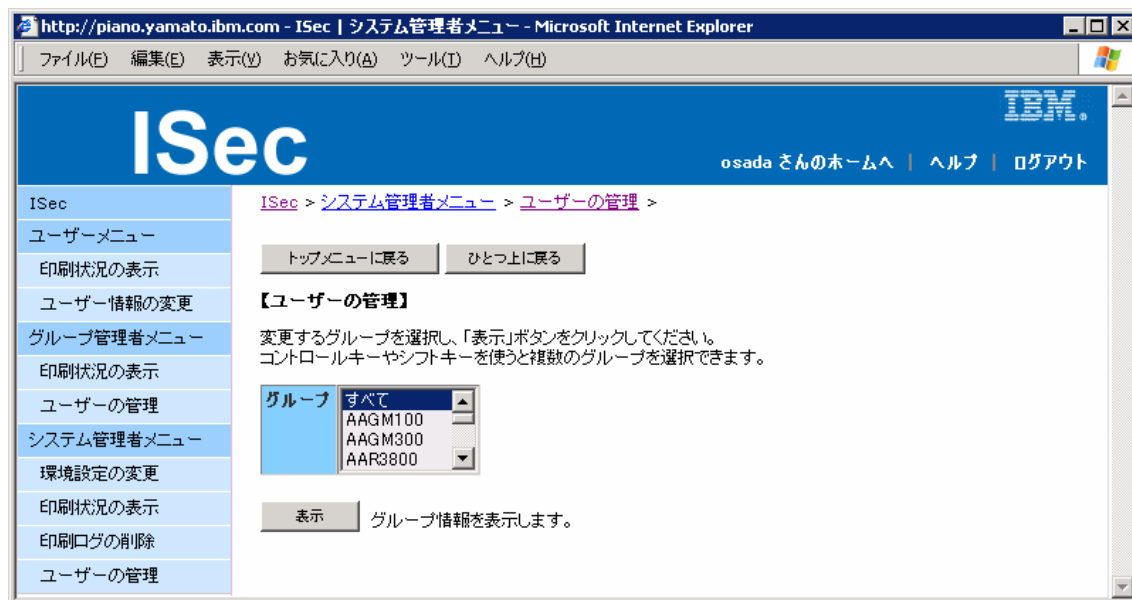


図 12 「ユーザーの管理」—グループの選択画面

2. 変更するグループを選択し、「表示」ボタンをクリックします。複数のグループを選択したいときは、Ctrl キーや Shift キーを押しながら選択します。

➡ 「ユーザーの管理」画面が表示されます。



図 13 「ユーザーの管理」画面

グループ、ユーザー、グループ管理者列の各見出しをクリックすると、表示順をソートできます。すでにソートキーになっている見出しを再度クリックすると、昇順と降順が入れ替わって表示されます。見出し行に▲が表示されている場合は、そのソートキーによって昇順で表示されていることを示します。▼が表示されている場合は、降順で表示されていることを示します。

「ユーザーの管理」画面に表示される項目の詳細は表 3 を参照してください。

表 3 「ユーザーの管理」画面の項目説明

No	項目	説明
1	グループ	ユーザーが属するグループ名。
2	ユーザー	ユーザー名。クリックすると「ユーザー情報の変更」画面が表示されます。

3	アクセス権	<p>そのユーザーに与えられているアクセス権。次のいずれかの権限を持ちます。</p> <p>ユーザー: ユーザー自身の印刷ジョブの表示と登録情報の変更ができます。</p> <p>グループ管理者: そのグループに属するユーザーの印刷ジョブの表示と登録情報の変更ができます。</p> <p>システム管理者: すべてのユーザーの印刷ジョブの表示と登録情報の変更のほか、環境設定や印刷ログの削除ができます。</p>
4	グループ管理者	グループの管理者名。

3. 情報を変更したいユーザーの名前をクリックします。

➡ 「ユーザー情報の変更」画面が表示されます。

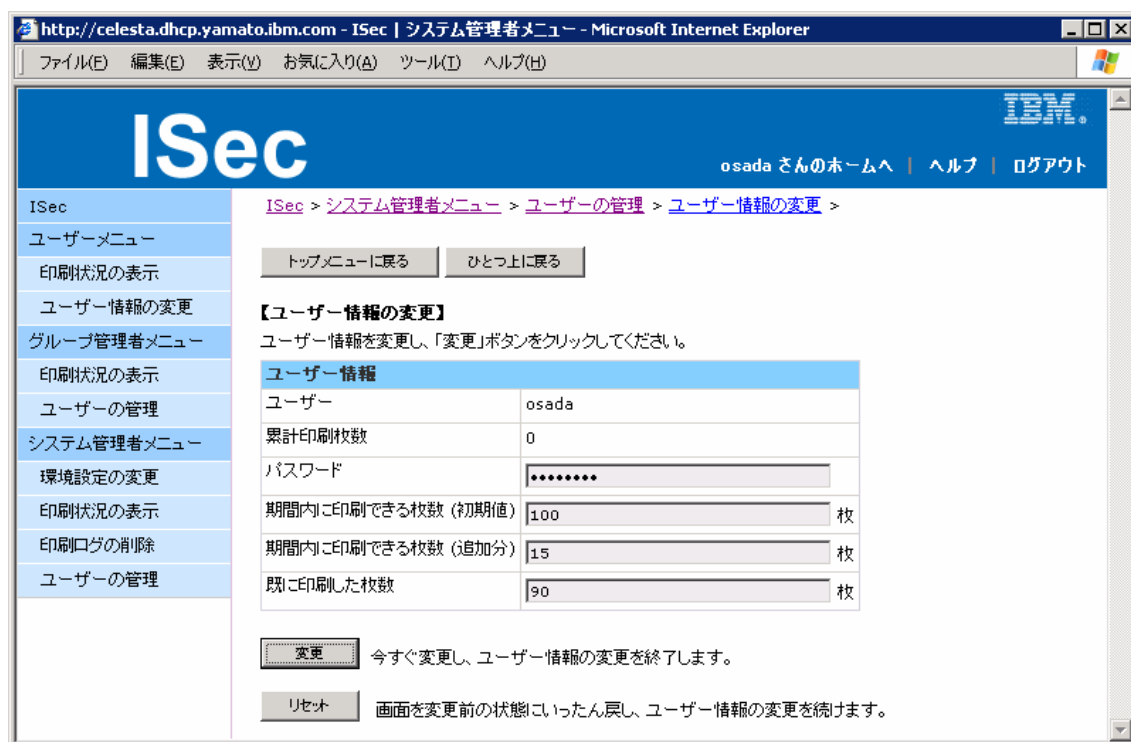


図 14 「ユーザー情報の変更」画面

4. 「パスワード」、「期間内に印刷できる枚数 (初期値)」、「期間内に印刷できる枚数 (追加分)」、「既に印刷した枚数」を必要に応じて指定します。

パスワード

ユーザーが ISec サーバーにログインするためのパスワードを指定します。次の点に注意してください。

(1) この項目は、サーバー制御ファイル (IBMISSVR.CFG) の WebEditPassword

に Yes を設定しているときだけ表示されます。

(2) パスワードに使える文字は、半角の英数字と次の特殊記号です。

； / ? : @ & = + \$, - _ . ! ~ * ' () % < > # " `

(3) パスワードの長さは、1 文字以上、255 文字以下です。パスワードは大文字と小文字を区別するので注意してください。

(4) ここで指定するパスワードは、ISec サーバーの Web ページにログインするためのパスワードです。Windows にログオンするためのパスワードではありません。それぞれ別のパスワードを設定できます。ユーザー名については、Windows にログオンするユーザー名と、ISec サーバーにログインするユーザー名は、同じです。

期間内に印刷できる枚数(初期値)

設定した期間内にそのユーザーが印刷できる制限枚数の初期値を指定します。指定できる値は 0 から 65535 までです。0 を指定すると、そのユーザーは印刷ができなくなります。

期間内に印刷できる枚数(追加分)

設定した期間内にそのユーザーが印刷できる制限枚数の追加分を指定します。指定できる値は 0 から 65535 までです。

既に印刷した枚数

ユーザーがすでに印刷した枚数を指定します。指定できる値は 0 から 65535 までです。

注:「期間内に印刷できる枚数(初期値)」、「期間内に印刷できる枚数(追加分)」、「既に印刷した枚数」は印刷枚数管理機能をインストールしている場合に表示されます。

5. 変更する項目を指定したら「変更」をクリックします。

➡ 新しい設定が保存されます。



図 15 「ユーザー情報の変更」—結果画面

第6章 困ったときには

6.1 よくある質問と回答

ISec サーバーに関してよくある質問と回答を記しています。

1. 【質問】

使用中の ISec サーバーのバージョンや、導入済みの機能は、どこを見ればわかりますか？

【回答】

ISec サーバーのトップメニュー（ログインした直後に表示される画面）の右下に表示されます。

2. 【質問】

ISec サーバーを再起動した直後や、インストールした直後に、ISec サーバーの Web ページを表示しようとすると、時間がかかります。

【回答】

これは仕様です。5.1.2節の『ISec サーバーの起動直後にログインページを表示する』を参照してください。

3. 【質問】

クライアント PC で ISec ドライバーを使って印刷を行うとき、1回目の印刷に時間がかかります。

【回答】

次のときは、必ず一度 Web ページ（ログインページ）を表示してください。

(1) ISec サーバーをインストールした直後

(2) ISec サーバーを再起動した直後

(3) インターネット インフォメーション サービス (IIS) を再起動した直後 (iisreset など)

詳しくは、5.1.2節の『ISec サーバーの起動直後にログインページを表示する』を参照してください。

4. 【質問】

Web ページの「システム管理者メニュー」→「環境設定の変更」で「接続タイムアウト」として 60 分を指定しました。ところが、実際には 60 分よりも前にタイムアウトしてしまいます。

【回答】

ISec サーバーの設定画面で指定する「タイムアウト」の値は、インターネット インフォメーション サービス (IIS) が持っているタイムアウト値よりも小さいときだけ有効です。IIS のタイムアウト

ト値より大きい値を指定すると、IIS のタイムアウトが先に来るので、無効になります。「接続タイムアウト」の指定を有効にするためには、IIS のタイムアウト値を大きくしてください。

IIS のタイムアウト値は次の手順で指定します。

(1) Windows Server 2003 および Windows Server 2003 R2 のとき

管理ツール

→インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ

→画面左側の「アプリケーションプール」

→DefaultAppPool を右クリック

→プロパティ

→「パフォーマンス」タブ

→「☐ アイドルなワーカー プロセスの解放までの待ち時間 (分)」

(2) Windows Vista のとき

管理ツール

→インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ

→画面左側の「アプリケーションプール」

→DefaultAppPool を右クリック

→「アプリケーションプールの既定値の設定」

→「アイドル状態のタイムアウト(分)」

(3) Windows XP のとき

管理ツール

→インターネットインフォメーションサービス

→画面左側のコンピューター名→Web サイト→既定の Web サイト→ISec を右クリック

→プロパティ

→「構成」ボタン

→「オプション」タブ

→「セッションのタイムアウト」

(4) Windows 2000 Server のとき

管理ツール

→インターネットインフォメーションサービス

→画面左側の「ISec」を選択

→右クリック

→プロパティ

→「仮想ディレクトリ」タブ

→「構成」ボタン

→「セッションのタイムアウト」

(5) Windows 2000 Professional のとき

管理ツール

→インターネットインフォメーションサービス

→画面左側のコンピューター名を選択

→右クリック

→プロパティ

→「インターネットインフォメーションサービス」タブ

→「編集」ボタン

→「ホームディレクトリ」タブ

→「構成」ボタン

→「アプリケーションのオプション」タブ

→「セッションのタイムアウト」

5. 【質問】

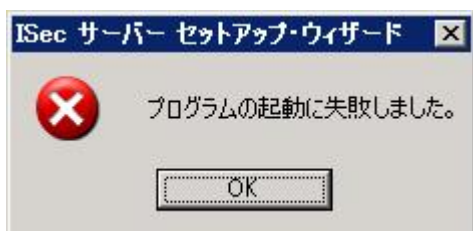
Web ページの「システム管理者メニュー」→「環境設定の変更」で「変更」ボタンをクリックしました。ところが、画面が変化せず、処理が先に進みません。

【回答】

「印刷枚数をリセットするタイミング」を選択しているかどうかを確認してください。「印刷枚数管理機能」の「☐ 有効にする」にチェックを入れたときは、「印刷枚数をリセットするタイミング」として「日単位」、「週単位」、「月単位」、「年単位」のどれかを選択する必要があります。

6. 【質問】

ISec サーバーのインストール・プログラム (SETUP.EXE) を起動すると、次のエラーメッセージが表示され、インストールができません。

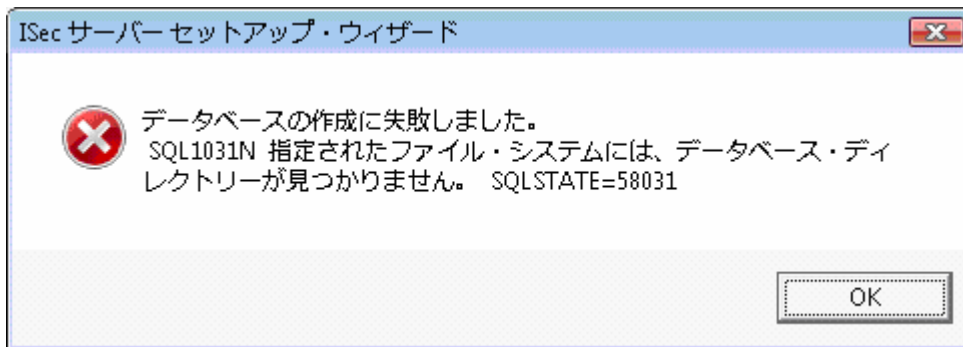


【回答】

ISec サーバーの配布パッケージをネットワーク・ドライブに置いていないか確認してください。
ISec サーバーは、ネットワーク・ドライブからインストールできません。ローカル・ドライブに配布パッケージを置いてください。

7. 【質問】

ISec サーバーのインストール中に次のエラーが表示され、インストールができません。



【回答】

IBM DB2 V9.1 の Fix Pack 2 以降をインストールしてください。

8. 【質問】

ISec サーバーの Web ページを表示しようとするとき「Server Error in 'ISec' Application」というエラーメッセージが表示されます。

【回答】

インターネット インフォメーション サービス (IIS) と Microsoft .NET Framework 2.0 のインストール順序が誤っています。インターネット インフォメーション サービス (IIS) をインストールした後に、Microsoft .NET Framework 2.0 をインストールしてください。この順序を誤ると、上記のエラーメッセージが表示されます。

9. 【質問】

ISec サーバーの Web ページを表示しようとするとき、次のメッセージが表示されます。

「ページを表示できません。検索中のページは現在利用できません」

または

「ページを表示できません。検索中のページには問題があるため表示できません」

【回答】

ISec サーバー上で、必要なネットワークポートが、Windows ファイアウォールにより閉じられている可能性があります。Windows ファイアウォールを一時的に無効にして、問題が解決するかどうかを確認してください (無効にするとセキュリティのリスクが増大します)。解決したときは、Windows ファイアウォールを再度有効にしてから、ファイアウォールの設定を変更してください。次のホームページを参考にしてください。

<http://support.microsoft.com/kb/931207>

<http://support.microsoft.com/kb/931207/en-us/>

10. 【質問】

ISec サーバーの Web ページを表示しようとするとき、次のメッセージが表示されます。

ページが見つかりません

検索中のページは、削除されたか、名前が変更されたか、または一時的に利用できない可能性があります。

対処方法

- ブラウザのアドレスバーに表示された Web サイト アドレスの綴りと形式が正しいことを確認してください。
- リンクをクリックしてこのページに到達した場合は、Web サイトの管理者に連絡して、リンクの形式が正しくないことを通知してください。
- 別のリンクへアクセスするには、[戻る](#) をクリックしてください。

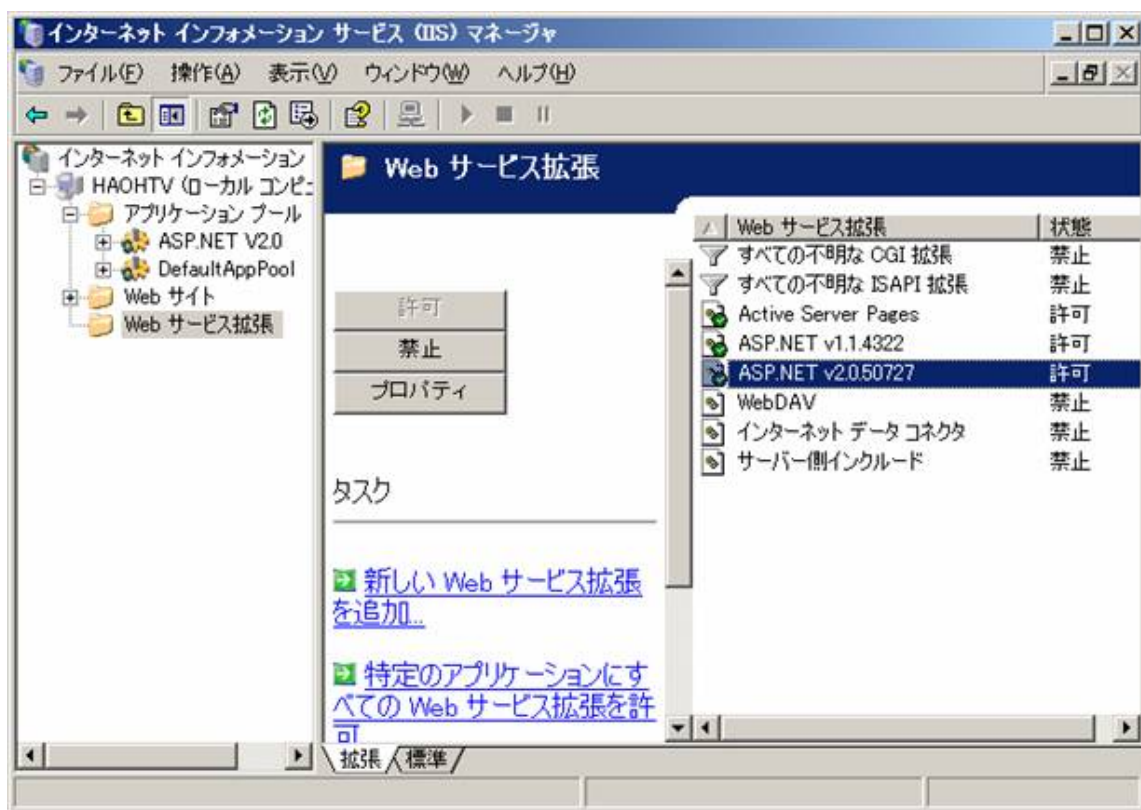
HTTP エラー 404 - ファイルまたはディレクトリが見つかりません。
インターネット インフォメーション サービス (IIS)

技術情報 (サポート担当者用)

- 「[Microsoft 製品サポート サービス](#)」で、"HTTP" および "404" の文字列によりタイトルを検索してください。
- IIS マネージャ (inetmgr) からアクセスできる IIS の [ヘルプ] を開き、「Web サイトのセットアップ」、「一般的な管理タスク」、および「カスタム エラー メッセージについて」というトピックを検索してください。

【回答】

ISec サーバーが動作しているコンピュータで、ASP サービスが開始していない可能性があります。インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャを開き、画面左側の「Web サービス拡張」を選んでから、ASP.NET を開始してください。



11. 【質問】

IIS サーバーの Web ページを表示しようとする、次のメッセージが表示されます。

[日本語で表示されるとき]

'IIS' アプリケーションでサーバー エラーが発生しました。

セッション状態要求をセッション状態サーバーに対して作成できませんでした。ASP.NET 状態サービスが開始されていて、クライアントとサーバーのポートが同じであることを確認してください。(以下略)

[英語で表示されるとき]

Server Error in 'IIS' Application.

Unable to make the session state request to the session state server. Please ensure that the ASP.NET State service is started and that the client and server ports are the same. (以下略)

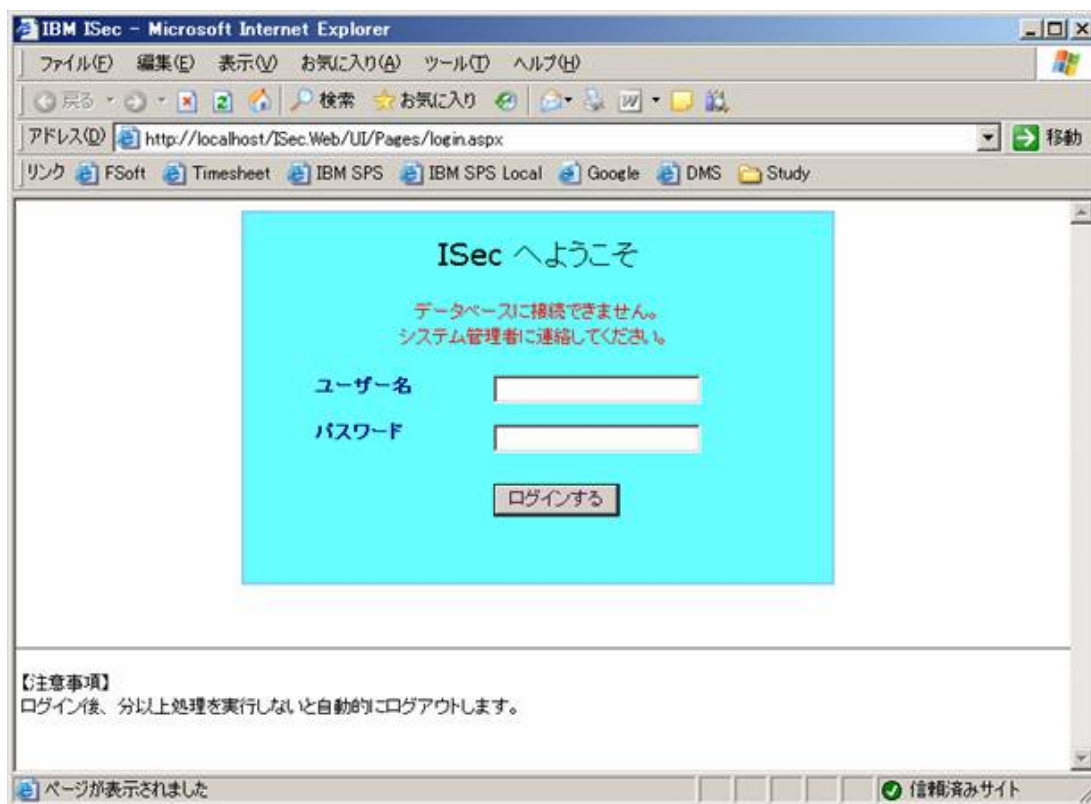
【回答】

Windows のサービスプログラムである「ASP.NET State Service」(ASP.NET 状態サービス)が停止していることが原因です。「ASP.NET State Service」を開始してください。

IIS サーバー V1.1.0.0 FixPack 2 (V1.1.3.0) 以後は、「ASP.NET State Service」を利用します。FixPack 2 をインストールすると、「ASP.NET State Service」の「スタートアップの種類」が「手動」から「自動」に変わります。何らかの原因で「ASP.NET State Service」が停止すると、Web ページを表示しようとしたときに上記のエラーが表示されます。

12. 【質問】

ISec サーバーの Web ページを表示しようとすると、次のメッセージが表示されます。

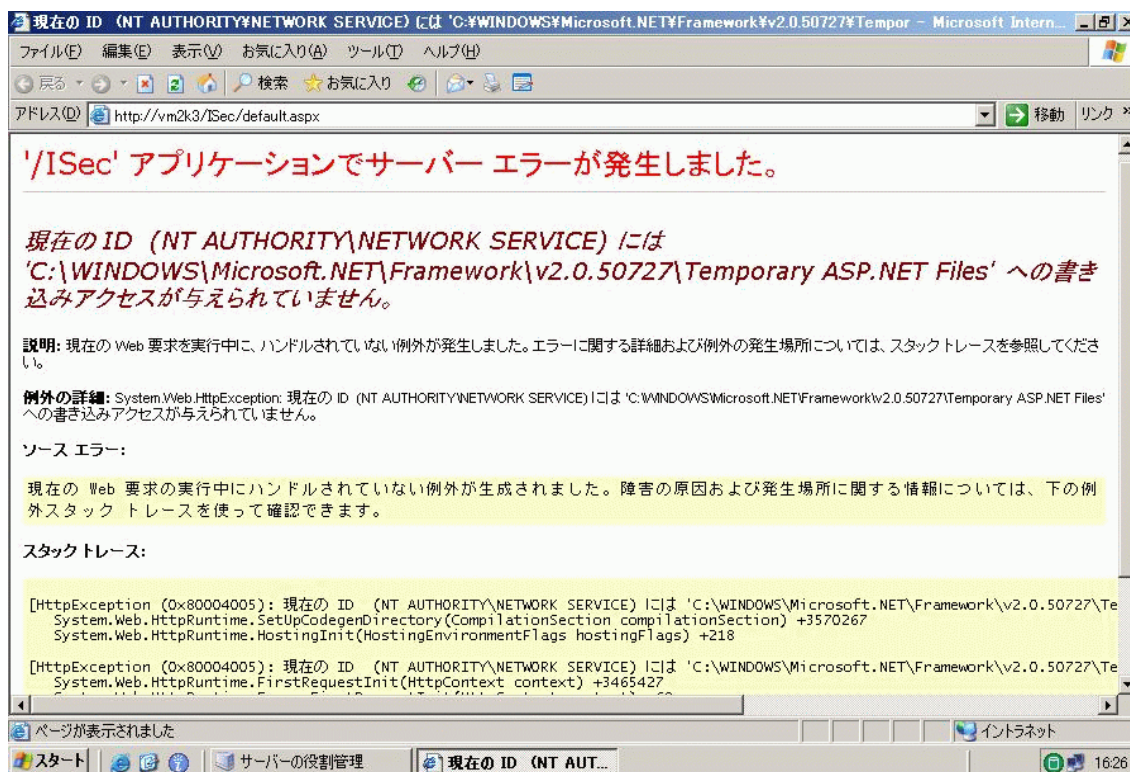


【回答】

ISec サーバーのインストール先フォルダーに置いてある設定ファイルを確認してください。
ISec サーバーの設定ファイルの内容に誤りがあると、上記のエラーが表示されることがあります。

13. 【質問】

ISec サーバーの Web ページを表示しようとすると、次のメッセージが表示されます。



【回答】

2.1節の『前提ソフトウェアをインストールする際の注意事項』を参照してください。

14. 【質問】

「ソフトウェアの自動更新」(IISec ドライバーの自動配布)と「ドライバー設定の自動更新」(設定ファイルの自動配布)は、同時に並行して行えますか？

【回答】

いいえ。「ソフトウェアの自動更新」と「ドライバー設定の自動更新」は、同時に行わないでください。IISec サーバー上で、それぞれの機能用に 2 つの Version.xml ファイルを同時に置くと、適用順序(どちらが先にクライアントに適用されるか)は保証されません。

たとえば「ソフトウェアの自動更新」を適用後に「ドライバー設定の自動更新」を適用したいときは、いったん「ソフトウェアの自動更新」をサーバー上で無効な状態にしてから、「ドライバー設定の自動更新」を有効にしてください。

15. 【質問】

Web ページの「印刷状況の表示」画面で、条件を指定してから「表示」ボタンをクリックすると、「内部エラーが発生しました。システム管理者に連絡してください」というエラーメッセージが表示されます。「印刷ジョブ一覧」画面で「CSV 形式でダウンロードする」ボタンをクリックしたときも、同じエラーメッセージが表示されることがあります。

【回答】

処理対象のデータ量(印刷ログの件数など)が多すぎると、データ照会(query)に時間がかかり、内部的にタイムアウトのエラーが起きることがあります。次のどちらかを行ってください。

■ 対策 1

条件の「期間」をより短く指定して、処理対象の印刷ログの件数を減らしてください(1 カ月を 2 週間にするなど)。

■ 対策 2

次の手順に従い、IBM DB2 のタイムアウト値の設定を変更してください。

(1) タイムアウト値を指定する設定ファイル db2cli.ini をテキストエディター(メモ帳など)で開いてください。db2cli.ini ファイルは、通常は次のフォルダーにあります。

C:\Program Files\IBM\SQLLIB

(2) このファイルの内部に、次の 2 行を追加してください。その後、Windows を再起動してください。

<pre>[COMMON] QUERYTIMEOUTINTERVAL=600</pre>
--

【注意】

- ・ 既に QUERYTIMEOUTINTERVAL キーワードを記述しているときは、設定値を増やしてください。
- ・ QUERYTIMEOUTINTERVAL キーワードは、データ照会(query)時のタイムアウト値を指定するものです。単位は秒です。デフォルト(既定値)は 5 秒です。
- ・ Web ページの「システム管理者メニュー」→「環境設定の変更」画面で指定する「接続タイムアウト」との関係に注意してください。QUERYTIMEOUTINTERVAL の値は、Web ページの接続タイムアウトの値よりも小さくしてください。接続タイムアウトの値は、デフォルトでは 10 分です。QUERYTIMEOUTINTERVAL キーワードで 600 (単位は秒なので 10 分を意味します)よりも大きい値を指定すると、データ照会のタイムアウトが起きるよりも前に、接続タイムアウトが起きてしまい、QUERYTIMEOUTINTERVAL の指定が無意味になります。

16. 【質問】

印刷枚数管理機能を使っている ISec サーバーで、コンピューターの日付を進めたり戻したりしても、問題は起きませんか？

【回答】

印刷枚数管理機能を使っているISec サーバーで、システムの日付を変更したときは、次のようにしてください。

■ 日付を未来に進めたとき: iisreset コマンドを実行してください。

■ 日付を過去に戻したとき: Windows を再起動してください。

iisreset コマンドについては、5.1.2節の『ISec サーバーの起動直後にログインページを表

示する』を参照してください。

6.2 イベントログを記録する

ISec サーバーの動作に問題が起きたときは、イベントログにイベント情報が記録されます。

問題報告時に、記録されているイベントの内容をお知らせいただくと、問題の解決が早まることがあります。

デフォルト(既定)では、ISec サーバー(Web ページ生成機能)とインストール・プログラム(SETUP.EXE)の両方について、エラー情報だけを記録します。

イベントログに記録する情報の種類は、サーバー制御ファイル IBMISVR.CFG にシステム管理者が指定できます。詳しくは4.1.1節の『サーバー制御ファイル IBMISVR.CFG を編集する』を参照してください。

6.3 トレース情報を取得する

ISec サーバーの動作に問題が起きたときは、原因を調査する目的で、プログラムの詳細な動作をトレースファイルに記録できます。

デフォルト(既定)では、トレースファイルは作成されません。

問題報告時に、トレースレベルとして「2」または「3」を指定し、トレースファイルを作成して開発元にお送りいただくと、問題の解決が早まる場合があります。

トレースファイルの作成方法や、トレースレベルの指定方法については、4.1.1節の『サーバー制御ファイル IBMISVR.CFG を編集する』を参照してください。

6.4 ISec サーバーを手動でアンインストールする

ISec サーバーのアンインストール(削除)は、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または「アプリケーションの追加と削除」で行ってください。

アンインストール時にエラーが起きるなどの理由で、ISec サーバーを削除できなくなったときの対処方法を説明します。

- まず Windows を再起動し、ほかのプログラムを起動しない状態で、ISec サーバーのアンインストールを再試行してください。

- それでもアンインストールできないときだけ、以下の手順に従ってください。

次の点にご注意ください。

- **【重要】**

以下の手順は、操作を誤ると Windows が起動しなくなったり、データが失われたりする可能性があります。Windows の技術情報に詳しいシステム管理者だけが、自己責任のもとで実行してください。以下の手順に従ったことにより、データの損失、損傷、損害、その他の不利益が発生したとしても、IBM および IBM ビジネス・パートナーは一切の責任を負いません。

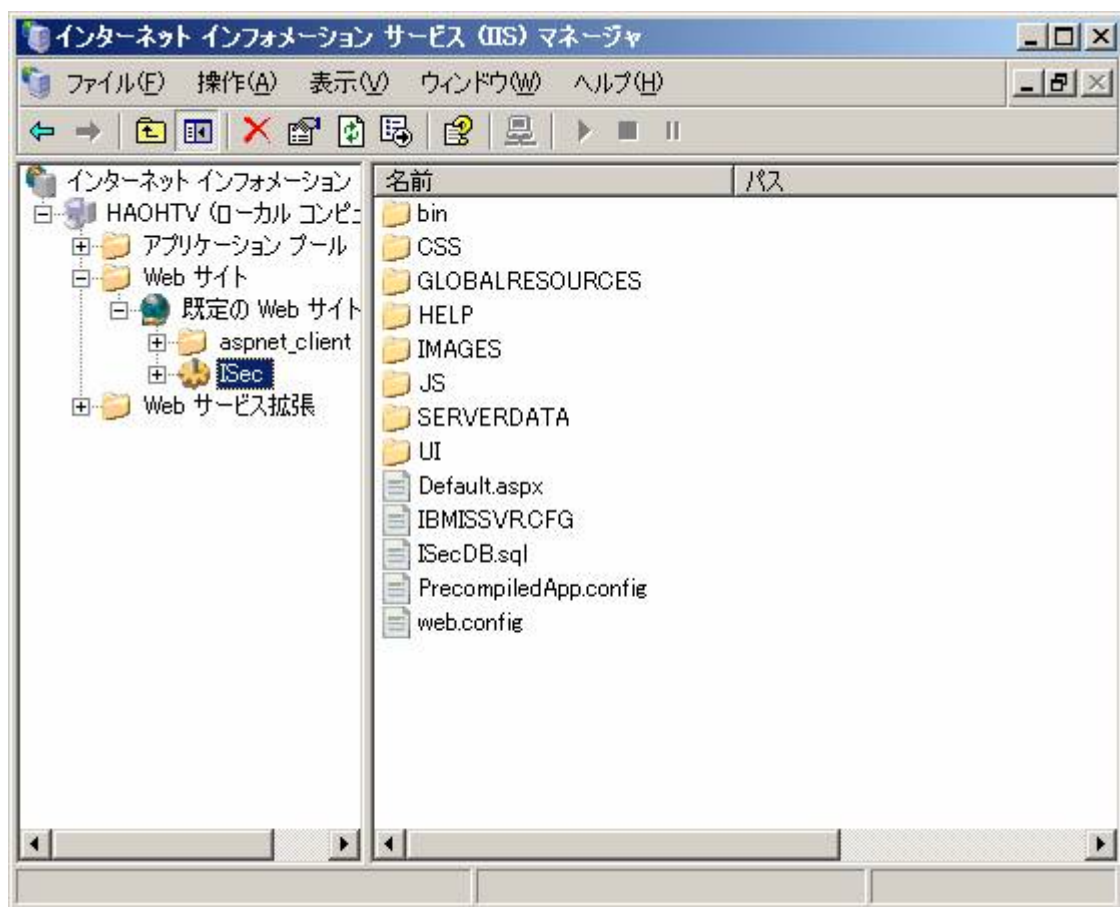
- 以下の各手順でエラーが起きて先に進めないときは、そのたびに Windows を再起動して再試行してください。
- すべての操作は、管理者権限で Windows にログオンしてから実行してください。

■ ISec サーバーを手動でアンインストールする手順

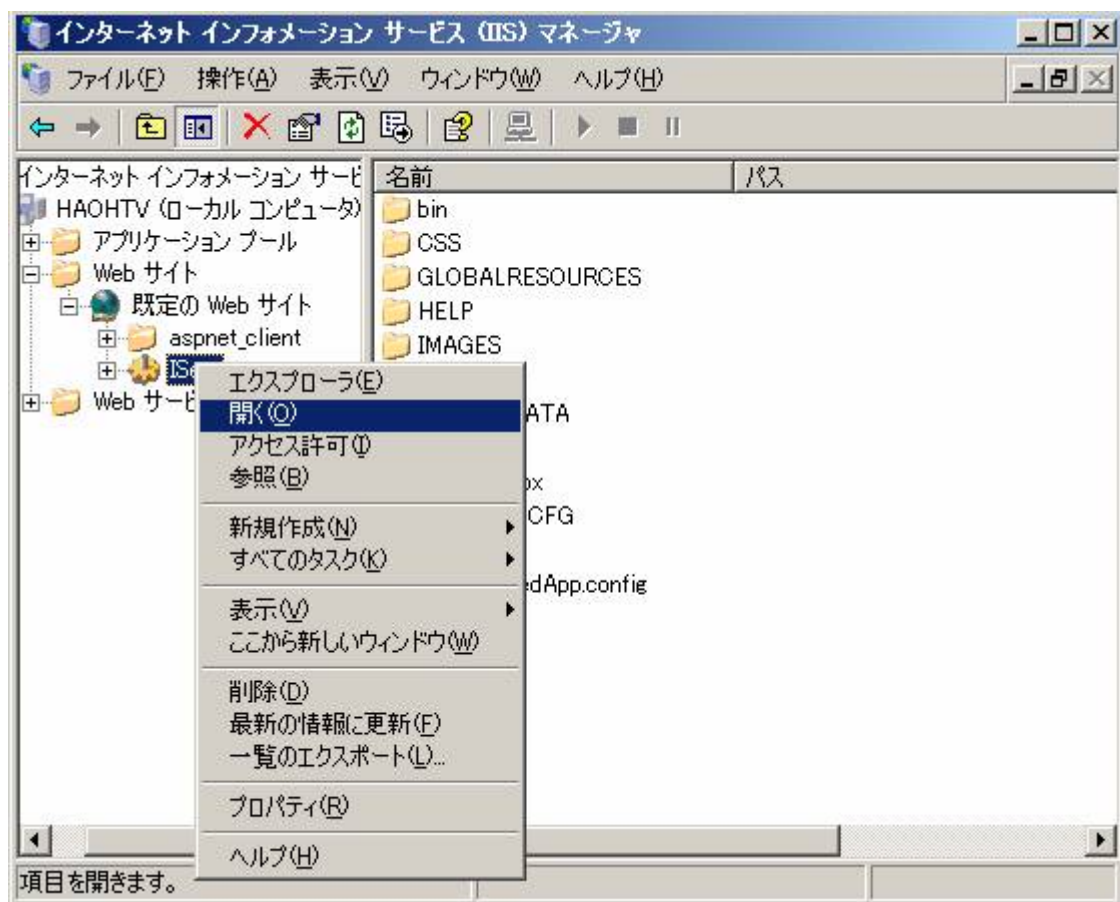
1. 最初に、ISec サーバーのインストール先フォルダーを確認します。

コントロールパネル→管理ツールから「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ」を起動してください。

2. 左側の画面で、「Web サイト」→「既定の Web サイト」→「ISec」の順に選択してください。



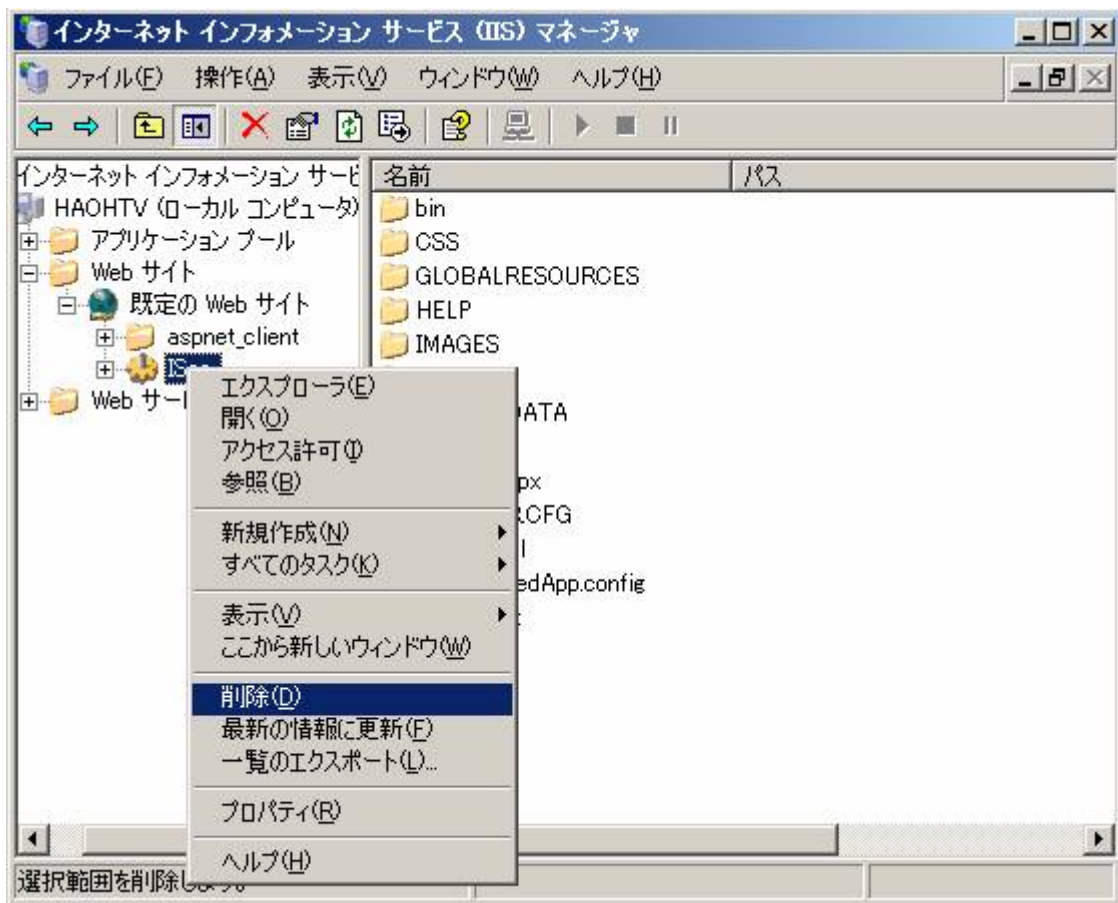
3. 「ISec」を右クリックして「開く」を選んでください。



4. ISec サーバーをインストールしたフォルダーが開かれます。アドレスバーなどを見て、ISec サーバーのインストール先フォルダー名をメモしてください。後の手順で使います。

5. 続いて、インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャを使い、ISec の仮想ディレクトリーを削除します。

画面左側の「ISec」を右クリックして、「削除」を選んでください。

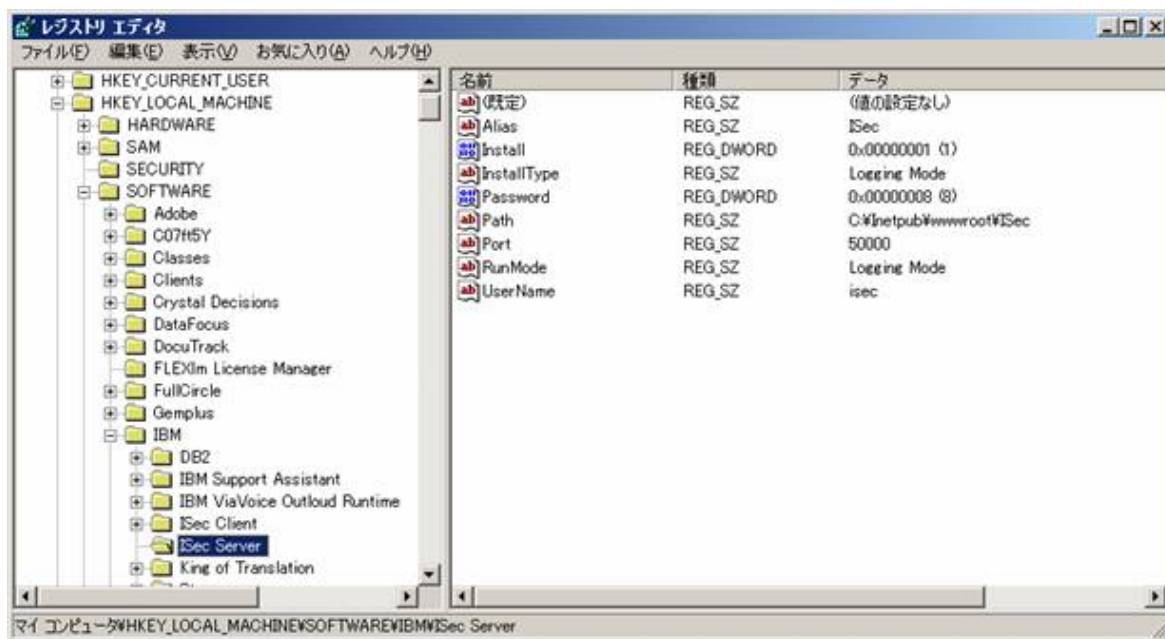


6. 「この項目を削除しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックしてください。



7. 「4.」のステップでメモした、ISec サーバーのインストール先フォルダーを削除してください。
8. 次に、ISec サーバーのレジストリーキーを削除します。
「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」→「regedit」で、レジストリーエディターを起動してください。
次のキーを削除してください。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥IBM¥ISec Server

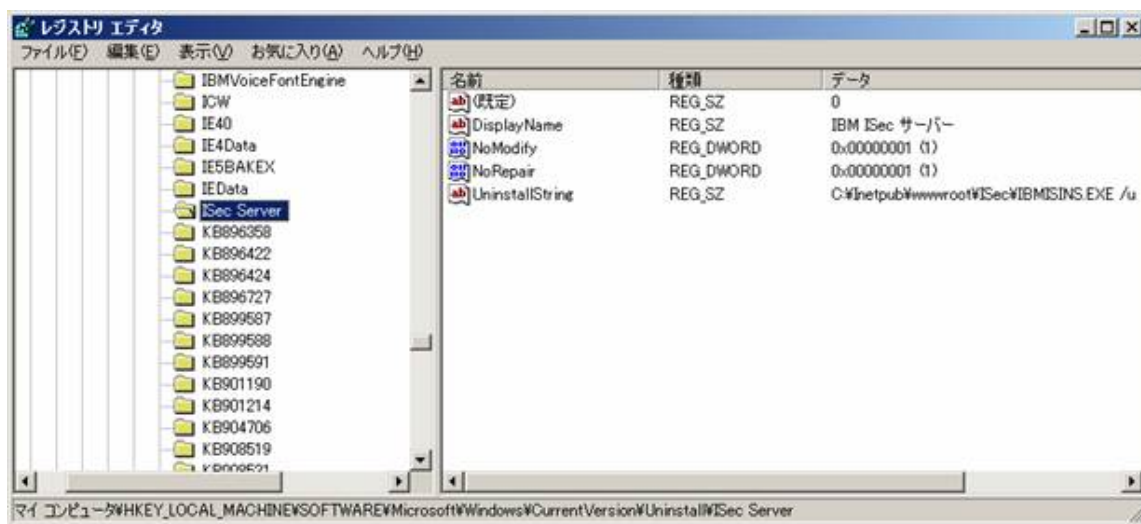


9. 最後にアンインストール情報を削除します。

レジストリーの次のキーを削除してください。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows (次の行に続く)

\CurrentVersion\Uninstall\ISec Server



6.5 問題報告時にお知らせいただきたい情報

問題報告時には、ISec サーバーと ISec ドライバーの両方の情報をお知らせください。

ISec サーバーについては、次の情報が必要です。

- サーバー・コンピューターの機種名、システム BIOS の種類とバージョン、メモリー容量、ハードディスクの空き容量
- サーバー・コンピューターにインストールしてあるオペレーティング・システム (Windows) のバージョン、サービスパックのレベル
- サーバー・コンピューターにインストールしてある IBM DB2 の種類とバージョン
- システムに常駐して動作しているソフトウェア (ウィルス駆除プログラム、ファイアウォール、ISec 以外のセキュリティ対策プログラムなど)
- 問題発生時の処理データ量に関する情報 (クライアント数、ユーザー数、印刷ジョブの数、処理対象の印刷ログの件数など)
- ISec サーバーのバージョン、設定ファイルの内容
- 問題の再現性
- コントロールパネル→管理ツール→イベントビューアで、ISec サーバーに関するイベントが記録されていたらお知らせください。イベントログについては、6.2節の『イベントログを記録する』を参照してください。
- 開発元からトレース情報の提供をお願いすることがあります。トレース情報については6.3節の『トレース情報を取得する』を参照してください。

ISec ドライバーについてお知らせいただきたい情報については、『ISec ドライバー ユーザーズ・ガイド』の「問題報告時にお知らせいただきたい情報」を参照してください。

特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品、プログラム、またはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこれらの IBM 製品、プログラム、またはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及している部分があっても、当該製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらの製品、プログラム、またはサービスの評価および検査はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書で解説される主題に関する特許権(特許出願を含む)、著作権を含む知的所有権を所有していることがあります。本書は、これらの知的所有権について、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権などの許諾については、下記の宛先に、書面による照会状を送付してください。

〒106-0032

東京都港区六本木3丁目2-31

IBM World Trade Asia Corporation

Intellectual Property Law & Licensing

商標

次のものは、IBM Corporation の米国およびその他の国における商標です。

IBM

InfoPrint

その他、本書に掲載されている、ほかの会社名、製品名、およびサービス名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

